| 授業科目名：<br>文学 | 教養科目 | 単位数：2 単位 | 担当教員名：馬見塚　昭久<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|

| Japanese Literature | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018 年度まで：DP1<br>2019 年度から：DP1C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018 年度まで：CCg1n201<br>2019 年度から：CCg1n201 |
|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | — |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：教養科目<br>2019 年度から：教養科目 |
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 |
| 教科書 | 集英社文庫編集部『短編工場』　集英社<br>（収録作品のうち、「ここが青山」「太陽のシール」「陽だまりの詩」「金鵄のもとに」の４作品） |
| 参考文献 | 宮川健郎『物語もっと深読み教室』　岩波ジュニア新書 |

授業の概要

日本の現代文学について、代表的な作家の作品を味わいながら分析的に読解し、文学に対する読解力と感性を養います。

授業の到達目標及びテーマ

①登場人物の経験と心理を共感的に理解する。

②保育者として必要な読解力を高める。

③読書を通して豊かな文学的な感性を磨く。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 太陽のシール① | ・全体を通読し、内容のあらましを捉える。<br>・１章～３章（１１９～１２８ページ）を文脈に沿って詳しく読む。 |
| 2 | 太陽のシール② | ・４章～６章（１２９～１４６ページ）を文脈に沿って詳しく読む。 |
| 3 | 太陽のシール③ | ・７章～９章（１４６～１６０ページ）を文脈に沿って詳しく読む。 |
| 4 | ここが青山① | ・全体を通読し、内容のあらましを捉える。<br>・１章（４３～５４ページ）を文脈に沿って詳しく読む。 |
| 5 | ここが青山② | ・２章（５４～６５ページ）を文脈に沿って詳しく読む。 |
| 6 | ここが青山③ | ・３章（６５～７６ページ）を文脈に沿って詳しく読む。 |
| 7 | ここが青山④ | ・４章（７７～８４ページ）を文脈に沿って詳しく読む。 |
| 8 | 陽だまりの詩① | ・全体を通読し、内容のあらましを捉える。<br>・１章（２１７～２２４ページ）を文脈に沿って詳しく読む。 |

| | | |
|---|---|---|
| 9 | 陽だまりの詩② | ・２章（２２４～２３３ページ）を文脈に沿って詳しく読む。 |
| 10 | 陽だまりの詩③ | ・３章（２３４～２４０ページ）を文脈に沿って詳しく読む。 |
| 11 | 陽だまりの詩④ | ・４章（２４０～２５１ページ）を文脈に沿って詳しく読む。 |
| 12 | 金鵄のもとに① | ・全体を通読し、内容のあらましを捉える。<br>・１章～２章（２５５～２７５ページ）を文脈に沿って詳しく読む。 |
| 13 | 金鵄のもとに② | ・３章～４章（２７５～２８２ページ）を文脈に沿って詳しく読む。 |
| 14 | 金鵄のもとに③ | ・５章～６章（２８２～２８７ページ）を文脈に沿って詳しく読む。 |
| 15 | 金鵄のもとに④ | ・７章～８章（２８７～３００ページ）を文脈に沿って詳しく読む。 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>心理学 | 教養科目 | 単位数：<br>2 単位 | 担当教員名：亀田　佐知子<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|
| Psychology | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018 年度まで：DP1<br>2019 年度から：DP1C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018 年度まで：CCg1n202<br>2019 年度から：CCg1n202 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | ― | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：教養科目<br>2019 年度から：教養科目 | | |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 |
| 教科書 | 山崎晃・浜崎隆司編著『新・はじめて学ぶこころの世界』　北大路書房 |
| 参考文献 | ①　中島義明編『心理学辞典』　有斐閣<br>②　宮沢秀次・二宮克美・大野木裕明『自分でできる心理学』　ナカニシヤ<br>③　東京大学医学部心療内科ＴＥＧ研究会『新版ＴＥＧ２』　金子書房<br>④　子安増生・二宮克美『心理学フロンティア―キーワードコレクション』　新曜社 |

授業の概要

この授業では、直感や経験から物事を考えるのではなく、実験的な手法や統計的なデータから、人の行動や心の働きを理解していくことを目的とする。

自分がどのように物を見て考え、記憶しているかなど、普段の生活では当たり前に思っていることを心理学の見地から考え、自分の視野を広げることを試みる。また、自分らしさを知り、長い人生の中での今の自分の課題、これからの課題などを知り、人生を生涯発達の視点から考える機会とする。さらに、責任の重い仕事である保育者はストレスと上手に付き合うスキルが必要となる。ストレスを知り、うまく付き合う方法があることを学び、生活に生かす方法を探る。

授業の到達目標及びテーマ

①知覚・記憶・学習・思考について代表的な理論を理解し、自分の学習スタイルを考察する。

②性格や発達の視点から自分らしさを理解し、長い人生の中での今の発達課題やこれからの発達課題について考察する。

③社会へ適応するため、自分なりのストレスとの上手な付き合い方をみつける。親密な関係づくりのプロセスを理解し、今の人間関係を考察する。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | こころの世界を探る | 心理学が学問であるための「科学史」の流れを学ぶ。心理学が科学的心理学として成立するために何が必要かを知る。<br>（第 1 章第 1 節から 2 節） |
| 2 | こころをとらえる | 「ものを見ること」や「音を聴くこと」に心が介在していることを学ぶ。（第 2 章第 1 節） |
| 3 | こころとからだの発達（受胎～児童期） | 発達の基本的概念を理解する。受胎から児童期までのこころや体の変化を理解する。（第 3 章第 1 節から 2 節） |

| | | |
|---|---|---|
| 4 | 発達（青年期～老年期） | 青年期から老年期に至るまでのこころや体の変化を学び、今の自分の課題、これからの自分の課題について考察する。<br>（第3章第2節から3節） |
| 5 | 私らしさの形成 | 性格に関する代表的な理論を学び、「自分らしさ」がどのように形成されてきたのかを考察する。（第4章第1節から2節） |
| 6 | 人をかりたてるもの | 情動とは何か、情動の発達を学ぶ。「やる気」になるためにはどんな情動の変化が必要かについて、動機づけや自己効力感などから考察する。（第5章第1節から2節） |
| 7 | 学ぶことのしくみ（記憶） | 記憶する、忘却するとはどういうことかを学び、効率の良い記憶方略を考察する。（第6章第1節） |
| 8 | 学ぶことのしくみ（学習） | 様々なことを今までどのように学習してきたのかについて、代表的な学習理論から学ぶ。また、効率良い学習方法を考察する。<br>（第6章第2節） |
| 9 | 学ぶことのしくみ（知能） | 知能とは何かを理解し、知能検査で測られる知能とは何を指すのかを学ぶ。知能と発達の関連についても学ぶ。（第6章3節） |
| 10 | 新しいものをつくり出す | 創造的思考力とは何かを学ぶ。創造的思考力をどのように伸ばすことができるのかを考察する。（第7章第1節から2節） |
| 11 | わかることと考えること | 「考える」ことの発達を通して「わかる」ということが成り立つことを学ぶ。特に幼児の思考について、発達における違いを理解する。<br>（第8章第1節から2節） |
| 12 | 人と人との結びつき１ | エリクソンの心理・社会的発達の理論をもとに、各発達段階での発達課題（心理・社会的危機）を学ぶ。（第9章第1節から2節） |
| 13 | 人と人との結びつき２ | 青年期以降は特定の人と親密な関係を徐々に作り上げていく時期でもある。親密な関係づくりのプロセス（出会いから別れまで）について学ぶ。（第9章第3節から4節） |
| 14 | 社会に適応すること | 適応とストレスについて学び、ストレスを軽減する為の対処法（コーピング）を学ぶ。（第11章第1節から2節） |
| 15 | こころのトラブル・私たちとコンピュータ | ①ストレスが原因となる病気についてその症状を学び、こころのトラブルに対処する方法として、いくつかのカウンセリング法があることを知る。（第12章第1節から2節）<br>②インターネットとの上手な付き合い方について学ぶ。（第10章第1節から4節） |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICTの活用 | なし |

| 授業科目名：<br>日本国憲法 | 教養科目 | 単位数：<br>2 単位 | 担当教員名：内山　絵美子<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|

| Japanese Constitutional Law | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018 年度まで：DP1<br>2019 年度から：DP1C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018 年度まで：CCg1c204<br>2019 年度から：CCg1c205 |
|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | 2018 年度まで：日本国憲法<br>2019 年度から：日本国憲法 |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：教養科目<br>2019 年度から：教養科目 |
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 |
| 教科書 | 西原博史・斎藤一久編著『教職課程のための憲法入門　第 2 版』弘文堂、2016 年 |
| 参考文献 | 楾大樹『檻の中のライオン』かもがわ出版、2019 年 |

授業の概要

憲法の意義（立憲主義）や原理（基本的人権の尊重、平和主義、国民主権）を理解するとともに、そこで保障されている具体的な権利とその侵害や制約について学校教育を事例に学び、教育現場の憲法問題を知る。また、裁判所の判断基準や条理を知り、法律的なものの見方に触れる。

授業の到達目標及びテーマ

①憲法の意義や基本原理、基本的人権の具体的な内容について説明できる。

②教育現場の憲法問題に触れ、子どもの権利を保障するために何が必要かを考えることができる。

③憲法の重要性、改正も含めた憲法の在り方に関して理解を深める。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 憲法とは何か | 憲法の基本原理や特質、その歴史的変遷について学ぶ（第 14 章） |
| 2 | 個人の尊厳と基本的人権 | 最も重要な目的である個人の尊厳と基本的人権の保障について学ぶ（第１章） |
| 3 | 子どもの権利と教師の権利 | 子どもの権利の保障と教師に認められる権利を学ぶ（第２章） |
| 4 | 憲法における平等 | 憲法の保障しようとする平等や禁止する差別について知り、教育現場における課題を考える（第３章） |
| 5 | 思想・良心・信教の自由 | 思想・良心の自由および信教の自由について学ぶ（第４章） |
| 6 | 表現の自由 | 表現の自由が許される範囲と、限界について理解する（第５章） |
| 7 | 学問の自由、教師の教育 | 学問の自由の意味と教授の自由の範囲について学ぶ（第６章） |

| | | |
|---|---|---|
| | の自由 | |
| 8 | 教育を受ける権利 | 教育を受ける権利の内容と保障のあり方について学ぶ（第７章） |
| 9 | 自由権と社会権 | 経済的自由とそれを支える社会権について学ぶ（第８章） |
| 10 | 刑事手続き上の権利 | 刑事事件で保障される権利について学ぶ（９章） |
| 11 | 国民主権と参政権 | 国民主権の原理とそれを実現する参政権（選挙権）のについて学ぶ（第10章） |
| 12 | 平和主義 | 平和主義の内容と自衛隊の派遣に関する解釈について学ぶ（第11章） |
| 13 | 権力分立 | 立法、行政、司法による抑制と均衡の原理について学ぶ（第12章） |
| 14 | 地方自治 | 地方自治の内容と実際の展開、および自治の主体である「市民」の教育について学ぶ（第13章） |
| 15 | 憲法をつかう | 憲法の視点から学校を中心とした様々な問題について検討する（プロローグ、エピローグ） |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICT の活用 | |

| 授業科目名：<br>基礎学力演習Ⅰ | 教養科目 | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：馬見塚　昭久<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|
| Basic Academic Training　Ⅰ | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018年度まで：DP1<br>2019年度から：DP1C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018年度まで：CCg1n208<br>2019年度から：CCg1n208 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | ― | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018年度まで：教養科目<br>2019年度から：教養科目 | | |
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 | | |
| 教科書 | 馬見塚昭久・大浦賢治編著『保育学生のための基礎学力演習』　中央法規出版 | | |
| 参考文献 | なし | | |

授業の概要

この科目における「基礎学力」とは、保育者を目指すために必要な基礎的教養や、保育現場で必要とされる国語力、生活技術等です。ここでは特に、敬語や日本語文法、文章力や読解力に焦点を当て、毎回、論作文や名文音読を繰り返し、確かな教養と国語力を伸ばします。

授業の到達目標及びテーマ

①基礎的な日本語力を身につけ、適切な読み書きができるようになる。
②文章作成力を伸ばし、わかりやすく論理的な文章が書けるようになる。
③保育者に必要な基礎的マナーや教養を身につけ、TPOに応じて振舞うことができる。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 保育に関する基本事項<br>5領域　等 | 保育用語（保育に関する基本事項）（5領域）、文節、主語と述語、名文音読、論作文、作文・小論文の書き方、基本的なマナーについて学ぶ（教科書pp. 2-9） |
| 2 | 子どもの育ち①<br>子どもの育ち②　等 | 保育用語（子どもの育ち①）（子どもの育ち②）、修飾語、指示語、名文音読、論作文、平仮名と片仮名、尊敬語①について学ぶ（教科書pp. 10-17） |
| 3 | 子どもの育ち③<br>遊びにかかわる子どもの発達　等 | 保育用語（子どもの育ち③）（遊びにかかわる子どもの発達）、動詞、品詞、名文音読、論作文、尊敬語②、謙譲語について学ぶ（教科書pp. 18-25） |
| 4 | 子どもの遊び<br>遊びの形態　等 | 保育用語（子どもの遊び）（遊びの形態）、オノマトペ、能動態と受動態、名文音読、論作文、実習オリエンテーションのマナー、実習の髪型、メイク、服装について学ぶ（教科書pp. 26-33） |
| 5 | 母子の絆<br>保育の形態①　等 | 保育用語（母子の絆）（保育の形態①）、仮名遣い①、仮名遣い②、名文音読、論作文、園での言葉遣い、書中見舞い状の書き方、お礼状の書き方について学ぶ（教科書pp. 34-43） |

| | | |
|---|---|---|
| 6 | 保育の形態②<br>保育の形態③　等 | 保育用語（保育の形態②）（保育の形態③）、接続語①、接続語②、名文音読、論作文、安全対策、守秘義務について学ぶ（教科書 pp. 44-51） |
| 7 | 保育の計画<br>基本的生活習慣　等 | 保育用語（保育の計画）（基本的生活習慣）、接続語③、接続語④、名文音読、論作文、ネット、SNS、メールのマナー、著作権、ら抜き言葉について学ぶ（教科書 pp. 52-59） |
| 8 | 子どもの食と栄養①<br>子どもの食と栄養②　等 | 保育用語（子どもの食と栄養①）（子どもの食と栄養②）、接続語⑤、接続語⑥、名文音読、論作文、掃除の仕方、ペンの持ち方について学ぶ（教科書 pp. 60-67） |
| 9 | 子どもの保健<br>子どもの生活　等 | 保育用語（子どもの保健）（子どもの生活）、可能表現、適切な表現①、名文音読、論作文、お茶の作法、長音表記について学ぶ（教科書 pp. 68-75） |
| 10 | 幼児教育<br>保育の職場　等 | 保育用語（幼児教育）（保育の職場）、適切な表現②、敬語①、名文音読、論作文、食事のマナー、時間の計算について学ぶ（教科書 pp. 76-83） |
| 11 | 注意すべき病気<br>子どもの福祉　等 | 保育用語（注意すべき病気）（子どもの福祉）、敬語②、適切な表現③、名文音読、論作文、よくある表記の間違い、海外保育事情について学ぶ（教科書 pp. 84-93） |
| 12 | 安全<br>日常における保育の進め方<br>等 | 保育用語（安全）（日常における保育の進め方）、比喩、四字熟語、名文音読、論作文、間違いやすい同音・同訓異義語、季節の行事について学ぶ（教科書 pp. 94-103） |
| 13 | 虐待への対応<br>保育に関する相談　等 | 保育用語（虐待への対応）（保育に関する相談）、帰納法、演繹法、名文音読、論作文、神社とお寺、よくある表記の間違いについて学ぶ（教科書 pp. 104-111） |
| 14 | 障害児保育<br>幼保小の連携　等 | 保育用語（障害児保育）（幼保小の連携）、適切な表現③、適切な表現④、名文音読、論作文、海外保育事情、お礼状の書き方についいて学ぶ（教科書 pp. 112-119） |
| 15 | これからの保育と教育<br>ことわざ　等 | 保育用語（これからの保育と教育）（ことわざ）、適切な表現⑤、適切な表現⑥、名文音読、論作文、昆虫や小動物の飼育、保育者としての心構えについて学ぶ（教科書 pp. 120-128） |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>おだたん人間成長講座Ⅰ | 教養科目 | 単位数：<br>2 単位 | 担当教員名：吉田　眞理<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|

| Liberal Arts of<br>Odawara Junior College　Ⅰ | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018 年度まで：DP1<br>2019 年度から：DP1C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018 年度まで：CCg1n106<br>2019 年度から：CCg1n106 |
|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | ― |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：教養科目<br>2019 年度から：教養科目 |
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 |
| 教科書 | なし |
| 参考文献 | 学習の手引き巻末資料、パンフレット、リーフレット等 |

授業の概要

建学の精神「女子を人として教育する、女性として教育する、国民として教育する」に基づいて設置された総合的な教養科目である。専門科目とあわせて学ぶことで、本学の３つの教育方針（自他ともに敬い愛する人・豊かな知性と感性あふれる人・健やかな家庭　社会を担う人）が達成されると確信する。

芸能興行、居住地域の行事、美術展の開催等の年間予定を確認し、年間計画を立てること（授業計画の順番に行おうとすると展覧会等が終わっていることもあるので、必ずしも１～15 の順でなくてもよい）。

授業の到達目標及びテーマ

① 建学の精神や教育理念を理解し、本学学生としての自覚を高める。

② 日本の文化に触れ、教養を高める。

③ 自己を見つめ、文化に親しみ、教養を高め続ける生活様式を自分のものにする。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 小田原短期大学について１ | 小田原短期大学について知り、建学の精神を理解する。<br>校歌の学びにつなげる。<br>巻末資料Ⅰ－１，2-(1)，3-(1)(3)，Ⅲ |
| 2 | 小田原短期大学について２ | 建学の精神を知り、教育目標を理解する。<br>学生歌の意味を理解する。巻末資料２-(2)(3)，３-(2)(3)，Ⅱ-１ |
| 3 | 美術鑑賞１（2 の準備） | 行きたい美術展や画廊を選び、鑑賞対象について調べる。巻末資料Ⅱ-2-(1) |
| 4 | 美術鑑賞２ | 国内外の美術を鑑賞する。巻末資料Ⅱ-2-(1) |

| | | |
|---|---|---|
| 5 | | |
| 6 | 美術鑑賞３<br>(2 の振り返り) | 鑑賞した美術について 1 で調べたことと、鑑賞した感想を文章でまとめる。 |
| 7 | 読書 | 推薦図書を読み、要旨をまとめ、感想文を書く。巻末資料Ⅱ-2-(2) |
| 8 | 古典芸能（地域文化）鑑賞１<br>（2 の準備） | 鑑賞する古典芸能（地域文化）などについて調べる。巻末資料Ⅱ-2-(3) |
| 9 | 古典芸能（地域文化）鑑賞２ | 日本の古典芸能（歌舞伎、文楽、能など）を鑑賞する。<br>または、自分の地元の祭りや舞踊、語り（地域文化）など鑑賞する。巻末資料Ⅱ-2-(3) |
| 10 | | |
| 11 | 古典芸能（地域文化）鑑賞３<br>(2 の振り返り) | 鑑賞した古典芸能（地域文化）などについて 1 で調べたことと鑑賞した感想を書く。巻末資料Ⅱ-2-(3) |
| 12 | 文化財鑑賞１ | お寺や神社、建造物などを選び、見学対象について調べる。巻末資料Ⅰ－１－(4) |
| 13 | 文化財鑑賞２ | 選んだお寺や神社、建造物などを見学する。巻末資料Ⅱ-2-(4) |
| 14 | | |
| 15 | 文化財鑑賞３(2 の振り返り)<br>(総括)講座全体の振り返り | お寺や神社などについて１で調べたことと見学した感想を書く。<br>巻末資料と手引きを再確認し、全体の振り返りをする。<br>巻末資料Ⅱ-3 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】芸術や文化財の鑑賞に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】巻末の「資料」を熟読すること |
| ICT の活用 | 必要に応じて映像を配信する |

| 授業科目名：<br>職業と社会Ⅰ | 教養科目 | 単位数：<br>1単位 | 担当教員名：大浦　賢治<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|
| Placement Academy　Ⅰ | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018年度まで：DP2<br>2019年度から：DP2C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018年度まで：CCg1n210<br>2019年度から：CCg1n009 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | ― | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018年度まで：教養科目<br>2019年度から：教養科目 | | |
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 | | |
| 教科書 | 「自分で動く就職　2021年版」財団法人雇用開発センター | | |
| 参考文献 | なし | | |

授業の概要

　あなたが保育士として、あるいは幼稚園教諭として社会に飛び立つ時…それぞれの職場には様々な常識やマナーが存在している。この科目ではそれらを一つの職業観として取り上げていく。子どもとかかわる仕事を選ぶあなたに、どんな未来が待っているか、ワクワクしながら学んでいくことを目的とする。

授業の到達目標及びテーマ

①「働く」ことの意味と意義を理解する。

② 自分を知り、自分の将来の方向性を考えながら、社会人としての職業観を知る。

③ 資格と職業について学び、保育の仕事についてより理解を深める。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 就職活動を始めるにあたり | あなたはなぜ就職をするのか、社会を知って自分の将来を考える。<br>自分の就労観を考える。<br>（教科書　３ページ～１２ページ） |
| 2 | 就職活動を知る | 仕事をするとはどういうことなのかを学ぶ。<br>就職活動をするうえでのポイントを学ぶ。<br>（教科書　１３ページ～３０ページ） |

| | | |
|---|---|---|
| 3 | 企業・仕事を知る | 企業や仕事について考える。<br>企業活動の意味を理解する。<br>（教科書　３１ページ～４４ページ） |
| 4 | 企業の採用活動を知る | 企業がどのように新人採用をするのかを理解する。<br>採用されるためのポイントを押さえる。<br>（教科書　４５ページ～６２ページ） |
| 5 | 就職活動で困ったら | 就職活動中の問題点を確認する。<br>様々な問題に対処できる力を身につける。<br>（教科書　６３ページ～７２ページ） |
| 6 | 就職したら | 就職する際の心構えを学ぶ。<br>就職したときに注意すべき重要なポイントを理解する。<br>（教科書　７３ページ～９２ページ） |
| 7 | 退職と転職活動 | 退職をしようと考えた場合に注意すべき点を押さえる。<br>一時的な感情に流されないことの重要性を理解する。<br>（教科書　９３ページ～１０４ページ） |
| 8 | 仕事・暮らしのサポート | 仕事と暮らしに関して利用できる資源について学ぶ。<br>公共施設の利用法を把握する。<br>（教科書　１０５ページ～１０９ページ） |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>職業と社会Ⅱ | 教養科目 | 単位数：<br>1 単位 | 担当教員名：大浦　賢治<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|
| Placement Academy Ⅱ | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018 年度まで：DP2<br>2019 年度から：DP2C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018 年度まで：CCg2n211<br>2019 年度から：CCg2n010 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | — | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：教養科目<br>2019 年度から：教養科目 | | |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 |
| 教科書 | 「子どもにかかわる仕事」汐見稔幸　岩波ジュニア新書 |
| 参考文献 | なし |

授業の概要

保育士・幼稚園教諭として社会に飛び立つ時…それぞれの職場には様々な考え方や文化・共通認識が存在している。この科目では、それを一つの職業観と捉え、子どもとかかわる仕事や対人援助の職業を選ぶ時、どんな仕事ややりがいがあるのか、具体的なイメージをもって学んでいくことを目的とする。

授業の到達目標及びテーマ

① 保育の仕事・対人援助の仕事について知識を持つ

② 「働く」ことの意味と意義、職業と資格について調べる。

③ 自分を知り、自分の将来の方向性を考えながら、社会人としての自分の職業観を説明できる

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 子どもにかかわる仕事④ | 実際に子どもとかかわる仕事をしている人の話から、自分がこれから就くであろう子どもとかかわる仕事への心構えを学ぶ。<br>（僕は小児科医　教科書 p19～p29、学習の手引き p3） |
| 2 | 子どもにかかわる仕事⑤ | 実際に子どもとかかわる仕事をしている人の話から、自分がこれから就くであろう子どもとかかわる仕事への心構えを学ぶ。<br>（子どもとともに学び、生きるって、幸せ！ 教科書 p49～p62、学習の手引き p5） |

| | | |
|---|---|---|
| 3 | 子どもにかかわる仕事⑥ | 実際に子どもとかかわる仕事をしている人の話から、自分がこれから就くであろう子どもとかかわる仕事への心構えを学ぶ。<br>（子どもとともに育つ伴走者 教科書 p63～p77、学習の手引き p7） |
| 4 | 子どもにかかわる仕事⑦ | 実際に子どもとかかわる仕事をしている人の話から、自分がこれから就くであろう子どもとかかわる仕事への心構えを学ぶ。<br>（子どもの「土台」づくりにかかわる 教科書 p78～p92、学習の手引き p9） |
| 5 | 子どもにかかわる仕事⑧ | 実際に子どもとかかわる仕事をしている人の話から、自分がこれから就くであろう子どもとかかわる仕事への心構えを学ぶ。<br>（それでもがっぷり受け止めたい 教科書 p93～p110、学習の手引き p11） |
| 6 | 子どもにかかわる仕事⑨ | 実際に子どもとかかわる仕事をしている人の話から、自分がこれから就くであろう子どもとかかわる仕事への心構えを学ぶ。<br>（思春期と育ちあう 教科書 111 ページ～125 ページ、学習の手引き p13） |
| 7 | 子どもにかかわる仕事⑩ | 実際に子どもとかかわる仕事をしている人の話から、自分がこれから就くであろう子どもとかかわる仕事への心構えを学ぶ。<br>（子どもたちを支え、支えられ 教科書 127 ページ～140 ページ、学習の手引き p 15） |
| 8 | 子どもにかかわる仕事⑪ | 実際に子どもとかかわる仕事をしている人の話から、自分がこれから就くであろう子どもとかかわる仕事への心構えを学ぶ。<br>（子どもの人権救済活動 教科書 189 ページ～203 ページ、学習の手引き p 17） |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>英語 | 教養科目 | 単位数：<br>2 単位 | 担当教員名：C．ハースト<br>担当形態： 単独 |
|---|---|---|---|

| English | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018 年度まで：DP1<br>2019 年度から：DP1C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018 年度まで：CCg1n113<br>2019 年度から：CCg1n111 |
|---|---|---|
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | 2018 年度まで：外国語コミュニケーション<br>2019 年度から：外国語コミュニケーション | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：教養科目<br>2019 年度から：教養科目 | |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 |
| 教科書 | 赤松直子・久富洋子『保育の英会話』　萌文書林 |
| 参考文献 | なし |

授業の概要

園生活で英語が必要とされることがあります。英語での対応が必要になった時に役立てることができるように、練習を十分取り入れて、必要な文法力・単語力・基礎的な会話力をしっかり養成します。また、テキスト中の「英語ミニ知識」「保育ミニ知識」を活用して、英語の常識や他国の習慣にも目を向け英語力を高める学習をします。

授業の到達目標及びテーマ

①外国人の子供や保護者が入園した際に役立つ英語。

②コミュニケーション能力を養成する。

③日常や園生活等で必要とする文法・単語・熟語・会話文の習得を目指す。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 保育の英会話への第一歩 | Unit 1: First Step to Childcare English |
| 2 | みなと保育園にようこそ | Unit 2: Welcome to Minato Nursery School |
| 3 | 時間と数 | Unit 3: Time and Numbers |
| 4 | 地図と道案内 | Unit 4: Directions |
| 5 | クラスメイトとの出会い | Unit 5: Davy Meets His Classmate Takashi |
| 6 | デイヴィーの登園と降園 | Unit 6: Dropping Davy Off and Picking Him Up |
| 7 | 保育者の仕事 | Unit 7: Jobs at Nursery School |
| 8 | 昼食 | Unit 8: Lunchtime |
| 9 | 排泄に関する会話 | Unit 9: Toilet Dialog |
| 10 | けんか | Unit 10: Fighting |

| | | |
|---|---|---|
| 11 | けがと病気 | Unit 11: Injuries and Illnesses |
| 12 | 電話での対応 | Unit 12: Telephone Calls |
| 13 | 遠足 | Unit 13: Field Trip |
| 14 | 赤ちゃんのケア | Unit 14: Baby Care |
| 15 | 卒園 | Unit 15 Graduation Day |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>健康・スポーツ理論 | 教養科目 | 単位数：<br>1 単位 | 担当教員名：中山　貴太<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|

| Theory of Health and Sports | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018 年度まで：DP1<br>2019 年度から：DP1C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018 年度まで：CCg2n115<br>2019 年度から：CCg2n113 |
|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | 2018 年度まで：体育<br>2019 年度から：体育 |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：教養科目<br>2019 年度から：教養科目 |
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 |
| 教科書 | 「これからの健康とスポーツの科学」第 4 版　安部孝・琉子友男　著　講談社 |
| 参考文献 | なし |

授業の概要

健康・スポーツとは、大きく分けると運動生理学やスポーツバイオメカニクス、筋パワーなどスポーツ科学的視点、スポーツ外科やリハビリテーションなどのメディカル的視点に分けることができる。本科目ではスポーツ科学やメディカルの側面を学びつつも健康に重点を置き、その中で、からだ、運動・スポーツがそれぞれ健康にどのように関連しているか知る。また、健康生活を営むために運動・スポーツを実施する際の留意点や年齢に応じた内容など総合的に学ぶ。

授業の到達目標及びテーマ

① 健康と運動の関連を理解する。

② 運動とからだの関連を理解する。

③ 健康に関連する社会環境を理解する。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | ライフスタイルと健康 | 健康を増進するためのライフスタイルを医療費や環境など社会的側面を含め総合的な視点で学ぶ |
| 2 | 生活習慣病について | 生活習慣病や三大死因などの原因や特徴、基礎的知識の獲得。それらと運動との関連について学ぶ |
| 3 | 肥満について | 肥満の原因となる体脂肪の役割や肥満の測定方法など学び、改善策として代謝や運動、食事との関連について学ぶ |
| 4 | 骨と運動 | 骨の役割と構造を理解し、骨の強化や骨の発達に応じた運動について学ぶ |
| 5 | 加齢について | サルコペニアが引き起こす身体問題や運動の重要性について学ぶ |
| 6 | 子どもの体力と運動 | 現在の子どもを取り巻くスポーツ・運動の環境について学ぶ |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 色々な環境下で安全に運動を行う | 色々な環境下で安全に運動を行う際の留意点を理解し、パフォーマンスとの関連を学ぶ |
| 8 | ストレスと運動 | 運動がストレスをはじめ、心や脳に与える影響、効果や働きがけについて学ぶ。 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>児童文学 | 専門科目 | 単位数：<br>2 単位 | 担当教員名：馬見塚　昭久<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|

| Children's　Literature | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018 年度まで：DP3c<br>2019 年度から：DP4C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018 年度まで：CCs3c122<br>2019 年度から：CCs3c121 |
|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | ― |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：保育の内容・方法に関する科目<br>2019 年度から：保育の内容・方法に関する科目 |
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 |
| 教科書 | 桑原三郎・千葉俊二『日本児童文学名作集（下)』　岩波書店<br>（「一房の葡萄」「オツベルと象」「鷹の巣とり」「がきのめし」「月の輪グマ」の５編） |
| 参考文献 | 河合隼雄『子どもの宇宙』　岩波書店 |

授業の概要

児童文学には、大人たちが忘れかけている大切な世界が描かれています。この授業では、日本児童文学の代表作を読みながら、児童文学の歴史と特質について知り、読解力と文学的感性を磨きます。

授業の到達目標及びテーマ

①児童文学についての知識と理解を身につける。

②代表的な作品を通して、子どもの世界を共感的に理解する。

③保育者として必要な文学的感性を磨く。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 一房の葡萄① | ・全体を通読し、内容のあらましを捉える。<br>・５１ページ1行目から５４ページ7行目を文脈に沿って詳しく読む。 |
| 2 | 一房の葡萄② | ・５４ページ8行目～５７ページ１０行目を文脈に沿って詳しく読む。 |
| 3 | 一房の葡萄③ | ・教科書５７ページ１１行目～６１ページ最後までを文脈に沿って詳しく読む。 |
| 4 | オツベルと象① | ・全体を通読し、内容のあらましを捉える。<br>・第一日曜を文脈に沿って詳しく読む。 |
| 5 | オツベルと象② | ・第二日曜を文脈に沿って詳しく読む。 |
| 6 | オツベルと象③ | ・第五日曜を文脈に沿って詳しく読む。 |
| 7 | 鷹の巣とり① | ・全体を通読し、内容のあらましを捉える。<br>・１８９ページ1行目～１９０ページ１２行目を文脈に沿って詳しく読む。 |

| | | |
|---|---|---|
| 8 | 鷹の巣とり② | ・１９０ページ１３行目～１９２ページ１１行目を文脈に沿って詳しく読む。 |
| 9 | 鷹の巣とり③ | ・１９２ページ１２行目～１９４ページ最後までを文脈に沿って詳しく読む。 |
| 10 | がきのめし① | ・全体を通読し、内容のあらましを捉える。<br>・２３１ページ～２３４ページ最後までを文脈に沿って詳しく読む。 |
| 11 | がきのめし② | ・２３５ページ～２４１ページ3行目を文脈に沿って詳しく読む。 |
| 12 | がきのめし③ | ・２４１ページ4行目～２４６ページを文脈に沿って詳しく読む。 |
| 13 | 月の輪グマ① | ・全体を通読し、内容のあらましを捉える。<br>・１章を文脈に沿って詳しく読む。 |
| 14 | 月の輪グマ② | ・２章～３章（２５２～２５６ページ）を文脈に沿って詳しく読む。 |
| 15 | 月の輪グマ③ | ・４章（２５７～２６２ページ）を文脈に沿って詳しく読む。 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>児童文化 | 専門科目 | 単位数：<br>2 単位 | 担当教員名：炭　美智子<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|
| Children's Culture | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018 年度まで：DP3c<br>2019 年度から：DP3C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018 年度まで：CCs3c123<br>2019 年度から：CCs3c122 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | — | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：保育の内容・方法に関する科目<br>2019 年度から：保育の内容・方法に関する科目 | | |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 |
| 教科書 | 「演習　児童文化」小川清実編／萌文書林 |
| 参考文献 | 「乳児の絵本・保育課題絵本ガイド」福岡貞子・礒沢淳子編著／ミネルヴァ書房<br>「アレンジたっぷりパネルシアター」阿部恵著／ひかりのくに<br>「アレンジたっぷりペープサート」阿部恵著／ひかりのくに<br>「親子で楽しむおりがみ」朝日勇著／パッチワーク通信社 |

授業の概要

「児童文化」は、子どもの健全な心身の発達に深いかかわりをもち、日本独自のもので独自の歴史をたどってきたといわれています。子どもが主体的にかかわり、子ども社会の中で伝えられ、作り出される文化でもあります。「児童文化」を知ることは、実際に子どもとかかわる保育者にとって、とても大切なことと考えます。具体的に「児童文化財」から、子どもにとって、遊びとは何なのか、遊びの意味は何か、遊びで育つものは何かを学びます。パネルシアターやペープサートの制作も行います。

授業の到達目標及びテーマ

①児童文化とは何かを理解するために、その歴史や内容について学ぶ。

②児童文化伝承に果たしてきた子どもの役割を知る。

③児童文化財について学び、保育の展開に役立つものを学ぶ。

子どもの心を豊かに育むための保育実践に役立つ「パネルシアター」や「ペープサート」の作製をし実践できるようにする。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 児童文化とは | 児童文化の歴史や考え方について学び、児童文化財とは何かを学ぶ。（教科書Ｐ8～18） |
| 2 | 子どもにとっての遊び | 遊びとは何か、遊びで育つもの、遊びの伝承性について学び、遊びの伝承者としての保育者の役割について学ぶ。（教科書Ｐ19～27） |
| 3 | 子どもの遊びの変化 | 歴史の上に子どもの遊びがどのように刻まれてきたのか、時代を超えてつながっていく遊びの意味を探る。（教科書Ｐ28～38） |
| 4 | 保育における児童文化 | 保育の歴史と児童文化・児童文化財の定義、保育の歴史に見る児童文化を学ぶ。（教科書Ｐ39～49） |
| 5 | 子どもの発達と児童文化財 | 集団保育における児童文化・児童文化財の活用について学ぶ。（教科書Ｐ50～56） |
| 6 | 保育への展開①「おはなし」 | 保育環境としての児童文化財：「おはなし」について学ぶ。（教科書Ｐ58～67） |
| 7 | 保育への展開②「絵本」 | 「絵本」についての理解を深め、年齢に適した絵本等を知る。読み聞かせの方法も学ぶ。（教科書P68～77） |
| 8 | 保育への展開③「紙芝居」 | 「紙芝居」の特徴について理解を深め、その仕組みについても学ぶ。保育の展開において「紙芝居」と「絵本」の使い分けを知る。（教科書P78～89） |
| 9 | 保育への展開④「パネルシアター」 | 「パネルシアター」について学び、理解を深める。「パネルシアター」の絵人形の作り方を学び、実際に作製する。（教科書P90～97） |
| 10 | 保育への展開⑤「ペープサート」 | 「ペープサート」について学び、理解を深める。「ペープサート」の作り方を学び、実際に作製する。（教科書Ｐ98～107） |
| 11 | 保育への展開⑥「エプロンシアター」 | 「エプロンシアター」の基本的特徴について学び理解を深める。「エプロンシアター」の舞台の種類と作り方を学ぶ。（教科書P108～116） |
| 12 | 保育への展開⑦「人形遊び」 | 人形劇の人形である「パペット」について学び、理解を深める。さまざまな「パペット」の種類を知る。（教科書P117～123） |
| 13 | 保育への展開⑧「劇遊び」 | 「劇遊び」について学び理解を深める。劇遊びに適したお話しや絵本を探す。（教科書P124～113） |
| 14 | 玩具・遊具について学ぶ | 保育の中での玩具と遊具の活用について学び理解を深める。年齢や成長発達に適した玩具を知る。（教科書P134～153） |
| 15 | 伝承遊びについて学ぶ | 伝承遊びについて学び、理解を深める。伝承遊びの種類を知り、保育の中で活用できるようにする。（教科書Ｐ154～166） |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>子どもの食と栄養Ⅰ | 専門科目 | 単位数：<br>1単位 | 担当教員名：平井　千里<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|
| Nutrition for Children Ⅰ | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018年度から：DP4c<br>2019年度から：DP4C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018年度から：CCs1c124<br>2019年度から：CCs1c123 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | ― | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018年度まで：保育の対象の理解に関する科目<br>2019年度から：保育の対象の理解に関する科目（子どもの食と栄養） | | |
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 | | |
| 教科書 | 児玉浩子／編集・執筆　太田百合子・風見公子・小林陽子・藤澤由美子／執筆<br>『子どもの食と栄養』　中山書店 | | |
| 参考文献 | 上西一弘『食生活パーフェクトブック』　少年写真新聞社<br>小川万紀子『新食育ブック①子どもの食と健康』　少年写真新聞社<br>堤ちはる・藤澤由美子『新基本保育シリーズ12　子どもの食と栄養』　中央法規出版 | | |

授業の概要

小児期の食生活は、健康な体づくりのために重要です。そのため、保育者はこの時期の食事の重要性をしっかり理解する必要があります。本講座では、食生活の意義、栄養の基礎知識、子どもの発育・発達と食生活の関連、食育の基本について、基礎から実践までを学びます。さらに、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解を深めます。

授業の到達目標及びテーマ

１．健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。
２．関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、子どもの心身の発達と食生活の関連について学ぶ。
３．家庭や児童福祉施設における食生活の現状と保育者としての関わり方について学ぶ。
４．特別な配慮を要する子どもの食と栄養について学ぶ。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 子どもの健康と食生活① | 第１章　３～６（p. 10～21）<br>３．朝食欠食の問題と対応　４．偏食の弊害と対応<br>５．噛まない子の問題と対応　６．孤食の弊害と対応 |
| 2 | 食に関する基礎知識① | 第２章　２～５（p.28～35）<br>２．栄養の基礎知識　３．たんぱく質の代謝と栄養学的意義<br>４．糖質の代謝と栄養学的意義　５．脂質の代謝と栄養学的意義 |
| 3 | 食に関する基礎知識② | 第２章　６～８（p.36～41）<br>６．ビタミンの代謝と栄養学的意義<br>７．ミネラルの代謝と栄養学的意義 |

| | | |
|---|---|---|
| | | ８．食物繊維と水分 |
| 4 | 子どもの健康と食生活②／食に関する基礎知識③ | 第１章　１、２（p.2～9）<br>第２章　１、９、１０（p. 26～27、p.42～45）<br>第１章　１．乳幼児の食生活の現状　２．乳幼児の栄養アセスメント<br>第２章　１．消化吸収の仕組み<br>９．日本人の食事摂取基準の意義と活用<br>１０．妊婦・授乳負の食事摂取基準 |
| 5 | 子どもの発育･発達と栄養・食生活① | 第３章　１～４（p.50～61）<br>１．授乳・離乳の支援ガイド<br>２．乳幼児の咀嚼機能の発達と食事提供<br>３．乳幼児の味覚機能の発達と食事提供<br>４．乳幼児の消化吸収機能の発達と食事提供 |
| 6 | 子どもの発育･発達と栄養・食生活② | 第２章　１１（ｐ.46）　第３章　５a（p.62～68）<br>第２章　１１．乳幼児の食事摂取基準<br>第３章　５．乳児期栄養　ａ．乳汁栄養 |
| 7 | 子どもの発育･発達と栄養・食生活③ | 第２章　１１（ｐ.46）　第３章　５b（p.69～73）<br>第２章　１１．乳幼児の食事摂取基準<br>第３章　５．乳児期栄養　ｂ．離乳食期栄養 |
| 8 | 子どもの発育･発達と栄養・食生活④ | 第３章　６（p.74～79）　６．幼児期栄養 |
| 9 | 子どもの発育･発達と栄養・食生活⑤ | 第２章　１２（ｐ.47）　第３章　７（p.80～85）<br>第２章　１２．学童・思春期の食事摂取基準<br>第３章　７．学童・思春期の栄養 |
| 10 | 食育の基本と実践 | 第４章　（p.88～107）<br>第４章　食育の基本と実践 |
| 11 | 児童福祉施設や家庭における食と栄養 | 第５章　（ｐ.110～115）<br>第５章　児童福祉施設や家庭における食と栄養 |
| 12 | 食の安全 | 第６章　（ｐ.118～133）<br>第６章　食の安全 |
| 13 | 特別な配慮を要する子どもの食と栄養① | 第７章　１、２、１０（ｐ.136～139、151～153）<br>１．食物アレルギー　２．鉄欠乏性貧血　１０．障がい児 |
| 14 | 特別な配慮を要する子どもの食と栄養② | 第７章　４、５、６、７（ｐ.141～147）<br>４．発熱　５．体調不良　６．急性胃腸炎　７．便秘 |
| 15 | 特別な配慮を要する子どもの食と栄養③ | 第７章　３、８、９（ｐ.140、148～150）<br>３．糖尿病　８．肥満　９．やせ |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>子どもの保健ⅠA | 専門科目 | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：成川　美和<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|
| Health for Children ⅠA | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP4c | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs1c126 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | — | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018年度まで：保育の対象の理解に関する科目 | | |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 |
| 教科書 | 宇佐美かおる 他『生活事例からはじめる 子どもの保健Ⅰ』　青踏社 |
| 参考文献 | 鈴木美枝子編著『これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健Ⅰ』　創成社<br>新保育士養成講座編纂委員会編『改訂２版　新保育士養成講座第７巻　子どもの保健』全国社会福祉協議会<br>遠藤郁夫他『子どもの保健Ⅰ』　学建書院<br>厚生労働省『保育所保育指針、保育所における感染症対策ガイドライン』<br>文部科学省『学校において予防すべき感染症の解説』 |

授業の概要

　発育途中にある乳幼児は、環境の変化に対する適応力が低く、感染症にも罹りやすい。成人とは異なるため、子どもの健康を保持増進するだけでなく、健全な発育を促すことも必要不可欠である。ここでは、子どもの特徴、発育・発達の様子、子どもの疾病、子どもに多い症状、予防接種について学習する。

授業の到達目標及びテーマ

・保育士として必要な子どもの保健の基礎知識を身につける。
・子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。
・子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解する。
・子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 子どもの健康と保健の意義 | （教科書第１章）<br>１．生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的について<br>２．健康の概念と健康指標について　３．地域における保健活動と児童虐待防止について |
| 2 | 子どもの発育・発達と保健１ | （教科書第２章）<br>１．生物としてのヒトの成り立ち　２．身体発育と保健 |
| 3 | 子どもの発育・発達と保健２ | （教科書第２章）<br>生理機能の発達と保健について |

| | | |
|---|---|---|
| 4 | 子どもの発育・発達と保健３ | （教科書第２章）<br>運動機能の発達と保健について |
| 5 | 子どもの発育・発達と保健４ | （教科書第２章）<br>精神機能の発達と保健について |
| 6 | 子どもの疾病と保育１ | （教科書第３章）<br>子どもの健康状態の把握について |
| 7 | 子どもの疾病と保育２ | （教科書第３章）<br>乳幼児期に罹患する主な疾病について |
| 8 | 子どもの疾病と保育３ | （教科書第３章）<br>感染症各論１（「インフルエンザ」「百日咳」「麻しん」「風しん」「流行性耳下腺炎」） |
| 9 | 子どもの疾病と保育４ | （教科書第３章）<br>感染症各論２（「水痘」「咽頭結膜熱」「結核」「髄膜菌性髄膜炎」） |
| 10 | 子どもの疾病と保育５ | （教科書第３章）<br>感染症各論３（「ヘルパンギーナ」「手足口病」「伝染性紅斑」「B 型肝炎」「溶連菌」「破傷風」） |
| 11 | 子どもの疾病と保育６ | （教科書第３章）<br>感染症各論４（「腸管出血性大腸菌感染症」「日本脳炎」「ジフテリア」「細菌性赤痢」「エイズ」 |
| 12 | 子どもの疾病と保育７ | （教科書第３章）<br>感染症以外の疾病について |
| 13 | 子どもの疾病の予防と適切な対応１ | 教科書第３章）<br>疾病時の症状と適切な対応について |
| 14 | 子どもの疾病の予防と適切な対応２ | （(教科書第３章）<br>予防接種について |
| 15 | 子どもの疾病の予防と適切な対応３ | （教科書第３章）<br>乳幼児健診について |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>子どもの保健 | 専門科目 | 単位数：<br>2 単位 | 担当教員名：成川　美和<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|
| Health for Children | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP4C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs1c125 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | — | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2019 年度から：保育の対象の理解に関する科目（子どもの保健） | | |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 |
| 教科書 | 高内正子編著『子どもの保健と安全』　教育情報出版 |
| 参考文献 | 鈴木美枝子編著『これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健Ⅰ』　創成社<br>新保育士養成講座編纂委員会編『改訂 2 版　新保育士養成講座　第 7 巻　子どもの保健』　全国社会福祉協議会<br>遠藤郁夫他『子どもの保健Ⅰ』　学建書院<br>厚生労働省『保育所保育指針、保育所における感染症対策ガイドライン』<br>文部科学省『学校において予防すべき感染症の解説』 |

授業の概要

発育途中にある乳幼児は、環境の変化に対する適応力が低く、感染症にも罹りやすい。成人とは異なるため、子どもの健康を保持増進するだけでなく、健全な発育を促すことも必要不可欠である。ここでは、子どもの心身の発育・発達とその評価、子どもの病気と予防・手当、保育環境、健康と安全、体調不良やけがと応急処置、個別な配慮、感染症対策ガイドラインについて学習する。

授業の到達目標及びテーマ

・保育士として必要な子どもの保健についての基礎知識を身につける。
・乳幼児期に罹患する病気（感染症含む）と予防、対応について正しい知識を獲得し理解する。
・子どもにとっての安全で健康な環境について理解する。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 子どもの心身の健康と保健の意義 | 保健活動、健康の概念、健康指標、現状と課題、地域の保健活動と児童虐待の防止について学ぶ<br>教科書　第１章　１・２・３・４節 |
| 2 | 子どもの保健の諸統計 | 人口統計、出生率、死亡率、事故・けが・病気の予防について学ぶ<br>教科書　第２章　１・２・３・４節 |
| 3 | 子どもの心身の発達とその評価 | 発達の順序と連続性、発達の臨界期と基本的方向性、精神発達、健康状態の把握について学ぶ<br>教科書　第３章　１・２・３・４節 |

| | | |
|---|---|---|
| 4 | 子どもの生理機能の発達1 | 子どもの生理機能（ホメオスタシス、呼吸、乳幼児突然死症候群、体温）の発達について学ぶ<br>教科書　第４章　１・２・３・４節 |
| 5 | 子どもの生理機能の発達2 | 子どもの生理機能（血液、循環、消化吸収、排泄、睡眠、ホルモン等）の発達について学ぶ<br>教科書　第４章　５・６・７節 |
| 6 | 子どもの脳神経系の発達 | 子どもの脳神経（しくみ、細胞、発達と反射等）の発達について学ぶ<br>教科書　第５章　１・２・３節 |
| 7 | 子どもの運動機能の発達とその評価 | 運動機能の発達、運動発達の方向性、評価について学ぶ<br>教科書　第６章　１・２・３節 |
| 8 | 子どもの感覚の発達とその評価 | 視覚、聴覚、味覚、触覚等の発達について学ぶ。<br>教科書　第７章　１・２・３節 |
| 9 | 子どもの歯の発達とケア | 乳歯と永久歯の発達、健康状態、健康管理について学ぶ<br>教科書　第８章　１・２・３節 |
| １０ | 子どもの病気と予防・手当１ | 病気の特徴、先天異常、呼吸器の病気について学ぶ<br>教科書　第９章　１・２・３節 |
| １１ | 子どもの病気と予防・手当２ | 循環器、血液、消化器の病気について学ぶ<br>教科書　第９章　４・５・６節 |
| １２ | 子どもの病気と予防・手当３ | 悪性腫瘍、精神神経系、泌尿器・生殖器の病気について学ぶ。<br>教科書　第９章　７・８・９節 |
| １３ | 子どもの病気と予防・手当４ | 皮膚、整形外科的、口腔の病気について学ぶ。<br>教科書　第９章　10・11・12 節 |
| １４ | 子どもの病気と予防・手当５ | 眼、耳、鼻、内分泌の病気と予防接種について学ぶ。<br>教科書　第９章　13・14・15・16 節 |
| １５ | 個別な配慮を要する子どもへの対応 | 保健的、3 歳未満児、アレルギー性疾患、慢性疾患、障害、医療的ケア児への対応について学ぶ<br>教科書　第 14 章　１・２・３・４・５節 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>子どもの保健ＩＢ | 専門科目 | 単位数：<br>２単位 | 担当教員名：成川　美和<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|
| Health for Children ＩB | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP4c | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs1c127 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | — | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：保育の対象の理解に関する科目 | | |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 |
| 教科書 | 宇佐美かおる 他『生活事例からはじめる 子どもの保健Ｉ』　青踏社 |
| 参考文献 | 鈴木美枝子編著『これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健Ｉ』　創成社<br>新保育士養成講座編纂委員会編『改訂２版　新保育士養成講座第７巻　子どもの保健』全国社会福祉協議会<br>遠藤郁夫他『子どもの保健Ｉ』　学建書院 |

授業の概要

乳幼児の心身の状態は、環境や生活習慣から影響を受けるため、保育者は、子どもにとって心身の状態を安定させる環境整備を心がける必要がある。ここでは、子どもの精神的健康をたもつための、望ましい安心、安全な環境づくりの方法、計画の作成、および保健活動について学ぶ。

授業の到達目標及びテーマ

・保育士として必要な子どもの精神保健、保育環境の基礎知識を身につける。
・子どもの精神保健とその課題等について理解する。
・保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解する。
・施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解する。
・保健活動の計画と評価の方法について理解する。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 子どもの精神保健１ | （教科書第４章）<br>子どもの生活環境と精神保健について |
| 2 | 子どもの精神保健２ | （教科書第４章）<br>子どもの心の健康とその課題について |
| 3 | 子どもの精神保健３ | （教科書第４章）<br>子どもの精神疾患について⑴ |
| 4 | 子どもの精神保健４ | （教科書第４章）<br>子どもの精神疾患について⑵ |

| | | |
|---|---|---|
| 5 | 子どもの精神保健５ | （教科書第４章）<br>子どもの精神疾患について⑶ |
| 6 | 環境および衛生管理並びに安全管理１ | （教科書第５章）<br>保育環境と保健および保育現場における衛生管理について |
| 7 | 環境および衛生管理並びに安全管理２ | （教科書第５章）<br>保育現場における事故防止および安全対策並びに危機管理について⑴ |
| 8 | 環境および衛生管理並びに安全管理３ | （教科書第５章）<br>保育現場における事故防止および安全対策並びに危機管理について⑵ |
| 9 | 健康および安全の実施体制について１ | （教科書第６章）<br>職員間の連携と組織的取り組みについて |
| 10 | 健康および安全の実施体制について２ | （教科書第６章）<br>母子保健対策と保育について |
| 11 | 健康および安全の実施体制について３ | （教科書第６章）<br>乳幼児健康診査および家庭・専門機関・地域との連携について |
| 12 | 保健活動の計画および評価１ | （教科書第７章）<br>保健計画の作成と活用について |
| 13 | 保健活動の計画および評価２ | （教科書第７章）<br>保健活動の記録と自己評価 |
| 14 | 保健活動の計画および評価３ | （教科書第７章）<br>保育所における健康管理について |
| 15 | 保健活動の計画および評価４ | （教科書第７章）<br>子どもの健康と安全・衛生管理について |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>子ども家庭支援の心理学 | 専門科目 | 単位数：<br>2 単位 | 担当教員名：杉﨑　雅子<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|
| Psychology to Support a Child and a Family | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP4C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs1c126 | |

| | |
|---|---|
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | — |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2019 年度から:保育の対象の理解に関する科目(子ども家庭支援の心理学) |
| 実務経験と関連性 | 臨床心理士として発達相談、教育相談の実務経験を持つ教員が、支援が必要な家庭の理解や子どもの心の健康に関わる問題について指導する。 |
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 |
| 教科書 | 「スギ先生と考える子ども家庭支援の心理学」　杉﨑雅子　萌文書林　2020 年 |
| 参考文献 | 文部科学省　幼稚園教育要領解説　フレーベル館<br>厚生労働省　保育所保育指針解説書　フレーベル館 |

授業の概要

発達における初期体験の重要性、各時期の移行、発達課題等を整理し、そうした発達を支える家族・家庭の機能を理解する。また子どもの精神保健についても基礎知識を習得する。これらの学習をとおして、現代の子育て状況と課題を理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を学ぶ。

授業の到達目標及びテーマ

①生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達課題等について理解する。

②家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係について発達的に理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。

③子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を理解する。

④子どもの精神保健とその課題について理解する。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 乳幼児期の発達 | 新生児から幼児期までの発達特徴とかかわりについて学ぶ（第 1 章） |
| 2 | 児童期の発達 | 児童期の発達特徴と教育の諸問題について学ぶ（第 2 章） |
| 3 | 青年期の発達 | 青年期の発達特徴と乳幼児期との関係について学ぶ（第 3 章） |
| 4 | 成人期・高齢期の発達 | 成人期、高齢期の発達や心理的課題について学ぶ（第 4 章） |
| 5 | 家族・家庭の意義と機能 | 家族や家庭の意義と機能について学ぶ（第 5 章） |
| 6 | 親子関係・家族関係の理解 | 家族を理解し支援するための理論や技法について学ぶ（第 6 章） |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 子育てを取り巻く社会的状況 | 現代における結婚、出産、子育てに関する状況について学ぶ（第 7 章） |
| 8 | ライフコースと仕事・子育て | ライフコースの観点から保護者理解、保護者支援を考える（第 8 章） |
| 9 | 多様な家族の現状 | 多様な現代の家族の現状を概観し、その支援を考える（第 9 章） |
| 10 | 配慮を要する家庭① | 保護者の疾患や障害など、特別なニーズがある家庭への配慮を学ぶ（第 10 章） |
| 11 | 配慮を要する家庭② | 虐待が子どもに与える心理的影響と支援を考える（第 11 章） |
| 12 | 子どものストレス | 子どものストレスによる症状とその対応について学ぶ（第 12 章） |
| 13 | 睡眠・食事・排泄にかかわる症状 | 睡眠・食事・排泄に関する症状とその対応について学ぶ（第 13 章） |
| 14 | その他の症状 | チック、吃音、選択性緘黙について学ぶ（第 14 章） |
| 15 | 発達障害 | 発達障害の症状と対応について学ぶ（第 15 章） |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>保育原理 | 専門科目 | 単位数：<br>2 単位 | 担当教員名：宮川　萬寿美<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|

| Principles of Early Child Care and Education | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018 年度まで：DP4c<br>2019 年度から：DP4C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018 年度まで：CCs1c129<br>2019 年度から：CCs1c328 |
|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | 2019 年度から：大学が独自に設定する科目 |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：保育の本質・目的に関する科目<br>2019 年度から：保育の本質・目的に関する科目（保育原理） |
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 |
| 教科書 | ①　「生活事例からはじめる保育原理」第５版　神蔵幸子・宮川萬寿美・中川秋美　編著（青踏社）<br>②　「平成 29 年度告示　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領　原本」内閣府・文部科学省・厚生労働省（チャイルド本社） |
| 参考文献 | なし |

授業の概要

「保育」について様々な視点から考えていく。「子ども理解」を基盤に、保育者に求められる専門性について理解しよう。保育の目的・目標や保育の制度・歴史、保育の内容、保育の計画等、実践者として必要な知識や考え方を学んでいく。子どもの人権を守り、常に子どもの味方であるために、また、豊かな保育実践を展開していくための、基本の視点を身につけていく科目である。

授業の到達目標及びテーマ

①　保育の歴史と変遷を知り、子どもの発達や生活や遊びについて理解する

②　保育実践の事例を拾い、他の人と共有できるように書くことができる

③　保育者に求められる専門性や法規について説明できる

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 保育を学ぶということ（1） | 「保育」とは<br>教科書①　第１章　第１項～第３項 |
| 2 | 保育を学ぶということ（2） | 保育者に求められていること<br>教科書①　第１章　第４項～第５項 |
| 3 | 子ども理解 | 子どもを理解するとは？<br>教科書①　第２章 |

| | | |
|---|---|---|
| 4 | 子ども観・保育観（1） | 外国の保育思想に学ぶ<br>教科書①　第３章 |
| 5 | 子ども観・保育観（2） | 日本の保育思想に学ぶ<br>教科書①　第３章 |
| 6 | 保育の理念を支える法規 | 保育の理念を支える法規<br>教科書①　第４章 |
| 7 | 幼稚園・保育所・認定こども園の制度と機能 | 幼稚園・保育所・認定こども園の制度と機能<br>教科書①　第６章 |
| 8 | 保育の目標と内容 | 保育の目標と内容<br>教科書①　第７章、教科書② |
| 9 | 保育の内容（1） | 「領域」の考え方<br>教科書② |
| 10 | 保育の内容（2） | 幼稚園教育要領における保育内容<br>教科書② |
| 11 | 保育の計画と評価 | 保育の計画と評価<br>教科書①　第１０章 |
| 12 | 子どもの育ち・学びの連続性 | 幼児教育（就学前教育）と小学校教育（就学後）の学び<br>それぞれの目的と学び方の違い<br>教科書①　第１１章　第１項～第２項 |
| 13 | 日本の保育の現状と課題 | 子どもを取り巻く日本の様々な現状や課題<br>教科書①　第１２章 |
| 14 | 海外の保育事情 | 海外の保育に関する考え方を学び、様々保育実践について学ぶ（この教科書ではフィンランドと韓国）<br>教科書①　第１４章　第１項～第３項 |
| 15 | 保育者のあり方 | 専門家としての保育者のあり方について学ぶ<br>教科書①　第１５章 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICT の活用 | （第 4.5 講）・外国の保育思想家・日本の保育思想家についてインターネット等で情報を集め人物調べを行う<br>（第 14 講）海外の保育について、保育実践の様子についてインターネットを活用してネット動画等で視聴してみよう |

| 授業科目名：<br>社会的養護 | 専門科目 | 単位数：<br>2 単位 | 担当教員名：上野　文枝<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|
| Theory of Out-of-Home Care | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP3c | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs2c130 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | — | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：保育の本質・目的に関する科目 | | |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 |
| 教科書 | 「児童の福祉を支える社会的養護Ⅰ」吉田眞理編著　萌文書林 |
| 参考文献 | 『子ども虐待』西澤哲　講談社、『児童養護施設の子どもたち』大久保真紀　高文研、『「家族」をつくる　養育里親という生き方』村田和木（中央公論新社） |

授業の概要

児童福祉施設で働く施設保育士に必要な社会的養護の知識を習得する。児童養護の歴史と体系、関連する法律、現在の施設養護や里親養育について学び、様々な立場で生活する子どもを理解する。子どもの権利擁護、自立支援について、生活場面における具体的援助のあり方について考える。「子どもの虐待」「トラウマ」「愛着障害」「発達障害」に関する知識を身に付け、生活の中での支援を学ぶ。家族関係の調整、学校や地域との連携、援助者の資質、倫理等についても理解する。授業では、様々な困難を抱えた子どもを理解することを重視し、施設保育士に限らず保育所等の通所施設の保育士としても必要な知識の習得をする。

授業の到達目標及びテーマ

１．現代の養護問題の歴史的背景及び体系を理解する。
２．社会的養護の体系、児童福祉施設や里親などの役割について理解する。
３．社会的養護の基盤となる原則を児童福祉との関連において理解する。
４．施設養護における「子どもの権利擁護」及び「自立支援」の考え方を理解する。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 現代社会における社会的養護の意義と変遷 | 第１講Ⅰ～Ⅲ　社会的養護の歴史を踏まえ、現代社会における子どもと家族が抱える問題について学び、社会的養護を学ぶ意味と保育士の役割を理解する。 |
| 2 | 子どもの人権擁護と社会的養護 | 第２講Ⅰ～Ⅲ　子どもの権利を社会的養護の場でどのように展開するか、また、施設保育士としての論理と責務について学ぶ。 |
| 3 | 家庭の機能と社会的養護 | 第３講Ⅰ～Ⅲ　子どもが生活する場における家庭機能について理解し、家庭養護と施設養護の体系を学ぶ。 |
| 4 | 社会的養護の基本原則Ⅰ：養育―日常生活支援― | 第４講Ⅰ～Ⅱ　子どもの人権に配慮した日常生活支援の実際を学び、施設規模による養育への影響について考察する。 |

| | | |
|---|---|---|
| 5 | 社会的養護の基本原則Ⅱ：保護―自己実現に向けた支援― | 第５講Ⅰ～Ⅱ　家庭から保護し養育する際の支援の視点と親子関係調整について学ぶ。また、地域との関係調整についても理解する。 |
| 6 | 社会的養護の基本原則Ⅲ：子どもであることへの回復―治療的支援― | 第６講Ⅰ～Ⅱ　被虐待児の心の癒しや傷の回復への支援の視点を学ぶとともに、施設内の他職種とのチームワークについて理解する。 |
| 7 | 社会的養護の基本原則Ⅳ：生活文化と生活力の習得―自立支援― | 第７講Ⅰ～Ⅲ　日常生活を通して生活文化と生活力を修得する支援の実際を具体的に学ぶ。自立支援のあり方を学び、保育士の専門性を理解する。 |
| 8 | 社会的養護の基本原則Ⅴ：生命倫理観の醸成―生と性の倫理― | 第８講Ⅰ～Ⅱ　生と性の倫理について、社会的養護における捉え方、支援について学ぶ。 |
| 9 | 社会的養護の制度と実施体系 | 第９講Ⅰ～Ⅲ　制度と実施の体系、社会的養護に携わる専門職について学ぶ。 |
| 10 | 施設養護の対象・形態・専門職Ⅰ―乳児院と児童養護施設― | 第 10 講Ⅰ～Ⅳ<br>乳児院と児童養護施設の事例を通して、社会的養護の実践について学ぶ。 |
| 11 | 施設養護の対象・形態・専門職Ⅱ―障害児の入所施設― | 第 11 講Ⅰ～Ⅲ　第３講Ⅲ障害児の入所施設の事例を通して、社会的養護の実践について学ぶ。 |
| 12 | 施設養護の対象・形態・専門職Ⅲ―児童自立支援施設と児童心理治療施設― | 第 12 講Ⅰ～Ⅲ<br>社会に適応しづらい子どもの入所施設の事例を通して、社会的養護の実践について学ぶ。 |
| 13 | 家庭養護の特徴・大正・形態―里親・ファミリーホーム― | 第 13 講Ⅰ～Ⅴ<br>里親とファミリーホームについて、制度と養育の実際を学ぶ。 |
| 14 | 社会的養護の現状と課題① | 第 14 講Ⅰ～Ⅲ<br>施設の運営管理について基礎的な知識を得る。また、保育士としての倫理の確立と権利擁護の仕組みについて学ぶ。 |
| 15 | 社会的養護の現状と課題② | 第 14 講Ⅳ～Ⅴ<br>被措置児童等虐待の防止、地域福祉との関係、施設保育士として求められていることについて学ぶ。 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>社会的養護Ⅰ | 専門科目 | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：上野　文枝<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|
| Theory of Out-of-Home CareⅠ | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP3C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：s1c129 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | — | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2019年度から：保育の本質・目的に関する科目（社会的養護Ⅰ） | | |

| | |
|---|---|
| 実務経験と関連性 | 母子生活支援施設の母子支援員としての実務経験により、社会的養護の必要な子どもとその家族の支援について他機関連携、他の児童福祉施設との連携などの知識・技能がある。 |
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 |
| 教科書 | 「児童の福祉を支える社会的養護Ⅰ」吉田眞理編著　萌文書林 |
| 参考文献 | 『子ども虐待』西澤哲　講談社、『児童養護施設の子どもたち』大久保真紀　高文研、『「家族」をつくる　養育里親という生き方』村田和木（中央公論新社） |

授業の概要

児童福祉施設で働く施設保育士に必要な社会的養護の知識を習得する。児童養護の歴史と体系、関連する法律、現在の施設養護や里親養育について学び、様々な立場で生活する子どもを理解する。子どもの権利擁護、自立支援について、生活場面における具体的援助のあり方について考える。「子どもの虐待」「トラウマ」「愛着障害」「発達障害」に関する知識を身に付け、生活の中での支援を学ぶ。家族関係の調整、学校や地域との連携、援助者の資質、倫理等についても理解する。授業では、様々な困難を抱えた子どもを理解することを重視し、施設保育士に限らず保育所等の通所施設の保育士としても必要な知識の習得をする。

授業の到達目標及びテーマ

１．現代の養護問題の歴史的背景及び体系を理解する。
２．社会的養護の体系、児童福祉施設や里親などの役割について理解する。
３．社会的養護の基盤となる原則を児童福祉との関連において理解する。
４．施設養護における「子どもの権利擁護」及び「自立支援」の考え方を理解する。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 現代社会における社会的養護の意義と変遷 | 第１講Ⅰ～Ⅲ　社会的養護の歴史を踏まえ、現代社会における子どもと家族が抱える問題について学び、社会的養護を学ぶ意味と保育士の役割を理解する。 |
| 2 | 子どもの人権擁護と社会的養護 | 第２講Ⅰ～Ⅲ　子どもの権利を社会的養護の場でどのように展開するか、また、施設保育士としての論理と責務について学ぶ。 |
| 3 | 家庭の機能と社会的養護 | 第３講Ⅰ～Ⅲ　子どもが生活する場における家庭機能について理解 |

| | | |
|---|---|---|
| | | し、家庭養護と施設養護の体系を学ぶ。 |
| 4 | 社会的養護の基本原則Ⅰ：養育―日常生活支援― | 第４講Ⅰ～Ⅱ　子どもの人権に配慮した日常生活支援の実際を学び、施設規模による養育への影響について考察する。 |
| 5 | 社会的養護の基本原則Ⅱ：保護―自己実現に向けた支援― | 第５講Ⅰ～Ⅱ　家庭から保護し養育する際の支援の視点と親子関係調整について学ぶ。また、地域との関係調整についても理解する。 |
| 6 | 社会的養護の基本原則Ⅲ：子どもであることへの回復―治療的支援― | 第６講Ⅰ～Ⅱ　被虐待児の心の癒しや傷の回復への支援の視点を学ぶとともに、施設内の他職種とのチームワークについて理解する。 |
| 7 | 社会的養護の基本原則Ⅳ：生活文化と生活力の習得―自立支援― | 第７講Ⅰ～Ⅲ　日常生活を通して生活文化と生活力を修得する支援の実際を具体的に学ぶ。自立支援のあり方を学び、保育士の専門性を理解する。 |
| 8 | 社会的養護の基本原則Ⅴ：生命倫理観の醸成―生と性の倫理― | 第８講Ⅰ～Ⅱ　生と性の倫理について、社会的養護における捉え方、支援について学ぶ。 |
| 9 | 社会的養護の制度と実施体系 | 第９講Ⅰ～Ⅲ　制度と実施の体系、社会的養護に携わる専門職について学ぶ。 |
| 10 | 施設養護の対象・形態・専門職Ⅰ―乳児院と児童養護施設― | 第 10 講Ⅰ～Ⅳ<br>乳児院と児童養護施設の事例を通して、社会的養護の実践について学ぶ。 |
| 11 | 施設養護の対象・形態・専門職Ⅱ―障害児の入所施設― | 第 11 講Ⅰ～Ⅲ　第３講Ⅲ障害児の入所施設の事例を通して、社会的養護の実践について学ぶ。 |
| 12 | 施設養護の対象・形態・専門職Ⅲ―児童自立支援施設と児童心理治療施設― | 第 12 講Ⅰ～Ⅲ<br>社会に適応しづらい子どもの入所施設の事例を通して、社会的養護の実践について学ぶ。 |
| 13 | 家庭養護の特徴・大正・形態―里親・ファミリーホーム― | 第 13 講Ⅰ～Ⅴ<br>里親とファミリーホームについて、制度と養育の実際を学ぶ。 |
| 14 | 社会的養護の現状と課題① | 第 14 講Ⅰ～Ⅲ<br>施設の運営管理について基礎的な知識を得る。また、保育士としての倫理の確立と権利擁護の仕組みについて学ぶ。 |
| 15 | 社会的養護の現状と課題② | 第 14 講Ⅳ～Ⅴ<br>被措置児童等虐待の防止、地域福祉との関係、施設保育士として求められていることについて学ぶ。 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |

| | |
|---|---|
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>社会福祉 | 専門科目 | 単位数：<br>2 単位 | 担当教員名：武山　美子<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|
| Social Welfare | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018 年度まで：DP3c<br>2019 年度から：DP3C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018 年度まで：CCs1c131<br>2019 年度から：CCs1c131 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | — | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：保育の本質・目的に関する科目<br>2019 年度より：保育の本質・目的に関する科目（社会福祉） | | |
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 | | |
| 教科書 | 吉田眞理『生活事例からはじめる 新版社会福祉 第 9 版』　青踏社 | | |
| 参考文献 | 山田美津子・稲葉光彦編『社会福祉を学ぶ』　みらい<br>山縣文治・岡田忠克編『よくわかる社会福祉』　ミネルヴァ書房 | | |

授業の概要

保育士は、児童福祉法に位置づけられた専門職である。子どもは、家庭・地域社会など、様々な環境の影響を受けており、現代社会を生きる子どもを保育する時、福祉的な視点から家庭の実態や生活課題を把握することは必要不可欠である。本教科目では、歴史的背景から社会福祉の考え方、人間観を多面的に学ぶとともに、現代の社会福祉の制度・政策を学習する。これらを通し、社会福祉の対象者を理解し実践するための基礎を得る。

授業の到達目標及びテーマ

① 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭福祉の視点について理解する。
② 社会福祉の制度や実施体系について理解する。
③ 社会福祉における相談援助について理解する。
④ 社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。
⑤ 社会福祉の動向と課題について理解する。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 社会福祉の理念と課題① | 社会福祉とは何か、「ノーマライゼーション」を理解する。（第 1 章 1-1、1-2） |
| 2 | 社会福祉の理念と課題② | 社会福祉の「ニーズ」「社会参加」を理解する。（第 1 章 1-3、1-4） |
| 3 | 社会福祉の理念と課題③ | 社会福祉を支援する上での「自立」「平等」とは何か。（第 1 章 1-5、1-6） |
| 4 | 社会福祉の歴史的変遷① | 貧困問題の取り組みや貧富の原因を歴史的変遷から理解する。（第 1 章 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 2-1、2-2) |
| 5 | 社会福祉の歴史的変遷② | 国民の福祉の保障と、福祉を支援するのは誰かを学ぶ。(第１章 2-3) |
| 6 | 社会福祉と児童家庭福祉 | 社会福祉と児童家庭福祉の関連性を学ぶ。(第１章 3-1、3-2、3-3) |
| 7 | 児童の権利擁護 | 「児童の人権擁護」に基づく支援のあり方を学ぶ。(第１章 3-4) |
| 8 | 社会福祉の制度① | 「社会福祉のかかわる法律」を理解する。(第２章 1-1) |
| 9 | 社会福祉の制度② | 「福祉の政策主体」や「社会福祉施設」について理解する。(第２章 1-2、～1-4) |
| 10 | 社会保険 | 「社会保険」の仕組み、「社会福祉の専門職」を理解する。(第２章 2-1～3-2) |
| 11 | 利用者を保護する仕組み | 「第三者評価」「苦情解決の仕組み」「権利擁護」を理解する。(第２章 4-1～4-3) |
| 12 | 社会福祉の相談援助① | 社会福祉の専門技術を知り、相談援助の基礎を理解する。(第３章 1-1～1-3) |
| 13 | 社会福祉の相談援助② | 「ケースワーク」「コミュニティワーク」の方法を理解する。(第３章 2-1～2-3) |
| 14 | 社会福祉の動向と課題① | 少子高齢社会における社会福祉の動向について理解する。(第４章 1-1～1-4) |
| 15 | 社会福祉の動向と課題② | 地域における在宅福祉の概要を理解する。(第４章 2-1～3-3) |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「重要な語句」と「より学びを深めるために」に取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>子ども家庭福祉 | 専門科目 | 単位数：<br>2 単位 | 担当教員名：武山　美子<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|
| Child and Family Welfare | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP3C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs1c133 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | ― | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2019 年度から：保育の本質・目的に関する科目（子ども家庭福祉） | | |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 |
| 教科書 | 吉田眞理『児童の福祉を支える 子ども家庭福祉 改訂版』　萌文書林 |
| 参考文献 | 吉澤英子・西郷泰之著『児童家庭福祉論』　光生館<br>吉澤英子・小舘静枝編『保健・看護・福祉プリマーズ②児童福祉』　ミネルヴァ書房 |

授業の概要

わが国では、子どもの貧困、児童虐待、障害児の療育など児童福祉の課題が山積するとともに、待機児童対策が急がれています。

保育士は、すべての子どもの立場に立つことができる児童福祉職であり、子どもの存在を「人」として、「命」そのものとして理屈抜きで受け止められる専門職です。その保育士に必須といえる、児童家庭福祉に関する知識と福祉職としての自覚や態度がこの教科目を通じて、培われることを期待しています。

授業の到達目標及びテーマ

①現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について説明できるようになる。
②子どもの人権擁護について理解する。
③子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。
④子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。
⑤子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 子ども家庭福祉の理念と概念 | 児童家庭福祉の理念と概念を理解し、児童家庭福祉の実際の活動内容、実践対象と方法について学ぶ。 |
| 2 | 子ども家庭福祉の歴史的変遷 | 児童家庭福祉の歴史を知り、児童家庭福祉の理念や実践の変化を知り現代の児童家庭福祉を理解する基礎について学ぶ。 |
| 3 | 現代社会と子ども家庭福祉 | 現代社会における子育ての実態を知り、児童家庭福祉の必要性について学ぶ。<br>我が国の世帯構造や生活意識の変化、家族の実態を統計資料から読み取り、現代家庭の在り方について知る。 |
| 4 | 子どもの人権擁護１ | 保育を児童家庭福祉の一分野として理解し、児童の権利擁護について保育の視点から学ぶ。<br>児童家庭福祉施設として保育所を理解し、保育士の仕事の全体像について知る。<br>児童の権利に関する条約について理解する。 |
| 5 | 子どもの人権擁護２ | 第４講の学びをもとに子どもの権利を護る仕組みについて学ぶ。<br>子どもの権利を護る福祉の仕組みについて知り、第三者評価事業、苦情解決の仕組み、子どもの権利ノートについて学ぶ。 |
| 6 | 子ども家庭福祉の制度と法 | 子ども家庭福祉の制度と法体系について知識を得て、保育分野に |

| | | |
|---|---|---|
| | 体系 | ける諸制度を理解する基礎について学ぶ。<br>憲法第25条を基本とした福祉の実施を柱とした保育・福祉の法体系の全体像について知り、日本国憲法、児童虐待の防止等に関する法律、次世代育成支援対策推進法についても学ぶ。 |
| 7 | 子ども家庭福祉行財政と実施機関 | 子ども家庭福祉を支える機関やその実務内容について理解し、保育者としての実践の基礎について学ぶ。<br>子ども家庭福祉を支える各機関の名前を知り、その機関が行っている児童関係の実務について知る。 |
| 8 | 児童福祉施設等 | 乳児院、児童養護施設をはじめとする児童福祉施設の概要を知り、その法的枠組みと福祉サービスについて学ぶ。<br>児童福祉施設の概要、法的枠組みと福祉サービスについて知ることを通じて、保育分野の取り組みについて知る。 |
| 9 | 子ども家庭福祉の専門職・実施者 | 保育所や施設で働く人たち、地域で子どもを支援する人たちについて知り、実践者という視点から子ども家庭福祉について学ぶ。<br>子ども家庭福祉の専門職や実施者のそれぞれの職場と仕事について知る。 |
| 10 | 少子化と地域子育て支援、母子保健 | 少子化が進行するわが国の現状に対応する施策を保育サービスを中心に概観するとともに、母子保健分野の取り組みについて学ぶ。<br>子育て支援施策の変遷を知り、現代の施策の概要を知る。 |
| 11 | 多様な保育ニーズへの対応 | 地域における多様な保育サービスの展開について知り、保育士としての実践に結び付けて学ぶ。<br>地域における多様な保育サービスについて理解し、子どもを視点として保育者の視点から理解する。 |
| 12 | 児童虐待、ドメスティック・バイオレンス、社会的養護 | 児童虐待の実態、対応について知り、保育者としての対応の基礎知識を得る。ドメスティック・バイオレンス、社会的養護の概要を学ぶ。<br>児童虐待、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律、社会的養護について理解する。 |
| 13 | 障害のある児童、少年非行等への対応 | 在宅障害児の地域の暮らしと支援する制度、少年非行について理解し、保育者としての基本姿勢について学ぶ。 |
| 14 | ひとり親家庭、子どもと食育 | ひとり親家庭の現状について理解し、保育者としての支援について理解する。<br>子どもの食育について知り、保育分野からの取り組みについて知る。<br>母子世帯、父子世帯、母子福祉施設、食育基本法について学ぶ。 |
| 15 | 子ども家庭福祉の動向と展望 | 子ども家庭福祉の方向性を理解し、保育を視点とした取り組みや隣接分野　との連携の在り方について知り、保育現場でなすべきことについて学ぶ。 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>児童家庭福祉 | 専門科目 | 単位数：<br>2 単位 | 担当教員名：武山　美子<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|
| Child and Family Welfare | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP3c | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs1c133 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | ― | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：保育の本質・目的に関する科目 | | |
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 | | |
| 教科書 | 吉田眞理『児童の福祉を支える 子ども家庭福祉 改訂版』　萌文書林 | | |
| 参考文献 | 吉澤英子・西郷泰之著『児童家庭福祉論』　光生館<br>吉澤英子・小舘静枝編『保健・看護・福祉プリマーズ②児童福祉』　ミネルヴァ書房 | | |

授業の概要

わが国では、子どもの貧困、児童虐待、障害児の療育など児童福祉の課題が山積するとともに、待機児童対策が急がれています。

保育士は、すべての子どもの立場に立つことができる児童福祉職であり、子どもの存在を「人」として、「命」そのものとして理屈抜きで受け止められる専門職です。その保育士に必須といえる、児童家庭福祉に関する知識と福祉職としての自覚や態度がこの教科目を通じて、培われることを期待しています。

授業の到達目標及びテーマ

①現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史的変遷について説明できるようになる。

②児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について説明できるようになる。

③児童家庭福祉の制度や実施体系等について説明できるようになる。

④児童家庭福祉の現状と課題について説明できるようになる。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 子ども家庭福祉の理念と概念 | 児童家庭福祉の理念と概念を理解し、児童家庭福祉の実際の活動内容、実践対象と方法について学ぶ。 |
| 2 | 子ども家庭福祉の歴史的変遷 | 児童家庭福祉の歴史を知り、児童家庭福祉の理念や実践の変化を知り現代の児童家庭福祉を理解する基礎について学ぶ。 |
| 3 | 現代社会と子ども家庭福祉 | 現代社会における子育ての実態を知り、児童家庭福祉の必要性について学ぶ。<br>我が国の世帯構造や生活意識の変化、家族の実態を統計資料から読み取り、現代家庭の在り方について知る。 |
| 4 | 子どもの人権擁護１ | 保育を児童家庭福祉の一分野として理解し、児童の権利擁護について保育の視点から学ぶ。<br>児童家庭福祉施設として保育所を理解し、保育士の仕事の全体像について知る。<br>児童の権利に関する条約について理解する。 |
| 5 | 子どもの人権擁護２ | 第４講の学びをもとに子どもの権利を護る仕組みについて学ぶ。<br>子どもの権利を護る福祉の仕組みについて知り、第三者評価事業、苦情解決の仕組み、子どもの権利ノートについて学ぶ。 |
| 6 | 子ども家庭福祉の制度と法 | 児童家庭福祉の制度と法体系について知識を得て、保育分野におけ |

| | | |
|---|---|---|
| | 体系 | る諸制度を理解する基礎について学ぶ。<br>憲法第25条を基本とした福祉の実施を柱とした保育・福祉の法体系の全体像について知り、日本国憲法、児童虐待の防止等に関する法律、次世代育成支援対策推進法についても学ぶ。 |
| 7 | 子ども家庭福祉行財政と実施機関 | 児童家庭福祉を支える機関やその実務内容について理解し、保育者としての実践の基礎について学ぶ。<br>児童家庭福祉を支える各機関の名前を知り、その機関が行っている児童関係の実務について知る。 |
| 8 | 児童福祉施設等 | 乳児院、児童養護施設をはじめとする児童福祉施設の概要を知り、その法的枠組みと福祉サービスについて学ぶ。<br>児童福祉施設の概要、法的枠組みと福祉サービスについて知ることを通じて、保育分野の取り組みについて知る。 |
| 9 | 子ども家庭福祉の専門職・実施者 | 保育所や施設で働く人たち、地域で子どもを支援する人たちについて知り、実践者という視点から児童家庭福祉について学ぶ。<br>児童家庭福祉の専門職や実施者のそれぞれの職場と仕事について知る。 |
| 10 | 少子化と地域子育て支援、母子保健 | 少子化が進行するわが国の現状に対応する施策を保育サービスを中心に概観するとともに、母子保健分野の取り組みについて学ぶ。<br>子育て支援施策の変遷を知り、現代の施策の概要を知る。 |
| 11 | 多様な保育ニーズへの対応 | 地域における多様な保育サービスの展開について知り、保育士としての実践に結び付けて学ぶ。<br>地域における多様な保育サービスについて理解し、子どもを視点として保育者の視点から理解する。 |
| 12 | 児童虐待、ドメスティック・バイオレンス、社会的養護 | 児童虐待の実態、対応について知り、保育者としての対応の基礎知識を得る。ドメスティック・バイオレンス、社会的養護の概要を学ぶ。<br>児童虐待、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律、社会的養護について理解する。 |
| 13 | 障害のある児童、少年非行等への対応 | 在宅障害児の地域の暮らしと支援する制度、少年非行について理解し、保育者としての基本姿勢について学ぶ。 |
| 14 | ひとり親家庭、子どもと食育 | ひとり親家庭の現状について理解し、保育者としての支援について理解する。<br>子どもの食育について知り、保育分野からの取り組みについて知る。<br>母子世帯、父子世帯、母子福祉施設、食育基本法について学ぶ。 |
| 15 | 子ども家庭福祉の動向と展望 | 児童家庭福祉の方向性を理解し、保育を視点とした取り組みや隣接分野との連携の在り方について知り、保育現場でなすべきことについて学ぶ。 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>家庭支援論 | 専門科目 | 単位数：<br>2 単位 | 担当教員名：武山　美子<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|
| Family Support | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP3c | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs2c134 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | — | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：保育の対象の理解に関する科目 | | |
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 | | |
| 教科書 | 「児童の福祉を支える　家庭支援論」吉田眞理著　萌文書林　改訂版（2016 年第 2 版） | | |
| 参考文献 | 「児童の参画」ロジャー・ハート　萌文社　「子育て支援　はじめの一歩」新澤誠治　小学館<br>「家庭と結婚の歴史」関口裕子他　森話社「子育て支援と NPO」原田正文　朱鷺書房 | | |

授業の概要

家庭や地域の子育て機能が低下する中で、保育所等の児童福祉施設には、地域で子育てをしている家庭への支援が求められています。この授業では、家庭の機能の変化や現状、社会的背景、関連分野の実践、法体系、子育て支援サービスについて学習し、実際に家庭支援に取り組む際に役立つ、多角的且つ具体的な方法と考え方について、事例を活用しながら習得します。地域で暮らす子育て中の家族の姿を思い浮かべながら学びを進めていきましょう。

授業の到達目標及びテーマ

①家庭の意義とその機能、子育て家庭を取り巻く社会的状況等について説明できるようになる。
②子育て家庭の支援体制について説明できるようになる。
③子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について説明できるようになる。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 家庭の意義 | 1．家庭とは<br>2．生活の場としての家庭<br>3．事例の検討 |
| 2 | 家庭の機能 | 1．家庭の意義<br>2．子育て中の家庭の機能<br>3．事例の検討 |
| 3 | 家庭支援の必要性 | 1．家庭の変化<br>2．現代の家庭<br>3．事例の検討 |
| 4 | 保育士等が行う家庭支援の原理Ⅰ | 1．家庭支援の理念<br>2．子どもの発達と家族<br>3．事例の検討 |
| 5 | 保育士等が行う家庭支援 | 1．保育士による家庭支援 |

| | | |
|---|---|---|
| | の原理Ⅱ | ２．家庭支援の展開<br>３．事例の検討 |
| 6 | 現代の家庭における人間関係 | １．コミュニケーションと子育て<br>２．家庭における人間関係<br>３．事例の検討 |
| 7 | 家庭生活を取り巻く社会的状況 | １．地域社会の変容と家庭支援<br>２．子どもの放課後<br>３．事例の検討 |
| 8 | 男女共同参画社会と<br>ワークライフバランス | １．男女共同参画社会<br>２．ワークライフバランス<br>３．事例の検討 |
| 9 | 子育て家庭の支援体制 | １．子育て家庭の福祉を図るための社会資源<br>２．住民による家庭支援活動<br>３．事例の検討 |
| 10 | 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 | １．子育て支援施策<br>２．次世代育成<br>３．事例の検討 |
| 11 | 子育て支援サービスの概要 | １．子育て支援サービスの概要<br>２．課題がある家庭への支援<br>３．事例の検討 |
| 12 | 保育所による家庭支援 | １．保育所の子育て支援機能の活用<br>２．家庭の課題への対応<br>３．事例の検討 |
| 13 | 子育て支援と保護者の関係づくりへの支援 | １．プログラム型子育て支援活動<br>２．保護者の関係づくりへの支援<br>３．事例の検討 |
| 14 | 地域の子育て家庭への支援 | １．地域の子育てひろば<br>２．地域の子育て家庭への支援<br>３．事例の検討 |
| 15 | 子育て支援サービスの課題 | １．要保護児童およびその家庭に対する支援と連携<br>２．子育て支援サービスの課題<br>３．事例 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>子ども家庭支援論 | 専門科目 | 単位数：<br>2 単位 | 担当教員名：武山美子<br>担当形態： 単独 |
|---|---|---|---|
| Theory for Family and Parenting Support | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP3C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs2c134 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | ― | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2019 年度から：保育の対象の理解に関する科目（子ども家庭支援論） | | |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 |
| 教科書 | 吉田眞理『児童の福祉を支える こども家庭支援論』　萌文書林 |
| 参考文献 | ロジャー・ハート『児童の参画』　萌文社<br>新澤誠治『子育て支援　はじめの一歩』　小学館<br>関口裕子他『家庭と結婚の歴史』　森話社<br>原田正文『子育て支援と NPO』　朱鷺書房 |

授業の概要

家庭や地域の子育て機能が低下する中で、保育所等の児童福祉施設には、地域で子育てをしている家庭への支援が求められています。この授業では、家庭の機能の変化や現状、社会的背景、関連分野の実践、法体系、子育て支援サービスについて学習し、実際に家庭支援に取り組む際に役立つ、多角的且つ具体的な方法と考え方について、事例を活用しながら習得します。地域で暮らす子育て中の家族の姿を思い浮かべながら学びを進めていきましょう。

授業の到達目標及びテーマ

①子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。
②保育の専門性を生かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。
③子育て家庭に対する支援の体制について理解する。
④子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 子ども家庭支援の意義と必要性 | 第 1 章（1）を学び、子どもが育つ場としての家庭の在り方とそれを支援する意義について理解する |
| 2 | 子ども家庭支援の目的と機能 | 第 1 章（2）を学び、家庭支援の目的と機能について理解する |
| 3 | 子どもの発達と家族 | 第 2 章を学び、子どもの発達に応じた家族や家庭の在り方について理解する |
| 4 | 保育の専門性と子ども家庭支援 | 第 3 章（1）を学び、保育士として家庭を支援する強みについて理解する |
| 5 | 子どもの育ちの喜びの共有 | 第 3 章（2）を学び、保護者相談や保護者との関係づくりにおいて重要な態度について理解する |
| 6 | 保護者や地域の子育て力の向上 | 第 3 章（3）を学び、保護者の子育てする力や地域が子育て支援をする力を育むための考え方を理解する。 |
| 7 | 保育士に求められる基本 | 第 3 章（4）からバイステックの原則を学び、保護者の相談に応ずる |

| | | |
|---|---|---|
| | 的態度 | ときの基本的態度を理解する。 |
| 8 | 家庭の状況に応じた支援 | 第３章（５）を学び、家庭機能を念頭に置いてアセスメントから始める相談支援の考え方を理解する。 |
| 9 | 地域の資源の活用と連携・協力 | 第３章（６）から多様な地域資源や自治体・関係機関について学び、連携や協力の方法を理解する。 |
| 10 | 子育て家庭のための社会資源 | 第４章（１）を学び、家庭が子育てに行き詰ったときに利用できる社会資源を理解する。 |
| 11 | 子育て支援施策 | 第４章（２）を学び、行政の行なっている子育て支援の根幹となる法律や施策を理解する。 |
| 12 | 次世代育成施策の推進 | 第４章（３）（４）を学び、次世代育成に関わる施策と男女共同参画の動向を理解する。 |
| 13 | 多様な支援の展開と関係機関との連携 | 第５章（１）を学び、現在展開されている多様な子育て支援と連携の重要性を理解する。 |
| 14 | 保育所を利用する子どもの家庭、地域の子育て家庭への支援 | 第５章（２）（３）を学び、保育所の利用者や保育所を利用していない保護者の子育て支援について理解する。 |
| 15 | 要保護児童等及びその家族に対する支援 | 第５章（４）を学び、貧困家庭や虐待が疑われる家庭、障害児を育てる家庭や外国につながる家庭への支援について理解する。 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>ボランティア活動 | 専門科目 | 単位数：<br>2 単位 | 担当教員名：吉田　眞理<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|

| Volunteer Activity | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018 年度まで：DP2<br>2019 年度から：DP3C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018 年度まで：CCs3c136<br>2019 年度から：CCs3c136 |
|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | — |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：保育の対象の理解に関する科目<br>2019 年度から：保育の対象の理解に関する科目 |
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 |
| 教科書 | 岡元榮一・菅井直也・妻鹿ふみ子『学生のためのボランティア論』<br>社会福祉法人大阪ボランティア協会 |
| 参考文献 | 幸重忠孝・村井琢磨著『まちの子どもソーシャルワーク』　かもがわ出版<br>吉田眞理『住民参加ってどんなこと？』　新風舎 |

授業の概要

①ボランティア活動を支える理念について学ぶ。

②ボランティア活動の公共性について理解する。

③ボランティア活動が生み出す価値について考察する。

授業の到達目標及びテーマ

①ボランティアの歴史的な背景について学び、社会を変えていく活動であることを理解する。

②ボランティア活動が与える心理的影響について考察する。

③保育現場や社会福祉施設でボランティア体験をし、エピソード記録を書いてみる。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | ボランティア活動とは | ボランティアとは何であるかを学ぶ。 |
| 2 | 公共活動とは | 公共活動とは行政だけが担うものではないことを理解する。 |
| 3 | 公共の担い手 | ボランティア活動の弱点について理解する。 |
| 4 | ボランティアマネジメント | ボランティアマネジメントの必要性について理解する。 |
| 5 | 実践 1―① | ボランティア活動（保育現場）を行う。 |
| 6 | 実践 1―② | ボランティア活動で保育現場のエピソードを記録する。 |
| 7 | 実践 2―① | ボランティア活動（保育現場）を行う。 |
| 8 | 実践 2―② | ボランティア活動で保育現場のエピソードを記録する。 |
| 9 | 実践 3―① | ボランティア活動（保育現場）を行う。 |

| | | |
|---|---|---|
| 10 | 実践3―② | ボランティア活動で保育現場のエピソードを記録する。 |
| 11 | 実践4―① | ボランティア活動（保育現場）を行う。 |
| 12 | 実践4―② | ボランティア活動で保育現場のエピソードを記録する。 |
| 13 | 実践5―① | ボランティア活動（保育現場）を行う。 |
| 14 | 実践5―② | ボランティア活動で保育現場のエピソードを記録する。 |
| 15 | 振り返り | ボランティアの意義について活動をもとに振り返る。 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>音楽表現Ⅱ | 専門科目 | 単位数：<br>2 単位 | 担当教員名：今泉　明美<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|
| Music Expression Ⅱ | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP4c | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs2c121 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | 2018 年度まで：教科に関する科目　音楽 | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：保育の表現技術 | | |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 |
| 教科書 | 今泉明美 他『幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術 -感性と実践力豊かな保育者へ-』　萌文書林<br>鈴木恵津子 他『改訂　ポケットいっぱいのうた』　教育芸術社 |
| 参考文献 | 細田淳子『わくわく音遊びで簡単発表会』　すずき出版<br>細田淳子『わらべうた　手合わせ遊び　子守うた』　すずき出版 |

授業の概要

保育現場の子どもの音楽表現活動を豊かに展開するために必要な基本的知識と技術を、また自然や生活の中の音や音楽に親しむ経験を通して保育環境の構成を、さらに子どもの経験と音楽表現とを関連づける遊びの展開を習得する。具体的には、保育者として必要なコード伴奏法や音楽教育のメソッド等を学び、歌唱や楽器、身体表現を組み合わせた子どもの音楽的な遊びを学習する。

授業の到達目標及びテーマ

①教育・保育実践において必要な伴奏法の知識や技能としてコードネームの学習をする。

②音楽教育のメソッドを各音楽遊びの実践を通して学習する。

③楽器表現や歌唱表現、身体表現の演習で表現力や感性を高め、表現の楽しさを体験する。

④音楽遊びの実践を通して、保育者として必要な音楽基礎技能や音楽基礎意識の活用方法、音楽遊びの支援方法を学習する。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など）28 年度内容（参考） |
|---|---|---|
| 1 | 三和音とコードネーム | 三和音とコードネームについて理解する<br>・三和音（長三和音・短三和音）の構成についての理解<br>・三和音のコードネームの表記法と読み方について |
| 2 | 音階上にできるコード① | 音階上の主要三和音について理解する<br>・主要三和音の種類とその特徴<br>・トニック、ドミナント、サブ・ドミナントの和音機能について |
| 3 | 音階上にできるコード② | 音階上のコードネームについて演習を通して学ぶ<br>・音階の中にできる基本コードと和音記号 |

| | | |
|---|---|---|
| | | ・主要三和音と副三和音の違いについて |
| 4 | 四和音とコードネーム | 属七の和音とコードネームについて理解する<br>・音階上にできる四和音について<br>・属七の和音のコードネーム表記法と読み方<br>・副七の和音について |
| 5 | 和音の転回形 | 和音の転回形の仕方と活用について理解する<br>・和音を転回して用いる意味の理解と、転回形の作り方について<br>・属七の和音の省略形について |
| 6 | コード機能の確認 | 楽譜中のコードから主要三和音と属七の和音の和音機能を確認できるようにする<br>・終止形の種類について<br>・楽譜に書かれた伴奏譜の和音を、コードネームに書き表す。<br>・保育現場の楽曲で多く使われる調性の主要三和音と属七について |
| 7 | コード伴奏法①（演習） | 保育現場で必要なコード（和音）伴奏法について理解する。<br>・旋律にコード伴奏をつける手順の確認をする。<br>・コードをつけた子どもの歌を演奏して、響きを確認する。 |
| 8 | コード伴奏法②（演習） | 伴奏づけにおいて、楽曲にふさわしい伴奏形について理解する。<br>・伴奏をつけた子どもの歌を演奏して、響きを確認する。 |
| 9 | オルフの音楽教育① | オルフの音楽教育の理念と特徴について理解する。<br>・オルフの音楽教育の特徴（即興表現・言葉のリズム）<br>・言葉のリズムの実践 |
| 10 | オルフの音楽教育② | オルフの音楽教育の理念と特徴について理解する。<br>・オルフの音楽教育の特徴（オスティーナート・オルフ楽器）<br>・オスティーナートの実践 |
| 11 | オルフの音楽教育<br>言葉のリズムを使った音楽遊び | オルフの音楽教育、言葉のリズムを使った音楽遊びについて理解する。<br>・言葉のリズムを身体で表現する遊び（ボディパーカッション）<br>・言葉のリズムによる音楽の実践 |
| 12 | オルフの音楽教育<br>言葉のリズムとアンサンブル | オルフの音楽教育、言葉のリズムを使った音楽遊びについて理解する。<br>・言葉のリズムでアンサンブルを行うための実践方法の手順を確認する。<br>・言葉のリズムを身体楽器で表現する。 |
| 13 | 弾き歌いの実践① | 子どもの歌の伴奏として鍵盤楽器（ピアノ）の基本を学ぶ。<br>・ピアノの楽器としての特徴について |

| | | |
|---|---|---|
| | | ・演奏する時の姿勢、手の形 |
| 14 | 弾き歌いの実践② | 子どもの歌の伴奏として鍵盤楽器（ピアノ）の奏法の基本を学ぶ。<br>・打鍵（タッチ）の方法やペダルによる曲想の表現方法<br>・運指番号の設定について |
| 15 | 弾き歌いの実践③演習 | ・子どもの歌を鍵盤楽器（ピアノ）で伴奏する時の留意点を学ぶ。<br>留意点を生かして子どもの歌を弾き歌いする。 |
| 16 | 弾き歌いの実践④演習 | 鍵盤楽器（ピアノ）の様々な演奏法を使って子どもの歌を豊かに表現する。<br>・様々な演奏法を使った曲想の表現について |
| 17 | 子どもの歌唱と歌唱活動 | 子どもの歌唱の意義及び歌唱活動における支援の基本を理解する。<br>・子どもの声と歌唱表現の発達について確認する。<br>・初めて歌う曲についての基本的支援方法を実践しながら理解する。 |
| 18 | 子どもの歌唱活動 | 子どもの歌唱活動の支援の基本を理解する。<br>・歌唱活動の環境について理解する。<br>・歌唱の実態と保育者の支援方法を理解する。 |
| 19 | 日常の音を聴く遊び | 身近な音・音環境について理解する。<br>・日常生活の中に耳を傾け、音を用いて遊ぶ方法について学ぶ。<br>・(サウンドマップ・サウンドスケープ) |
| 20 | 保育の環境と楽器を用いた音楽遊び | 保育現場の音・音楽的な環境を考える。<br>・楽器を用いた音楽遊びを行う際の留意点を学ぶ。<br>・楽器を用いた音楽遊びの提案を考える。 |
| 21 | わらべうた・唱歌・童謡 | わらべうたの意義や特徴を理解する。<br>・わらべうたを歌うことの意義や音楽的特徴ついて基本を学ぶ。 |
| 22 | わらべうた遊びとその支援 | わらべうたの遊び方とその支援について学ぶ。<br>・さまざまなわらべうたの遊び方を知ると共に支援方法を理解する。<br>・わらべうた遊びを実践することで、わらべ歌の意義や特徴を理解する。 |
| 23 | 生活や遊びのなかでの子どもの音楽的表現・クラスでの音楽活動 | 生活や遊びの中、クラス活動での各子どもの音楽的表現を理解する。<br>・生活や遊びのなかでの子どもの音楽的表現を理解する。<br>・クラスでの音楽活動・音楽遊びを理解する。<br>・保育における領域「表現」との関係を理解する。 |
| 24 | 音楽遊びの計画 | 音楽活動の計画の方法を理解する。<br>・具体的な指導計画におけるねらいの位置づけを理解する。<br>・音楽遊びの計画を立てて、音楽遊びの計画を理解する。 |
| 25 | 低年齢児を対象とした楽 | 2、3 歳児の発達を理解しながら、この年齢の楽器遊びを理解する。 |

| | | |
|---|---|---|
| | 器遊びの計画 | ・2，3歳児の心身の発達や音楽的発達を理解する。<br>・音色や音を出すことを中心とした2，3歳児の楽器遊びを理解する。 |
| 26 | 4，5歳児を対象とした楽器遊びの計画① | 4，5歳児の発達を理解しながら、この年齢の楽器遊びを理解する。<br>・4，5歳児の心身の発達や音楽的発達を理解する。<br>・音色やリズムを用いた4，5歳児の楽器活動を理解する。<br>・視覚的教材を用い擬音語を声や身体で表現する遊びを理解する。 |
| 27 | 4，5歳児を対象とした楽器遊びの計画② | 4，5歳児の楽器活動（合奏）を実践しながら理解する。<br>・絵カードからイメージした擬音語を用いた合奏活動を理解する。 |
| 28 | リトミック | リトミック（ダルクローズの音楽教育）ついて理解する。<br>・ダルクローズの音楽教育の考え方と教育目的を理解する。<br>・リトミックの活動方法を理解する。<br>・リトミックを用いた音楽遊びの支援についての留意点を理解する。 |
| 29 | 4，5歳児を対象としたリトミックを用いた音楽遊びの計画① | 4、5歳児の発達を理解しながら、この年齢のリトミックを用いた音楽遊びを理解する。<br>・４歳児の心身の発達や音楽的発達を理解する。<br>・4，5歳児を対象程度としたリトミックを用いた音楽遊びを理解する。<br>・フレーズを用いた遊び |
| 30 | 4，5歳児を対象としたリトミックを用いた音楽遊びの計画② | 4，5歳児程度を対象にしたリトミックを用いた音楽遊びを理解する。<br>・拍子を用いた遊び |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICTの活用 | なし |

| 授業科目名：<br>健康 | 専門科目<br>教員の免許状取得のための必修科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：上野　奈初美<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|

| Health | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP2C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs1c278 |
|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | 領域および保育内容の指導法に関する科目<br>・領域に関する専門的事項　健康 |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | ― |
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 |
| 教科書 | 新無藤隆・倉持清美『新訂 事例で学ぶ保育内容 <領域> 健康』　萌文書林 |
| 参考文献 | 文部科学省『幼稚園教育要領解説』　フレーベル館<br>内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館<br>厚生労働省『保育所保育指針解説書』　フレーベル館 |

授業の概要

領域「健康」の指導に関する幼児の心身の発達、基本的生活習慣、安全な生活、運動発達などの事項について、知識や情報、事例等を通して理解を深めることにより、専門的な知識を身に付ける。

授業の到達目標及びテーマ

①幼稚園教育要領等における領域「健康」のねらい及び内容について理解し、保育の場における指導の基本について説明できる。
②基本的生活習慣とその獲得、子どもの安全について知識を得る。
③子どもの発育・発達を促す運動遊びについて理解できる。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 幼児教育の基本 | 幼児教育の捉え方について理解を深める<br>教科書第１章、教育要領、保育指針、保育・教育要領 |
| 2 | 保育内容・領域「健康」 | 領域「健康」における目的と目標を理解する<br>教科書第１章、教育要領、保育指針、保育・教育要領 |
| 3 | 子どもの育ちと領域「健康」 | 子どものさまざまな面における発育発達の進み方や順序について理解する |
| 4 | 子どもの「健康」をめぐる現状と課題 | 最近の子どもたちの現状と運動能力について理解する<br>第３章、学習の手引き巻末資料 |
| 5 | 子どもの健康と遊び | 子どもの健康と遊びとの関連について理解する |

| | | |
|---|---|---|
| | | 教科書第４章 |
| 6 | 園生活と生活習慣 | 基本的な生活習慣とその意義について理解する<br>教科書第５章 |
| 7 | 子どもの健康と安全教育 | 子どもの安全教育について理解する<br>教科書第６章 |
| 8 | 幼児教育の現代的課題と領域「健康」 | 領域「健康」における今日的課題について理解する<br>教科書第７章 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>人間関係 | 専門科目<br>教員の免許状取得のための必修科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：菊地　篤子<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|
| Human Relations | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP2C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs1c279 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | 領域および保育内容の指導法に関する科目<br>・領域に関する専門的事項　人間関係 | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | ― | | |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 |
| 教科書 | 『ワークで学ぶ　保育内容「人間関係」』菊地篤子著　みらい |
| 参考文献 | 「幼稚園教育要領解説」文部科学省　　フレーベル館<br>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館「保育所保育指針解説書」厚生労働省　　フレーベル館 |

授業の概要

人は、生まれてまず「家族」という人間関係の中で生活を始め、徐々に関わりの世界を周辺に広げていく。幼児の人と関わる力の育ちは関わる対象や場面の中で育まれ、幼児教育はその礎である。本科目では幼児期の人間関係について全般的知識や課題を学ぶ。

授業の到達目標及びテーマ

①領域「人間関係」の指導の基盤となる、幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身につける。
②幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。
③幼児期の人間関係の発達について、幼稚園生活における関係発達論的視点から理解する。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 子どもを取り巻く人間関係 | 第１編第１章<br>子どもを取り巻く社会的背景と人間関係の始まり |
| 2 | 保育における人間関係 | 第１編第２章<br>領域「人間関係」と、園生活で育まれる人間関係について |
| 3 | 乳児期の人間関係 | 第１編第３章　０歳児の人間関係の発達と生活・遊び、身近な大人や保育者の役割 |
| 4 | １歳以上３歳未満児の人間関係 | 第１編第４章　１歳以上３歳未満児の人間関係の発達と生活・遊び、保育者の役割 |
| 5 | ３歳以上児の人間関係 | 第１編第５章　３歳以上児の人間関係の発達と生活・遊び、保育者の役割 |
| 6 | 子どもの人間関係と社会性・道徳性 | 第１編第６章<br>社会性・道徳性の育ち、規範意識の芽生え、大人の役割 |
| 7 | 家庭や地域との連携 | 第１編第７章　保護者と保育者の人間関係、地域との連携 |

| | | |
|---|---|---|
| 8 | 保育者が紡ぐ人間関係とまとめ | 第１編第８章　保育者自身の人間関係、子ども理解と保育の質の向上、今後に向けて |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>環境 | 専門科目<br>教員の免許状取得のための必修科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：野津　直樹<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|
| Environment | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP2C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs1c280 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | 領域および保育内容の指導法に関する科目<br>・領域に関する専門的事項　環境 | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | ― | | |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 |
| 教科書 | 『保育内容「環境」』無藤隆・中坪史典・後藤範子 編著　大学図書出版 2010 |
| 参考文献 | 「幼稚園教育要領解説」文部科学省　フレーベル館<br>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省　フ<br>「保育所保育指針解説書」厚生労働省　フレーベル館 |

授業の概要

領域「環境」の指導に関連する、子どもを取り巻く環境について学ぶ。子どもと環境との関わりについての専門的知識・技術を身に付けることを目的とする。

授業の到達目標及びテーマ

① 環境とは何かを理解する。
② 環境とかかわる力を子どもに培うためには保育者としてどう在るべきか考察できる。
③ 子どもの視点に立った環境を構成する心構えをもつことができる。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 環境とは何か | 環境と５領域としての環境<br>（教科書 第１章 保育とは何か 学習の手引き 3～4 ページ） |
| 2 | 領域 環境のねらい・内容 | 領域 環境のねらい・内容<br>（第２章 領域「環境」について 学習の手引き 5～6 ページ） |
| 3 | 園のあり方としての環境 | 人的環境・物的環境・自然環境・社会環境、危険への対応<br>園での環境構成の実際<br>（教科書 第３章 子どもの生活と環境とのかかわり<br>第４章 園の環境構成 第５章 物とのかかわりと遊び、学習の手引き 7～8 ページ） |
| 4 | 科学との出会いと環境 | 保育における科学とは・教材研究<br>（教科書 第９章 科学との出会いと環境 学習の手引き 9～10 ページ） |
| 5 | 子どもを取り巻く社会環境 | 地域社会とのかかわり・教材研究<br>（教科書 第 11 章 子どもを取り巻く社会環境 学習の手引き 11～12 ページ） |
| 6 | 自然環境とのかかわり | 自然、季節、動植物、小動物とのかかわりの事例について<br>命の移り変わりについて、悲しみについて |

| | | |
|---|---|---|
| | | （教科書 第6章 自然環境とのかかわり 学習の手引き 13～14ページ） |
| 7 | 数量・図形・文字・標識とのかかわり<br>保育と行事 | 保育の中で数量を学ぶということ・教材研究<br>（教科書 第7章 数量と図形とのかかわり　第8章 幼児と文字・標識のかかわり）<br>年中行事を知る、その実際・教材研究<br>（教科書 第10章 保育と行事）（学習の手引き 15～16ページ） |
| 8 | 子どもを取り巻く<br>情報メディア<br>環境教育について | 子どもとコンピュータ・指導計画作成<br>（教科書 第14章 子どもを取り巻く情報メディア）<br>持続発展教育、持続可能な社会とは・模擬保育準備<br>（教科書 第13章 環境教育について）（学習の手引き 17～18ページ） |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICTの活用 | なし |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目名：<br>言葉 | 専門科目<br>教員の免許状取得のための必修科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：馬見塚　昭久<br>担当形態：　単独 |
| Language | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP2C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs1c283 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | 領域および保育内容の指導法に関する科目<br>・領域に関する専門的事項　言葉 | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | ― | | |
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 | | |
| 教科書 | 馬見塚昭久・小倉直子『保育内容「言葉」指導法』　ミネルヴァ書房 | | |
| 参考文献 | 文部科学省『幼稚園教育要領解説』　フレーベル館<br>内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館<br>厚生労働省『保育所保育指針解説書』　フレーベル館<br>小川清実『演習児童文化　保育内容としての実践と展開』　萌文書林 | | |

授業の概要

言葉の意義や機能について事例を通して学ぶとともに、言葉を豊かにする実践や児童文化財の意義と活用方法について体験的に理解し、保育への取り入れ方を考える。

授業の到達目標及びテーマ

①人間にとっての言葉の意義や機能について理解する。
②言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解する。
③幼児の発達における児童文化財の意義を理解する。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 人間と言葉 | 人間にとっての言葉の意義と機能（4 章①　pp.68-77） |
| 2 | 子どもの言葉の発達過程 | 子どもの言葉の発達過程と気づき<br>（2 章①、②　pp.26-45） |
| 3 | 言葉の楽しさや美しさ | 言葉の楽しさや美しさ（演習課題⑤ p.101　⑧ p.153） |
| 4 | 子どもの発達と言葉遊び | 子どもの発達と言葉遊びの関係性（4 章②　pp.77-82<br>5 章①　pp.86-93　6 章②　pp.116-121） |
| 5 | 言葉遊びの実際 | 言葉遊びの活用方法を考える<br>（4 章②　pp.77-85　5 章②　pp.94-103） |
| 6 | 児童文化財とは | 児童文化財の種類と保育における意義（6 章①　pp.104-116） |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 児童文化財の活用 | 児童文化財について体験する（6 章②　pp.116-121） |
| 8 | 子どもの発達と児童文化財 | 言葉を育てる模擬保育（演習課題⑥ pp.122-124） |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>表現（造形） | 専門科目<br>教員の免許状取得のための必修科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：吉田　収<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|
| Representation(Art) | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP2C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs1c281 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | 領域および保育内容の指導法に関する科目<br>・領域に関する専門的事項　表現 | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | ― | | |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 |
| 教科書 | 「生活事例からはじめる　造形表現」　宮川萬寿美 編著　吉田收、野津直樹　青踏社 |
| 参考文献 | 「保育をひらく造形表現」槇英子著　萌文書林 2008<br>「幼児造形の基礎　乳幼児の造形表現と造形教材」樋口一成編著　萌文書林 2018<br>「幼稚園教育要領解説」文部科学省　フレーベル館<br>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省　フ<br>「保育所保育指針解説書」厚生労働省　フレーベル館 |

授業の概要

子どもたちは遊びを通して色々な事を学びます。造形での遊びは、頭や体全体を使って表現することで、人間らしい知識や心を獲得していきます。子どもたちの清新な発想や創造的な思考を理解するためには、それに同調できるアンテナを持っていなければなりません。そのためには、自分の感性を高め、柔軟な思考を保っていくことが重要です。先ずは自分の表現に向き合い、自分の表現を確認して下さい。そして、子どもたちの表現を受け止め理解していく柔軟な感性を学んで下さい。

授業の到達目標及びテーマ

到達目標

表現(造形)では、領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身に付ける。

テーマ

①幼児の感性と表現

幼児の表現の姿や、その発達を理解する。

②様々な表現における基礎的な内容

様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 幼児期の造形表現について | ・造形の意義と幼児期の造形に関する発達を理解する。 |

| | | |
|---|---|---|
| | | Ⅰ 第１章２（６）～（７）、Ⅱ 第１章１～２<br>『学習の手引き』添付資料 |
| ２ | 平面表現① | ・造形で多く使われる平面の素材である絵の具や描画材の性質<br>や特性を学ぶ。<br>・平面表現における素材の活用法を知り、応用する術を学ぶ。<br>Ⅰ 第１章 １、２（４） |
| ３ | 平面表現② | ・平面表現から、版画を応用した表現方法を知る。<br>・幼児造形における版画の活用法を学ぶ。<br>Ⅰ 第１章 ２（２）～（３） |
| ４ | 立体表現① | ・立体素材の代表である粘土の意義を学ぶ。<br>・粘土の種類と特性を知り、活用方法を学ぶ<br>Ⅰ 第１章 ３（１） |
| ５ | 立体表現② | ・立体素材の木や紙の特徴を知り、造形への活用法を学ぶ。<br>・立体素材を扱うための道具の使用方法を学ぶ。<br>Ⅰ 第１章 ３（２）～（４） |
| ６ | 表現の原理（色彩） | ・造形の基礎となる表現の原理である、色彩の基礎を学ぶ。<br>『学習の手引き』添付資料 |
| ７ | 協働しての表現 | ・造形における協働での作品制作の在り方を学ぶ。<br>Ⅰ 第１章２（５）１、Ⅱ 第２章、Ⅲ |
| ８ | 保育での模擬保育 | ・実習を行うにあたり、造形活動を念頭に置いた指導計画作成の手順を学ぶ。<br>Ⅱ 第３章１、２ |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと。 |
| ICT の活用 | なし |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目名：<br>表現（音楽） | 専門科目<br>教員の免許状取得のための必修科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：今泉明美<br>担当形態： 単独 |
| Representation（Music） | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP2C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs1c282 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | 領域および保育内容の指導法に関する科目<br>・領域に関する専門的事項　表現 | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | ― | | |

| | |
|---|---|
| 実務経験と関連性 | **声楽家として声楽コンサートにおける自身の歌う曲の楽曲解説や童謡コンサートの企画及び同コンサートにおける聴衆に向けての楽曲解説・司会進行等の経験・実績を生かすと共に、幼稚園教諭・保育士者養成課程のための音楽表現の教科書『幼稚園教諭・保育士養成課程　子どものための音楽表現技術～感性と実践力豊かな保育者へ』を執筆し、保育者養成としての音楽理論、音楽表現実践を指導する。** |
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 |
| 教科書 | 今泉明美 他『幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術 -感性と実践力豊かな保育者へ-』　萌文書林<br>鈴木恵津子 他『改訂　ポケットいっぱいのうた』　教育芸術社 |
| 参考文献 | 文部科学省『幼稚園教育要領解説』　フレーベル館<br>内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館<br>厚生労働省『保育所保育指針解説書』　フレーベル館 |

授業の概要

幼児の音楽的遊びや生活と領域「表現」の関連性、幼児の音楽的発達を理解する。様々な音楽的表現活動を通して音楽の楽しさを味わうと共にその楽しさの要因を音楽的知識から探る。また音楽表現活動を通して他者の表現への共感や表現を豊かにしていく過程を学び、まとめとして幼児の音楽表現活動計画を立案し実践する。

授業の到達目標及びテーマ

到達目標

表現(音楽)では、領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身に付ける。ここでは、特に幼児の楽器を用いた音楽表現に視点を当ててや、その発達の理解、様々な音楽表現の実践を通して、領域「表現」における音楽表現の指導の基盤となり、幼児の感性や音楽表現の育成につながる音楽的基礎知識や技能、感性を身につける。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 音板打楽器の知識と奏法･器楽活動における音環境と留意点 | 器楽：音板打楽器の発音の仕組みと奏法について<br>幼児の器楽活動における音環境と留意点について<br>(Part1.4-⑤Part2．3-4 Challege35) |
| 2 | 音楽的発達と幼児の器楽指導・合奏① | 器楽：乳幼児の音楽的発達と器楽の導入･指導について<br>簡易打楽器（タンブリン・カスタネット）の理解<br>「大きな栗の木の下で」など　年齢別(3 歳児)器楽合奏の実践と指導(Part2.1-5Part1.4-2-①②Challege30、31) |
| 3 | 音楽的発達と幼児の器楽指導・合奏② | 器楽：乳幼児の音楽的発達と器楽の導入･指導について<br>簡易打楽器（鈴・トライアングル）の理解「夕焼け小焼け」年齢別(４歳児)器楽合奏の実践と指導(Part2. 1-5、Part1.4-2-③④Challege32、33、34) |
| 4 | 音楽的発達と幼児の器楽指導・合奏③ | 器楽：乳幼児の音楽的発達と器楽の導入･指導について<br>色々な楽器やリズムに親しむ「山の音楽家」など<br>年齢別(５歳児)器楽合奏の実践と指導(Part2. 1-5、Part1.4-1-①-⑤Challege29) |
| 5 | 楽器遊びにつながる表現活動 | 日常の音を聴く遊び・ボディーパーカッション<br>オルフの音楽教育(Part2.3-1-2 Challege44) |
| 6 | 音楽遊びの指導計画 | 音楽遊びの指導計画の概要と作成方法(Part2.4-1-①②③Challege46) |
| 7 | 音楽遊びの計画案の理解と実践① | 低年齢児を対象とした音楽遊び計画案の理解と音楽遊びの実践①楽器活動～卵のマラカスを用いた「たなばたさま」遊び(Part2. 4-2-①　Challege47) |
| 8 | 音楽遊びの計画案の理解と実践②<br>遊びの環境 | 4，5 歳児を対象とした音楽遊び計画案の理解と音楽遊びの実践②楽器活動～言葉のリズムを用いた「とけいのうた」の合奏　音楽遊びの環境(Part2. 4-2-②Challege48) |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>保育者論 | 専門科目 | 単位数：<br>２単位 | 担当教員名：野津　直樹<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|
| Theory of Nursery school and Kindergarten Teacher | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018 年度まで：DP4c<br>2019 年度から：DP3C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018 年度まで：CCs1c345<br>2019 年度から：CCs1n148 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | 2018 年度まで：教職の意義等に関する科目<br>・教職の意義及び教員の役割<br>・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）<br>・進路選択に資する各種の機会の提供等<br>2019 年度から：教育の基礎的理解に関する科目<br>教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校への対応を含む。） | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：保育の本質・目的に関する科目<br>2019 年度から：保育の本質・目的に関する科目（保育者論） | | |
| 実務経験と関連性 | 私立幼稚園において、そこに従事する保育者を教務主事として指導してきた経験を持つ教員が、保育者とは何か、学生一人一人が目指していく保育者像を追及すべく指導を行う。 | | |
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 | | |
| 教科書 | 野津直樹・宮川萬寿美編著『保育者論』萌文書林 初版 2020 年 | | |
| 参考文献 | 『保育所保育指針解説書』フレーベル館、『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館<br>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 | | |

授業の概要

本授業では「保育者とは何か」を命題として、学生一人一人が目指していくべき保育者像を追及していく。教職の意義、その役割や資質能力、職務内容について言及していく。また、実際の現場で保育者が働いている様子から伺える様々な葛藤や成長、多くの人やものとの出会いなどのエピソードを伝えながら講義を進めていく。

授業の到達目標及びテーマ

① 専門職としての保育者の専門性を理解する。
② 保育者に求められている役割を理解する。
③ 自分なりの保育観を確立する。
④ 保育者の制度的な位置づけを理解する。
⑤ 保育者の仕事と役割を理解する。
⑥ 保育者間の協働、関連機関との連携、保護者との連携について理解する。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 保育者とは | 現在持っている保育者観を明確にし、保育とは何か、保育者とは何かについて理解する。<br>幼稚園教諭・保育士・保育教諭を比較しながら、それぞれの法的根拠を知る。（教科書 第1章 保育者とは） |
| 2 | 幼稚園教諭とは | 幼稚園教諭の役割を知る。それをしっかりと覚え自身の保育にいかす。<br>（教科書 第2章 幼稚園教諭とは） |
| 3 | 保育士とは | 保育士の役割を知る。それをしっかりとおさえた上で自身の保育にいかす。（教科書 第3章 保育士とは） |
| 4 | 保育教諭および施設で働く保育者 | 保育教諭の役割を知る。施設で働く保育者の役割を知る。それらをしっかりとおさえた上で自身の保育にいかす。<br>（教科書 第4章 保育教諭および施設で働く保育者） |
| 5 | 保育の現代的な問題① | 子どもの最善の利益とは何かについて学ぶ。<br>（教科書 第5章 保育の現代的な問題） |
| 6 | 保育者の制度的位置付け | 保育者の法的な定義について学ぶ。<br>（教科書 第6章 保育者の制度的位置付け） |
| 7 | 保育者の資質・能力 | 保育者の専門性を学ぶ。それを通して保育者に求められる資質・能力を知る。（教科書 第7章 保育者の資質・能力） |
| 8 | 養護及び教育の一体的展開 | 養護と教育を一体的に行うことについて理解する。<br>（教科書 第8章 養護及び教育の一体的展開） |
| 9 | 保育の質の向上 | 保育の質の向上について学ぶ。<br>（教科書 第9章 保育の質の向上） |
| １０ | 計画に基づく保育の実践と省察・評価 | 保育の質の向上を目指すべくPDCAサイクルについて学ぶ。<br>（教科書 第10章 計画に基づく保育の実践と省察・評価） |
| １１ | 園内の保育者チーム及び家庭との連携 | 他の教職員や家庭との連携について学ぶ。<br>（教科書 第11章 園内の保育者チーム及び家庭との連携） |
| １２ | 専門機関や地域との連携 | 保育者として連携すべき様々な専門機関等について学ぶ。<br>（教科書 第12章 専門機関や地域との連携） |
| １３ | 保育者の葛藤と成長 | 保育者として葛藤するということを学ぶ。<br>（教科書 第13章 保育者の葛藤と成長） |
| １４ | 保育の現代的な問題② | 保育者として働き続けるための心の持ち様、必要なスキルについて学ぶ。（教科書 第14章 保育の現代的な問題） |
| １５ | 保育者を目指すあなたへ | これまでの保育者論の学びを振り返る。<br>（教科書 第15章 保育者を目指すあなたへ） |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICTの活用 | なし |

<table>
<tr><td>授業科目名：<br>教育原理</td><td>専門科目<br>教員の免許状取得のための<br>必修科目</td><td>単位数：<br>1 単位</td><td>担当教員名：内山　絵美子<br>担当形態：　単独</td></tr>
<tr><td>Principle of Education</td><td colspan="2">ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018 年度まで：DP4c<br>2019 年度から：DP2C</td><td>ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018 年度まで：CCs1c346<br>2019 年度から：CCs1n149</td></tr>
<tr><td>教職課程科目区分に含める必要事項</td><td colspan="3">2018 年度まで：教育の基礎理論に関する科目<br>・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想<br>2019 年度から：教育の基礎的理解に関する科目<br>・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</td></tr>
<tr><td>指定保育士養成施設指定基準における科目の系列</td><td colspan="3">2018 年度まで：保育の本質・目的に関する科目<br>2019 年度から：保育の本質・目的に関する科目（教育原理）</td></tr>
<tr><td>成績評価</td><td colspan="3">科目修得試験により評価する。</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="3">中村弘行著「人物で学ぶ教育原理」三恵社（使用テキストの版：第 10 刷改版発行）</td></tr>
<tr><td>参考文献</td><td colspan="3">・田嶋一、中野新之祐、福田須美子、狩野浩二著『やさしい教育原理』（第 3 版）有斐閣アルマ、2016 年</td></tr>
</table>

授業の概要

　教育の理念、思想、歴史などの検討を通して教育学の基礎的な知識について体系的に学ぶとともに、教育にかかわる今日的な課題についても原理的に考察する。教えることや学ぶことはどのような営みなのか、先人の教育観や子ども観を学び、現代的に考えることができるようにすることを目指す。

授業の到達目標及びテーマ

①教育学の基礎的な概念について学び、教育の本質や意義について説明できる。
②教育の歴史から教育のあり方や子どもの捉え方など家庭や社会における教育について理解する。
③幼児教育・保育において重要となる子ども中心、経験や活動中心の教育理論や思想を理解する。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 教育の本質・意義 | 教育とは何か、教育の必要性や可能性、保育との関連について学ぶ（第１章） |
| 2 | 西洋の教育思想（17 世紀～18 世紀） | コメニウス、ロック、ルソーの思想について学ぶ（第 2 章-1, 2, 3）。 |
| 3 | 西洋の教育思想（18 世紀末～19 世紀） | フレーベル、デューイ、モンテッソーリの思想について学ぶ。（第 2 章-5, 6, 7） |
| 4 | 日本の教育思想（江戸～明治） | 貝原益軒、佐藤信淵、福沢諭吉の思想について学ぶ。（第 3 章-1,2,3） |
| 5 | 日本の教育思想（明治～昭和） | 森有礼、倉橋惣三、城戸幡太郎の思想について学ぶ（第 3 章-4,5,6） |
| 6 | 外国教育史 | 古代ギリシャから近代ヨーロッパにおける教育思想や歴史を学ぶ（第 4 章） |
| 7 | 日本教育史 | 古代から昭和初期までの日本の教育思想や歴史を学ぶ。（第 5 章） |
| 8 | 理想の教育実践 | ・学校制度成立以降、その教育の実践がどのように工夫され、変化してきたのかを学び、よりよい教育内容や方法はいかなるものかを探求する。（第 6 章） |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目名：<br>教育制度論 | 専門科目<br>教員の免許状取得のための<br>必修科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：内山　絵美子<br>担当形態：　単独 |

| | | |
|---|---|---|
| Theory of Educational System and Organization | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018 年度まで：DP4c<br>2019 年度から：DP2C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018 年度まで：CCs1c347<br>2019 年度から：CCs1n150 |

| | |
|---|---|
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | 2018 年度まで：教育の基礎理論に関する科目<br>・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項<br>2019 年度から：教育の基礎的理解に関する科目<br>・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。） |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：保育の本質・目的に関する科目<br>2019 年度から：保育の本質・目的に関する科目（教育原理） |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 |
| 教科書 | 『新訂版　保育者・小学校教員のための教育制度論―この一冊で基礎から学ぶ』内山絵美子・山田知代・坂田仰編著　教育開発研究所 |
| 参考文献 | 『だれのための保育制度改革―無償化・待機児童解消の真実』中山徹著 自治体研究社 |

授業の概要

学校制度をはじめとする教育制度の基本的な仕組みや社会的役割を学ぶ。また、教育制度の改革の動向から、現代の教育における課題に対しどう対処しようとしているのかを学び、教育制度の問題解決的な側面を理解する。それにより、子どもを取り巻く社会的制度的環境について自らの考えを深めることを目指す。

授業の到達目標及びテーマ

①学校や教育、保育に関する基本的な仕組みについて目的や具体的な決まりを説明できる。

②現行の教育制度における様々な課題と解決に向けた取り組みについて理解する。

③子ども、教育者、教育実践、社会全体に資する教育制度の在り方について考えることができる。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 教育制度とは何か | 教育を受ける権利を保障する仕組み、公教育の原理を理解する（第１章・第２章） |
| 2 | 学校教育に関する仕組み | 学校の基本的な仕組みについて理解する（第３章・第６章） |
| 3 | 就学前の教育・保育に関する仕組み | 就学前の教育・保育、児童福祉に関する基本的な仕組みについて理解する（第４章・第５章） |

| | | |
|---|---|---|
| 4 | 教育行政の仕組み | 教育活動を支える作用について学ぶ（第 9 章） |
| 5 | 学校経営と学校・家庭・地域との連携に関する仕組み | 学校経営に関する基本事項および学校・家庭・地域の連携を支える仕組みについて学ぶ（第 10・11 章） |
| 6 | 特別支援教育の仕組み | 特別なニーズへの対応について考える（第 7 章） |
| 7 | 子どもの安全・安心に関する仕組み | 子どもの問題行動や事故について知り学校安全や安心について考える（第 12 章・第 14 章） |
| 8 | 子育て支援の仕組み | 保育・教育改革の動向、今後の課題について知る（第 15 章） |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目名：<br>保育の心理学Ⅰ | 教員の免許状取得のための必修科目 | 単位数：<br>2 単位 | 担当教員名：杉﨑　雅子<br>担当形態：　単独 |
| Psychology in Early Child Care and Education Ⅰ | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018 年度まで：DP4c<br>2019 年度から：DP4C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018 年度まで：CCs1c348<br>2019 年度から：CCs1n152 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | 教育の基礎理論に関する科目<br>幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。） | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：保育の対象の理解に関する科目<br>2019 年度から：保育の対象の理解に関する科目（保育の心理学） | | |
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 | | |
| 教科書 | 『実践につながる新しい保育の心理学』　大浦賢治　ミネルヴァ書房　2019 年 | | |
| 参考文献 | 「保育所保育指針解説」厚生労働省　フレーベル館、「幼稚園教育要領解説」文部科学省　フレーベル館、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館、「生活事例からはじめる保育の心理学」　宮川萬寿美・神蔵幸子編著　青踏社　2018　第２版 | | |

授業の概要

子どもの発達に関する代表的な理論を踏まえ、乳幼児期から成人期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解していく。また、主体的な遊びや学習活動を支える指導の基礎となる考え方を学ぶ。

授業の到達目標及びテーマ

① 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。
② 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。
③ 子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 子どもの発達を理解することの意義 | 保育者が子どもの発達を学ぶ意義を理解する（第 1 章） |
| 2 | 子どもの発達と環境 | 子どもの発達に影響を与える環境について学ぶ（第 2 章） |
| 3 | 子ども観・保育観と発達理論からの視点 | 子ども観、保育観の歴史的な展開と、発達理論の子どもに対する視点を学ぶ（第 3 章） |
| 4 | 社会情動的発達 | 社会情動的発達について学ぶ（第 4 章） |
| 5 | 身体機能と運動機能の発達 | 身体機能や運動機能（全身運動と手指の操作）の発達について学ぶ。（第 5 章） |
| 6 | 認知の発達 | ピアジェの発達理論から認知の発達について学ぶ（第 6 章） |
| 7 | 言語の発達 | 言語発達について学ぶ（第 7 章） |
| 8 | アセスメント | アセスメントの種類や意義、発達障害等支援の必要な子どもの特性を知る（第 8 章） |
| 9 | ０、１、２歳の発達 | 誕生から２歳ごろまでの発達的特徴と発達課題について学ぶ（第 9 章） |
| １０ | ３、４、５歳の発達 | ３歳～５歳の発達的特徴と発達課題について学ぶ（第 10 章） |
| １１ | 学童期から青年期までの発達 | 学童期、青年期の特徴を学ぶ（第 11 章） |
| １２ | 成人期から老年期までの発達 | 成人期の心理とライフイベントに伴う心理的葛藤について学ぶ。老年期の加齢に伴う現象と成熟する側面について学ぶ（第 12 章） |
| １３ | 乳幼児期の学びに関する理論 | 学びに関する理論について学ぶ（第 13 章） |
| １４ | 乳幼児期の学び（遊び）の過程と特性 | 「遊ぶこと」の意味や遊びの機能について学ぶ（第 14 章） |
| １５ | 乳幼児期の学び（遊び）を支える保育 | 主体的に遊ぶということについて保育実践から学ぶ（第 15 章） |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>保育カリキュラム論 | 専門科目<br>教員の免許状取得のための<br>必修科目 | 単位数：<br>２単位 | 担当教員名：内山　絵美子<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|
| Curriculum in Early Child Care and Education | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP5C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs2c354 | |

| | |
|---|---|
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | 2019 年度まで：教育の基礎的理解に関する科目<br>・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。） |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2019 年度から：保育の内容・方法に関する科目（保育の計画と評価） |
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 |
| 教科書 | ①「保育の計画と評価ー幼稚園・保育所・認定こども園の豊かな保育実践のために（第2版）」<br>宮川萬寿美 編著　萌文書林<br>②「平成 29 年告示　幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・保育所保育指針　原本」　内閣府・文部科学省・厚生労働省　チャイルド社 |
| 参考文献 | なし |

授業の概要

根拠法令に基づいて、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針等に沿って、教育課程・保育の全体的な計画等の編成や指導計画の作成・立案について学習する。子どもの望ましい育ちを目指して、育てたい姿を描くことや、子どもの実態に即した指導計画の立て方や環境構成に関して学び、実習の指導計画案を作成できるようにしていく。

授業の到達目標及びテーマ

① 保育における計画の意義を理解し、その編成の基本的な考え方を理解している。

② 教育課程・保育の全体的な計画（保育課程）および長期の指導計画をもとに子どもの実態に即した短期の指導計画を作成することがきる

③ ＰＤＣＡによる保育の質の向上の考え方を学び、保育を評価・省察できる

授業計画【印刷教材】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 保育における計画と評価の意義 | 保育における計画・評価の必要性について理解する<br>教科書①第１章　　教科書②要領・指針総則 |
| 2 | カリキュラムの基礎理論 | カリキュラムと何か、保育におけるカリキュラムの特性を学ぶ<br>教科書①　第１章 |
| 3 | 教育課程・保育課程の歴史と変遷 | 幼稚園教育要領・保育児保育指針の変遷を知る<br>教科書①　第１章 |
| 4 | 社会の変化と保育に求められるもの | 「育みたい資質･能力」「幼児教育の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」を学ぶ |

| | | |
|---|---|---|
| | | 教科書①　第１章　　教科書②要領・指針総則 |
| 5 | 幼稚園における計画 | 幼稚園における計画の特徴について知る<br>教科書①第２章　教科書②幼稚園教育要領・総則 |
| 6 | 保育所・認定こども園における | 保育所・認定こども園の計画の特徴について知る<br>教科書①第２章　　教科書②幼稚園教育要領・保育内容 |
| 7 | 教育課程編成の方法と手順 | 幼稚園の教育課程の編成の要件や実際の事例を検討する。<br>教科書①第３章　教科書②幼稚園教育要領・総則 |
| 8 | 子ども理解に基づく計画と評価 | 子どもの実態の捉え方、計画への生かし方を学ぶ<br>教科書①第１章・４章 |
| 9 | 指導計画におけるねらいと内容 | 指導計画におけるねらいと内容の意味や考え方について学ぶ<br>教科書①第４章　教科書②要領・指針総則 |
| １０ | 指導計画の作成と展開<br>(1) ―指導計画の基本 | 長期の指導計画と短期の指導計画の関連について学ぶ<br>教科書①第５章　教科書②要領・指針総則 |
| １１ | 指導計画の作成と展開<br>(2) ―3 歳未満児 | ０・１・２歳児の指導計画について学ぶ<br>教科書①第５章・６章　教科書② |
| １２ | 指導計画の作成と展開<br>(3) ―3 歳以上児 | 3・４・５歳児の保育と指導計画のについて学ぶ<br>教科書①第５章・６章　教科書② |
| １３ | 指導計画案の作成と展開<br>(4) ―その他の計画 | 行事の計画、食育計画、保健計画、安全計画等について学ぶ<br>教科書①第５章・６章教科書② |
| １４ | 保育の省察および記録 | 省察の記録の意義、帳票や日誌の内容について知る<br>教科書①第７章 |
| １５ | 保育の評価と改善 | 保育者の自己評価と園の自己評価、カリキュラム・マネジメントについて知る<br>教科書①第８章　教科書②要領・指針総則 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICT の活用 | 自分の行く実習園に関してインターネット等で教育課程を確認しましょう |

| 授業科目名：<br>保育課程論 | 専門科目<br>教員の免許状取得のための<br>必修科目 | 単位数：<br>２単位 | 担当教員名：内山　絵美子<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|
| Curriculum in Early Child Care and Education | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP5C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs2c354 | |

| | |
|---|---|
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | 2019 年度まで：教育の基礎的理解に関する科目<br>・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。） |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2019 年度から：保育の内容・方法に関する科目（保育の計画と評価） |
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 |
| 教科書 | ①「保育の計画と評価ー幼稚園・保育所・認定こども園の豊かな保育実践のために（第2版）」<br>宮川萬寿美 編著　萌文書林<br>②「平成 29 年告示　幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・保育所保育指針　原本」　内閣府・文部科学省・厚生労働省　チャイルド社 |
| 参考文献 | なし |

授業の概要

根拠法令に基づいて、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針等に沿って、教育課程・保育の全体的な計画等の編成や指導計画の作成・立案について学習する。子どもの望ましい育ちを目指して、育てたい姿を描くことや、子どもの実態に即した指導計画の立て方や環境構成に関して学び、実習の指導計画案を作成できるようにしていく。

授業の到達目標及びテーマ

① 保育における計画の意義を理解し、その編成の基本的な考え方を理解している。

② 教育課程・保育の全体的な計画（保育課程）および長期の指導計画をもとに子どもの実態に即した短期の指導計画を作成することがきる

③ ＰＤＣＡによる保育の質の向上の考え方を学び、保育を評価・省察できる

授業計画【印刷教材】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 保育における計画と評価の意義 | 保育における計画・評価の必要性について理解する<br>教科書①第１章　　教科書②要領・指針総則 |
| 2 | カリキュラムの基礎理論 | カリキュラムと何か、保育におけるカリキュラムの特性を学ぶ<br>教科書①　第１章 |
| 3 | 教育課程・保育課程の歴史と変遷 | 幼稚園教育要領・保育児保育指針の変遷を知る<br>教科書①　第１章 |
| 4 | 社会の変化と保育に求められるもの | 「育みたい資質･能力」「幼児教育の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」を学ぶ |

| | | |
|---|---|---|
| | | 教科書①　第１章　　教科書②要領・指針総則 |
| 5 | 幼稚園における計画 | 幼稚園における計画の特徴について知る<br>教科書①第２章　教科書②幼稚園教育要領・総則 |
| 6 | 保育所・認定こども園における | 保育所・認定こども園の計画の特徴について知る<br>教科書①第２章　　教科書②幼稚園教育要領・保育内容 |
| 7 | 教育課程編成の方法と手順 | 幼稚園の教育課程の編成の要件や実際の事例を検討する。<br>教科書①第３章　教科書②幼稚園教育要領・総則 |
| 8 | 子ども理解に基づく計画と評価 | 子どもの実態の捉え方、計画への生かし方を学ぶ<br>教科書①第１章・４章 |
| 9 | 指導計画におけるねらいと内容 | 指導計画におけるねらいと内容の意味や考え方について学ぶ<br>教科書①第４章　教科書②要領・指針総則 |
| １０ | 指導計画の作成と展開<br>(1) ―指導計画の基本 | 長期の指導計画と短期の指導計画の関連について学ぶ<br>教科書①第５章　教科書②要領・指針総則 |
| １１ | 指導計画の作成と展開<br>(2) ―3 歳未満児 | ０・１・２歳児の指導計画について学ぶ<br>教科書①第５章・６章　教科書② |
| １２ | 指導計画の作成と展開<br>(3) ―3 歳以上児 | 3・４・５歳児の保育と指導計画のについて学ぶ<br>教科書①第５章・６章　教科書② |
| １３ | 指導計画案の作成と展開<br>(4) ―その他の計画 | 行事の計画、食育計画、保健計画、安全計画等について学ぶ<br>教科書①第５章・６章教科書② |
| １４ | 保育の省察および記録 | 省察の記録の意義、帳票や日誌の内容について知る<br>教科書①第７章 |
| １５ | 保育の評価と改善 | 保育者の自己評価と園の自己評価、カリキュラム・マネジメントについて知る<br>教科書①第８章　教科書②要領・指針総則 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICT の活用 | 自分の行く実習園に関してインターネット等で教育課程を確認しましょう |

| 授業科目名：<br>教育社会学 | 専門科目<br>教員の免許状取得のための選択科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：間野　百子<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|

| Educational Sociology | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP2C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs2c251 |
|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | 2019 年度から：教育の基礎的理解に関する科目<br>・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。） |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2019 年度から：保育の本質・目的に関する科目 |
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 |
| 教科書 | 片山悠樹・内田良・古田和久・牧野智和『半径５メートルからの教育社会学』<br>大槻書店 |
| 参考文献 | なし |

授業の概要

教育を社会現象として捉え、人間の成長・発達過程に影響を与える、教育・社会環境について、教育改革の動向、多様化・複雑化する様々な教育課題への対処の在り方などの観点から実証的に検討していく。新聞やテレビ、インターネット、雑誌などで報道される教育に関する記事やニュースに関心をもち、収集しておくことが望ましい。

授業の到達目標及びテーマ

① 子ども・若者を取り巻く、教育・社会環境の変化に関する理解を深める。
② 学校を巡る様々な教育的課題に対する指導のあり方を理解する。
③ 学校教育の改革の趣旨と動向を理解する。
④ 国の内外の教育事情や教育改革の動向に関する知見を深める。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 教育機会の平等について | 学力の獲得と努力主義神話について（第Ⅰ部第１章） |
| 2 | 教育と家庭環境 | 文化的再生産と文化資本について（第Ⅰ部第１章） |
| 3 | 学校に「行っていない」子どもたちの現状と課題 | 学校に「行っていない」こどもを生み出した社会的背景と課題（第Ⅱ部第４章） |
| 4 | 教育の機会均等 | 高学歴社会における教育機会の格差（第Ⅰ部第３章） |
| 5 | 家庭と学校を巡る課題① | 貧困世帯の子どもたち（第Ⅱ部第５章） |
| 6 | 学校を巡る課題① | 不登校児童・生徒の増加現象と学校外での学び（第Ⅱ部第６章） |
| 7 | 学校を巡る課題② | 社会問題としてのいじめ（第Ⅳ部第 11 章） |

| | | |
|---|---|---|
| 8 | 困難を抱える少年支援 | 困難や非行を抱える少年理解と支援方法（第Ⅳ部第 12 章） |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>保育内容総論Ⅱ | 専門科目<br>教員の免許状取得のための必修科目 | 単位数：<br>２単位 | 担当教員名：宮川　萬寿美<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|
| Guidance of Early Child Care and EducationⅡ | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP4c | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs2c252 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | 2018 年度まで：教育課程及び指導法に関する科目<br>・保育内容の指導法 | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：保育の内容・方法に関する科目 | | |
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 | | |
| 教科書 | ①　「生活事例からはじめる―保育内容総論」　第３版　神蔵幸子・宮川萬寿美編著（青踏社）<br>②　「平成 29 年度告示　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領　原本」内閣府・文部科学省・厚生労働省（チャイルド本社）<br>③　「保育する力」　初版　吉田眞理編著（ミネルヴァ書房） | | |
| 参考文献 | 「子どもと楽しむ　行事とあそびのえほん」すとうあさえ　のら書店 | | |

授業の概要

子どもは環境の中で生活し、その環境とのかかわりの中で心身ともに成長し発達していく。保育内容総論Ⅱでは、保育を総合的にとらえる視点を確かなものとし、指導計画に基づいて、集団遊びや活動が展開できるように模擬授業を想定して、「領域」や「行事」などの展開を考える。幼稚園・保育所での乳幼児の生活と遊びを様々な側面から捉え、養護と教育が一体となった保育という営みを、多様に展開できることを目指したい。

授業の到達目標及びテーマ

① 幼稚園教育要、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領に基づき、子どもの発達過程を踏まえた保育を展開するための知識を身に付ける

② 生活の実際に触れた経験をもとに、子どもの主体性を大切にした保育を展開するため、模擬授業を計画できる。

③ 子どもの特性や発達課題を理解し、ひとりひとりの特性にあった援助について考え、説明できる

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 保育の全体構造 | 「保育内容」のねらいと内容<br>教科書①　第１章 |
| 2 | 保育内容の捉え方（1） | 保育内容の変遷①<br>教科書①第２章 |
| 3 | 保育内容の捉え方（2） | 保育内容の変遷② |

| | | |
|---|---|---|
| | | 教科書①第２章 |
| 4 | 保育内容の捉え方（3） | 「遊び」について<br>教科書①　第６章 |
| 5 | 行事をめぐって（1） | 行事の意味<br>教科書①　第６章　教科書③第２章 |
| 6 | 行事をめぐって（2） | 園行事の計画<br>教科書①　第６章 |
| 7 | 行事をめぐって（3） | 園行事の指導計画作成<br>教科書①　第６章 |
| 8 | 「領域」の考え方（1） | 「養護」と「健康」の領域の保育内容<br>教科書①　第１章　教科書②　保育内容の章 |
| 9 | 「領域」の考え方（2） | 「人間関係」と「環境」の保育内容<br>教科書①　第１章　教科書②　保育内容の章 |
| １０ | 「領域」の考え方（3） | 「言葉」と「表現」の保育内容<br>教科書①　第１章　教科書②　保育内容の章 |
| １１ | 保育の多様な展開（1） | 配慮を要する子どもの園生活と保育内容<br>教科書②　第８章　　教科書②幼稚園教育要領<br>教科書③第２章　第５節 |
| １２ | 保育の多様な展開（2） | 子ども理解するとは<br>教科書①第５章　　教科書②　　教科書③第２章第２節 |
| １３ | 保育の多様な展開（3） | 幼保小・地域の連携に関して<br>教科書②　　教科書③　第４章　第３節 |
| １４ | 保育の多様な展開（4） | 保育の今日的課題<br>教科書①　第８章　　教科書② |
| １５ | 保育の記録 | 保育の記録の意味、教科書①　第９章　教科書②　　教科書③第１章　第２節 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICT の活用 | 第 5～7 回　インターネット等を利用し季節の行事に関する情報を調べワークシートを作成する。計画作成の際、地図・交通手段・時刻表等調べる |

<table>
<tr><td>授業科目名：<br>健康指導法</td><td>専門科目<br>教員の免許状取得のための必修科目</td><td>単位数：<br>２単位</td><td colspan="2">担当教員名：中山　貴太<br>担当形態：　単独</td></tr>
<tr><td>Early Child Care and Education (Health)</td><td colspan="2">ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018 年度まで：DP4c<br>2019 年度から：DP3C</td><td colspan="2">ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018 年度まで：CCs2c355<br>2019 年度から：CCs2c357</td></tr>
<tr><td>教職課程科目区分に含める必要事項</td><td colspan="4">2018 年度まで：教育課程及び指導法に関する科目<br>・保育内容の指導法<br>2019 年度から：領域及び保育内容の指導法に関する科目<br>・保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）</td></tr>
<tr><td>指定保育士養成施設指定基準における科目の系列</td><td colspan="4">2018 年度まで：保育の内容・方法に関する科目<br>2019 年度から：保育の内容・方法に関する科目（保育内容演習）</td></tr>
<tr><td>成績評価</td><td colspan="4">科目修得試験により評価する。</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="4">『新版 保育者をめざす保育内容「健康」』　圭文社</td></tr>
<tr><td>参考文献</td><td colspan="4">『幼稚園教育要領解説』文部科学省、『保育所保育指針解説書』厚生労働省、『幼保連携認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館</td></tr>
<tr><td colspan="5">授業の概要<br>幼稚園、保育園、認定こども園で実践する教育、保育の「健康」の位置づけを理解し、子どもの発達に応じた支援、援助、環境設定や安全教育、それらに付随する専門知識や学校教育の流れを学ぶ。</td></tr>
<tr><td colspan="5">授業の到達目標及びテーマ<br>①　幼稚園、保育園、認定こども園で実践する教育、保育の「健康」の位置づけを理解する。<br>②　子どもの発達に即した支援、援助、環境設定を理解する。<br>③　指導方法や教材づくり、評価法や小学校教育とのつながりを理解する。</td></tr>
</table>

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 保育・教育における「健康」で学ぶこと | 法令や各指針・要領における「健康」について　教科書第 1 章 |
| 2 | からだの発達① | からだの発育と発達について　教科書第 2 章 |
| 3 | からだの発達② | 運動発達について　教科書第 2 章 |
| 4 | からだの発達③ | 運動発達を促進する運動指導について　教科書第 2 章 |
| 5 | こころの発達 | 発達段階について　教科書第 3 章 |
| 6 | 子どもにとって遊びとは | 子どもの遊びの重要性について　教科書第 4 章 |
| 7 | 様々な遊び① | 様々な遊びの実践や注意点について　教科書第 5.6 章 |
| 8 | 様々な遊び② | 自然環境に応じた遊びについて　教科書第 5.6 章 |
| 9 | 基本的生活習慣の形成① | 基本的生活習慣とは　教科書第 8.9 章 |
| １０ | 基本的生活習慣の形成② | 基本的生活習慣と保育者のかかわりについて　教科書第 8.9 章 |
| １１ | 子どもを取り巻く現状① | 現代社会と子どもについて　教科書第 10.11 章 |
| １２ | 子どもを取り巻く現状② | 子どもとメディアについて　教科書第 10.11 章 |
| １３ | 食育と健康 | 食育の基本について　教科書第 12 章 |
| １４ | 子どもの安全管理と安全教育 | 現場での安全管理や子どもと実践する安全教育について<br>教科書第 13 章 |
| １５ | 子どものケガや病気 | 乳児や幼児に気をつけたいケガや病気について<br>教科書第 14 章 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>表現指導法 | 専門科目<br>教員の免許状取得のための必修科目 | 単位数：<br>２単位 | 担当教員名：上野　奈初美<br>担当形態：　複数 |
|---|---|---|---|

| Early Child Care and Education<br>(Representation) | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018 年度まで：DP4c<br>2019 年度から：DP3C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018 年度まで：CCs2c356<br>2019 年度から：CCs2c358 |
|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | 2018 年度まで：教育課程及び指導法に関する科目<br>・保育内容の指導法<br>2019 年度から：領域及び保育内容の指導法に関する科目<br>・保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：保育の内容・方法に関する科目<br>2019 年度から：保育の内容・方法に関する科目（保育内容演習） |
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 |
| 教科書 | 上野奈初美 編著『表現指導法―感性を育て表現の世界を拓く』　萌文書林 |
| 参考文献 | 文部科学省『幼稚園教育要領解説』　フレーベル館<br>内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館<br>厚生労働省『保育所保育指針解説書』　フレーベル館 |

授業の概要

幼稚園、保育所および幼保認定連携型認定こども園における乳幼児の「表現」の指導法について考究していく。子どもの表現活動を支える援助者として学生自身が表現力を向上させるとともに、子ども達に表現することの素晴らしさを伝える指導力の育成を目指す。

授業の到達目標及びテーマ

①幼稚園および保育所等における「表現」の内容について基礎的な知識を得る。
②保育者として自ら表現する楽しさを感じ、子どもの発達に応じた表現の指導力が身につく。
③可能な環境設定の中で模擬授業を構築することができる。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 子どもにとっての表現とは | 子どもの「表現」に関する基礎的な事項について学ぶ（第１章） |
| 2 | 領域「表現」とは | 領域「表現」のねらい及び内容について学ぶ（第２章） |
| 3 | リズムを楽しむ子どもの身体表現 | 子どもの身体表現とリズムとの密接な関わり合いを学ぶ（第３章） |
| 4 | スポーツの名場面を表現に | スポーツの特性を知り身体表現との相違点や類似点を学ぶ（第４章） |
| 5 | 音楽表現活動の指導① | 音を聴き、声を使った表現遊びの実践方法や保育者の関わり方を学ぶ（第５章） |

| | | |
|---|---|---|
| 6 | 音楽表現活動の指導② | 楽器や様々な素材の音を使った表現遊びの実践方法や保育者の関わり方を学ぶ（第6章） |
| 7 | 幼児の造形表現の特質 | 子どもの造形について発達の観点から知り、造形の遊びへと展開できる技術を身につける（第7章） |
| 8 | 造形の材料と技法 | 造形表現の材料や技法について学ぶ（第8章） |
| 9 | 言葉による表現Ⅰ | 子どもにとっての言語表現とは何かについて理解する（第9章） |
| １０ | 言葉による表現Ⅱ | 言葉を媒介とした表現遊びについて理解する（第10章） |
| １１ | 自然と生活１ | 春の保育活動の特色について理解する（第11章） |
| １２ | 夏のイメージから表現へ | 夏のイメージから多様な表現が生まれることを学ぶ（第12章） |
| １３ | 総合的音楽表現活動の指導 | 行事を通して子どもの自主性や表現力、協働する力を育むための保育者の関わり方や計画の実践方法を学ぶ（第13章） |
| １４ | 総合活動計画の立案 | 季節を題材にした部分指導案を立案する（第14章） |
| １５ | 領域「表現」の目指すもの | 現代社会の中で子どもの豊かな表現を育むための課題について考える（第15章） |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

<table>
<tr><td>授業科目名：<br>人間関係指導法</td><td>専門科目<br>教員の免許状取得のための必修科目</td><td>単位数：<br>２単位</td><td colspan="2">担当教員名：菊地　篤子<br>担当形態：　単独</td></tr>
<tr><td>Human Relations</td><td colspan="2">ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018 年度まで：DP4c<br>2019 年度から：DP3C</td><td colspan="2">ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018 年度まで：CCs2c358<br>2019 年度から：CCs2c360</td></tr>
<tr><td>教職課程科目区分に含める必要事項</td><td colspan="4">2018 年度まで：教育課程及び指導法に関する科目<br>・保育内容の指導法<br>2019 年度から：領域及び保育内容の指導法に関する科目<br>・保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）</td></tr>
<tr><td>指定保育士養成施設指定基準における科目の系列</td><td colspan="4">2018 年度まで：保育の内容・方法に関する科目<br>2019 年度から：保育の内容・方法に関する科目（保育内容演習）</td></tr>
<tr><td>成績評価</td><td colspan="4">科目修得試験により評価する。</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="4">『ワークで学ぶ　保育内容「人間関係」』菊地篤子著　みらい 2019</td></tr>
<tr><td>参考文献</td><td colspan="4">「幼稚園教育要領解説」文部科学省　フレーベル館<br>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館「保育所保育指針解説書」厚生労働省　フレーベル館</td></tr>
<tr><td colspan="5">授業の概要<br>本科目では、領域「人間関係」のねらい及び内容について専門領域と関連させて理解を深め、具体的保育を構成する力を養う。「幼児の人と関わる力の育ち」を理論的・実践的に理解し、保育者の「育てる側の人間」としての資質の向上を目指す。</td></tr>
<tr><td colspan="5">授業の到達目標及びテーマ<br>①幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。<br>②幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。</td></tr>
</table>

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 領域「人間関係」① | 幼稚園教育要領の構造理解と、領域「人間関係」のねらい及び内容・保育実践の在り方や評価の理解 |
| 2 | 領域「人間関係」② | 幼稚園教育要領の領域「人間関係」が目指す育ちと保育者の視点と役割、事例研究 |
| 3 | 子どもの生活の中で育まれる人間関係① | 幼児の生活体験に関する保育構想及び展開と保育者の役割 |
| 4 | 子どもの生活の中で育まれる人間関係② | 生活環境の工夫に関する教材研究（情報機器の操作及び教材の活用を含む） |
| 5 | 子どもの遊びの中で育まれる人間関係① | 幼児の遊び体験に関する保育構想及び展開と保育者の役割 |
| 6 | 子どもの遊びの中で育まれる人間関係② | 園における遊び環境の工夫に関する教材研究（情報機器の操作及び教材の活用を含む） |
| 7 | 保育の展開と指導計画① | 保育の構想と指導計画、模擬保育について |
| 8 | 保育の展開と指導計画② | 人間関係を育む保育計画について、実践の整理（保育の記録型学習）による指導案演習 |
| 9 | 指導計画と実践① | 人間関係を育む保育の立案、立案型学習による指導案演習 |
| １０ | 指導計画と実践② | 指導計画と評価、指導案に基づいた模擬保育と振り返り |
| １１ | 多様な配慮と保育の構想① | 個別の配慮が必要な幼児への援助に関する事例研究 |
| １２ | 多様な配慮と保育の構想② | 個と集団の育ちへの理解と援助方法 |
| １３ | 小学校生活への接続① | 幼児期の終わりまでに育ってほしい「人間関係」とは |
| １４ | 小学校生活への接続② | 小学校生活と領域「人間関係」、事例研究 |
| １５ | 地域連携と保育の構想 | 幼稚園教育における現代的課題の整理、文化の伝承と保護者や地域との連携に関する指導案分析演習 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>教育の方法と技術 | 専門科目<br>教員の免許状取得のための必修科目 | 単位数：<br>２単位 | 担当教員名：稲葉久美子<br>担当形態： クラス分け |
|---|---|---|---|
| Educational Theory and Method | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018 年度まで：DP4c<br>2019 年度から：DP3C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018 年度まで：CCs1c359<br>2019 年度から：CCs1c361 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | 2018 年度まで：教育課程及び指導法に関する科目<br>・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）<br>2019 年度から：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目<br>・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：保育の表現技術<br>2019 年度から：保育の内容・方法に関する科目 | | |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 |
| 教科書 | 「新しい保育・幼児教育方法」初版　第６刷　広岡義之編著　ミネルヴァ書房 |
| 参考文献 | 「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」、「幼児教育の方法　小田豊・青井倫子編著　北大路書房」 |

授業の概要

本授業科目は、幼稚園教諭免許取得のための必須科目である。大きく変化する現代社会においては、迅速かつ的確に対応できるような方法や技術を習得することが求められる。そこで本授業科目では、先ず日本と西洋における幼児教育思想の流れを把握する。次に子どもを理解する上で必要な保育と幼児教育の基礎について学ぶ。さらに将来を見据えた保育や幼児教育現場での ICT の活用法、そして発達に障害のある乳幼児に対する支援の仕方などについても理解を深める。

授業の到達目標及びテーマ

① 西洋と日本における保育と幼児教育の歴史的な流れを理解する。
② 保育と幼児教育に関する基本事項を理解する。
③ 各種情報メディアの活用法について学ぶ。
④ これからの社会に対応できるような保育と幼児教育のあり方について考える。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 西洋における幼児教育思想 | 西洋の幼児教育思想の歴史について学ぶ。<br>教科書 pp. 1～10 参照 |
| 2 | 日本における幼児教育思想 | 日本の幼児教育思想の歴史について学ぶ。<br>教科書 pp. 11～17 参照 |
| 3 | 保育・教育の方法 | 歴史を振り返りながら保育・教育の方法の本質について考える。<br>教科書 pp. 18～33 参照 |
| 4 | 子どもの発達と保育・教育 | 子どもの発達に応じた保育・教育のあり方を考える。<br>教科書 pp. 34～51 参照 |

| | | |
|---|---|---|
| 5 | 環境と幼児教育 | 幼児教育における環境の意義について学ぶ。<br>教科書 pp. 52～67 参照 |
| 6 | 子どもの生活や遊びと幼児教育 | 子どもにおける遊びの意義について学ぶ。<br>教科書 pp. 68～78 参照 |
| 7 | 保育・教育の形態 | 目的と状況に応じた保育・教育の形態について考える。<br>教科書 pp. 79～94 参照 |
| 8 | 指導計画とその実践 | 指導計画の立て方とその実践、及び評価と反省の仕方について学ぶ。 教科書 pp. 95～112 参照 |
| 9 | 子どもの理解と保育・教育の方法 | 子どもをより良く理解するための方法について学ぶ。<br>教科書 pp. 113～128 参照 |
| １０ | 保育・教育の記録の活用 | 保育・教育の記録を生かし、幼児教育の評価について学ぶ。<br>教科書 pp. 129～141 参照 |
| １１ | 幼児教育と情報メディア（遊具編） | 遊びを通した情報機器の活用について学ぶ。<br>教科書 pp. 142～161 参照 |
| １２ | 幼児教育と情報メディア（記録編） | 記録を目的とした情報機器の活用について学ぶ。<br>教科書 pp. 162～180 参照 |
| １３ | これからの幼児教育（1） | 発達障害の特徴と特別支援教育について学ぶ。<br>教科書 pp. 181～185 参照 |
| １４ | これからの幼児教育（2） | 現代社会が求める保育と幼児教育の課題について学ぶ。<br>教科書 pp. 185～189 参照 |
| １５ | これからの幼児教育（3） | 多様な保育ニーズとそれに対する幼児教育の今後の在り方について学ぶ。<br>教科書 pp. 189～194 参照 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>幼児理解の理論と方法 | 専門科目<br>教員の免許状取得のための必修科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：小倉　直子<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|
| Theory and Method of Understanding Young Children | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018 年度まで：DP3c<br>2019 年度から：DP4C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018 年度まで：CCs2c361<br>2019 年度から：CCs2c363 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | 2018 年度まで：生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目<br>・幼児理解の理論及び方法<br>2019 年度から：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目<br>・幼児理解の理論及び方法 | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：保育の対象の理解に関する科目<br>2019 年度から：保育の対象の理解に関する科目 | | |
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 | | |
| 教科書 | 神長美津子・岩立京子・岡上直子・結城孝治　編著<br>『幼児理解の理論と方法』　光生館　2019　初版 | | |
| 参考文献 | なし | | |

授業の概要

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育指針の改訂により、保育者は子どもの主体的な活動が確保されるように、子ども一人一人の行動を理解し、その予想に基づき、計画的に環境を構成し、幼児期にふさわしい指導や援助を行っていくことが求められる。そのために必要なことは、一般化された理論のみならず、一人一人の子どもに対する理解を深めることである。

本科目では、具体的な幼児理解の方法について、観察と記録、発達や遊び、つまづきの理解、保護者理解の方法などを学ぶ。

授業の到達目標及びテーマ

①「子どもを理解する」とはどういうことかを考えること。

②「子ども理解」を深めるための様々な方法について学び、現場で使えるようになること。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 子どもを理解するということ | 第1～2章　P8～30 |
| 2 | 子どもの発達と遊び | 第3～4章　P31～55 |
| 3 | 保育者の基本姿勢と保幼小接続 | 第5～6章　P56～80 |
| 4 | 子ども理解を深める観察と記録 | 第7～8章　P82～105 |
| 5 | クラス集団の理解と指導 | 第9章　P106～116、第15章　③　P205～208 |
| 6 | 「つまずき」の理解とその対応 | 第11章　P130～140、第15章　①　P197～201 |
| 7 | 保育者の自己理解と園内研修 | 第10章　P117～129、第12章　P141～151 |
| 8 | 保護者との連携と理解 | 第13章　P152～164、第14章　⑥　P188～192 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICTの活用 | |

| 授業科目名：<br>教育相談 | 専門科目<br>教員の免許状取得のための必修科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：杉﨑　雅子<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|

| Educational Consultation | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018 年度まで：DP3c<br>2019 年度から：DP2C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018 年度まで：CCs2c260<br>2019 年度から：CCs2c362 |
|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | 2018 年度まで：生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目<br>・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法<br>2019 年度から：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目<br>・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：保育の対象の理解に関する科目<br>2018 年度まで：保育の対象の理解に関する科目 |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 |
| 教科書 | 「スギ先生と学ぶ教育相談のきほん」　杉﨑雅子著　萌文書林　第２版 |
| 参考文献 | 文部科学省　幼稚園教育要領解説　フレーベル館<br>厚生労働省　保育所保育指針解説書　フレーベル館 |

授業の概要

教育相談は、子どもが集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。子どもの発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切にとらえ、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身につける。

授業の到達目標及びテーマ

①教育相談の意義と理論を理解する。
②教育相談をすすめる際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する。
③教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 教育相談とは | 教育相談の意義を考察する（第１章） |
| 2 | 子ども理解 | 子どもの行動をどう理解するかを学ぶ（第２章） |
| 3 | 保護者への支援 | 保護者理解と支援の視点を学ぶ（第３章） |
| 4 | カウンセリングマインド | カウンセリングマインドについて理解する（第４章） |

| | | |
|---|---|---|
| 5 | カウンセリング技法 | カウンセリング技法を学ぶ（第５章、第６章） |
| 6 | 教育相談体制 | 園内の教育相談体制について理解する（第８章） |
| 7 | 外部機関との連携 | 外部相談機関等との連携について理解する（第９章） |
| 8 | 保育者のメンタルヘルス | 保育者のメンタルヘルスについて学ぶ（第 10 章） |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>乳児保育Ⅰ | 専門科目 | 単位数：<br>2 単位<br>（2019 年度以降入学者）<br>1 単位<br>（2018 年度以前入学者） | 担当教員名：菊地　篤子<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|

| Infant Care　Ⅰ | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018 年度まで：DP3c<br>2019 年度から：DP4C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018 年度まで：CCs1c165<br>2019 年度から：CCs1c167 |
|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | — |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：保育の内容・方法に関する科目<br>2019 年度から：保育の内容・方法に関する科目（乳児保育Ⅰ） |
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 |
| 教科書 | 「コンパス　乳児保育」咲間まり子編著　建帛社 |
| 参考文献 | 「保育所保育指針」厚生労働省<br>「新訂　見る・考える・創りだす　乳児保育」社会福祉法人あすみ福祉会茶々保育園グループ編、萌文書林 |

授業の概要

本科目では、０歳から３歳未満児の発達を理解し、基礎知識を学ぶ。保育所保育指針を踏まえ、子どもの生活を多角的にとらえることにより、子どもの健康や安全、望ましい育ちや環境など、保育現場、育児現場などにおける保育の在り方を考える。また、保育所における乳児保育の特質を知り、３歳未満児に求められる養護と教育とは何かを学ぶ。

授業の到達目標及びテーマ

①乳児に親しみを持ち、保育者として望ましい態度を理解する。

②３歳未満児の発達と生活を理解し、基礎知識を習得する。

③保育現場で生かされる具体的な保育技能に関する知識を身につける。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 乳児保育とは | 乳児保育を学ぶ目的・日本の乳児保育の課題 |
| 2 | 乳児保育の基本 | 乳児保育の日本社会の歴史的変遷と現代の乳児保育の社会的役割 |
| 3 | 乳児保育の制度と課題 | 多様な子育て支援政策と乳児が過ごす多様な場 |
| 4 | １歳未満児の発達過程からみる保育内容 | １歳未満児への望ましい支援と援助方法 |
| 5 | １歳以上３歳未満児の発 | １歳以上３歳未満児への望ましい支援と援助方法 |

| | | |
|---|---|---|
| | 達過程からみる保育内容 | |
| 6 | 基本的生活習慣の獲得① | 乳児保育における基本的生活習慣の自立に向けた支援と援助方法（食事・排泄） |
| 7 | 基本的生活習慣の獲得② | 乳児保育における基本的生活習慣の自立に向けた支援と援助方法（睡眠・衣服の着脱・清潔） |
| 8 | 乳児保育の計画と記録① | 指導計画の理解と作成 |
| 9 | 乳児保育の計画と記録② | 個別配慮と環境・職員間の協働 |
| 10 | 乳児保育における連携 | 子育て支援のシステムと支援方法 |
| 11 | 食事の計画、提供及び評価・改善① | 冷凍・冷蔵母乳と食物アレルギー |
| 12 | 食事の計画、提供及び評価・改善② | 保育室での配慮 |
| 13 | 子育てをめぐる家族の権利と責任① | 児童福祉法・教育基本法からの検討・演習 |
| 14 | 子育てをめぐる家族の権利と責任② | 児童の権利に関する条約からの検討・演習 |
| 15 | 「乳児保育」総括 | この科目での学びの総括・実践に向けて |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>障害児保育Ⅰ | 専門科目 | 単位数：<br>1単位 | 担当教員名：尾野　明美<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|
| Early Childhood Special Education Ⅰ | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP3c | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs1c167 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | — | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018年度まで：保育の内容・方法に関する科目 | | |
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 | | |
| 教科書 | 「保育者のための　障害児保育―理解と実践」（第2版）尾野明美編著　萌文書林 | | |
| 参考文献 | なし | | |

授業の概要

この授業では、障害児保育にかかわる全般的な問題を取り上げながら、一人ひとりの子どもの発達特性を理解し、保育現場で実践的に取り組むことが可能な支援法を、理論や事例を通して習得する。

内容は、各障害の概念や発達特性、統合保育の現状と意義、家庭や関連機関との連携をとりあげる。また具体的な発達支援として、保育における日常生活での配慮や環境設定などを、事例を通して習得する。

授業の到達目標及びテーマ

①障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。

②一人ひとりの発達上の課題に対する特別な保育ニーズの観点から障害理解を促す。

③障害児保育における遊びや日常生活動作を含む具体的な保育方法を理解する。

④障害のある子どもへの個別的援助と家族支援、関連機関との連携のあり方を学ぶ。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 「障害」の概念と障害児保育の歴史的変遷 | （教科書第１章）<br>障害児保育を支える理念や、障害児保育が制度化するまでの歴史的変遷、「障害」の定義と障害児保育につて理解する。 |
| 2 | 障害児保育の基本 | （教科書第１章）<br>障害児保育を支える理念と、障害児保育の種類と形態の在り方について概観し、その現状と課題を把握する。 |
| 3 | 肢体不自由児の理解と支援・援助 | （教科書第２章）<br>肢体不自由のある子どもの発達特性について理解し、具体的支援・援助について理解する |
| 4 | 視覚・聴覚障害児などの理解と支援・援助 | （教科書第２章）<br>視覚障害・聴覚障害の特性を理解し、具体的な支援・援助について学ぶ。 |
| 5 | 知的障害児の理解と支援・援助 | （教科書第２章）<br>知的障害のある子どもの発達特性を理解し、具体的な支援・援助に |

| | | |
|---|---|---|
| | | ついて学ぶ |
| 6 | 発達障害児の理解と支援・援助① | （教科書第２章）<br>注意欠如・多動性障害、限局性学習障害などの発達障害について学び、発達や行動が気になる子どもの発達特性について理解し、具体的発達支援・援助について考える |
| 7 | 発達障害児の理解と支援・援助② | （教科書第２章）<br>自閉症スペクトラム障害のある子どもの発達特性について理解し、具体的支援・援助について考える。 |
| 8 | 気になる情緒を持つ子どもの理解と支援・援助 | （教科書第２章）<br>虐待を受けている子どもなどの発達の在り方と支援・援助について学ぶ |
| 9 | ことばの発達に障害のある子どもへの理解と支援・援助 | （教科書第２章）<br>言語障害のある子どもの発達特性について理解し、具体的支援・援助について考える。 |
| 10 | 全体的な計画に基づく指導計画の作成と記録及び評価 | （教科書第３章）<br>一人ひとりの子どものニーズに合わせた個別の支援・援助計画、個別の指導計画の意義と作成について学ぶ |
| 11 | 個々の発達を促す生活や遊びの環境 | （教科書第３章）<br>障害児保育における遊びや日常生活動作を含む具体的な保育実践について理解する |
| 12 | 子ども同士のかかわりと育ち合い | （教科書第３章）<br>他の子どもとのかかわりの中で育ち合う保育実践について理解する |
| 13 | 職員間の協働 | （教科書第３章）<br>障害児を保育するにあたって保育者のあり方と、保育所での取り組みと職員間の連携について理解する。 |
| 14 | 家庭及び関係機関との連携 | （教科書第４章）<br>障害のある子どもとその家族の課題、および早期療育の意義と内容について学ぶ。地域における障害児保育の専門機関とサービス、連携について理解する |
| 15 | 障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題 | （教科書第５章）<br>障害児保育から特別支援への移行と、障害を通じての一貫した支援・援助の在り方について学ぶ |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>特別支援教育･保育概論 | 専門科目<br>教員の免許状取得のための必修科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：尾野明美<br>担当形態： 単独 |
|---|---|---|---|
| Introduction to Special Needs Education and Child Care | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP2C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs1c370 | |

| | |
|---|---|
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | 2019 年度から：教育の基礎的理解に関する科目<br>・特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2019 年度から：保育の内容・方法に関する科目 |
| 実務経験と関連性 | ・児童発達支援事業での発達相談、教育相談の実務経験を持つ教員が、特別支援教育の意義と原理、特別な配慮を必要とする子どもの理解と支援のあり方を指導する。 |
| 成績評価 | 科目修得試験により評価する。 |
| 教科書 | 特別支援教育・保育概論　-特別な配慮を要する子どもの理解と支援-　尾野明美・小湊真衣・奥田訓子編著　萌文書林 |
| 参考文献 | なし |

授業の概要

この授業では、特別支援教育の教育・保育の理論や制度の理解をもとに、教育・保育の展開に必要なアセスメント方法や支援計画の立案方法、教育・保育現場での実践的な支援方法を学ぶ。

内容は、特別支援教育・保育の歴史、インクルーシブ教育・保育の理念と意義、家庭や関連機関との連携をとりあげる。特に、個々の特性や心身の発達に応じた援助や配慮につなげられるよう、障害や発達特性、日常生活での配慮や環境設定の仕方、個別支援計画の立案、複合的なニーズへの対応等を学ぶ。

授業の到達目標及びテーマ

①特別の支援を必要とする子どもの障害の特性及び心身の発達を理解する。

②特別の支援を必要とする子どもに対する教育課程、支援の方法を理解する。

③多言語環境や貧困等、障害はないが特別の教育的ニーズのある子どもの生活上の困難さ、対応の仕方を理解する。また、それらの子どもの特性及び心身の発達を理解する。

授業計画【テキスト科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 特別支援教育・保育の歴史的変遷、「障害」の概念 | 特別支援教育・保育を支える理念や制度、またその歴史的変遷、「障害」の定義について理解する。さらに幼稚園、保育所におけるインクルーシブ教育・保育について概観し、その現状と課題を把握する。(教科書第１章) |
| 2 | 特別な支援が必要な子ども：肢 | 肢体不自由・知的障害・視覚・聴覚・言語障害のある子ど |

| | | |
|---|---|---|
| | 体不自由・知的障害・視覚・聴覚・言語障害児の理解と支援・援助 | もの発達特性について理解し、具体的支援・援助について学ぶ。（教科書第２章） |
| 3 | 特別な支援が必要な子ども：重症心身障害児・医療的ケア児・病弱児の理解と支援・援助 | 重症心身障害児・医療的ケア児の特性を理解し、具体的な支援・援助について学ぶ。（教科書第２章） |
| 4 | 特別な支援が必要な子ども：発達障害児の理解と支援・援助 | 注意欠如・多動性障害、限局性学習障害・自閉症スペクトラム障害などの発達障害について学びながら、発達や行動が気になる子どもの発達特性について理解し、具体的な発達支援・援助について学ぶ。（教科書第２章） |
| 5 | 特別な支援が必要な子ども：虐待、貧困、外国籍等で配慮が必要な幼児・児童及び生徒の理解と援助 | 虐待を受けている子ども、貧困や外国籍など特別な配慮が必要な子どもたちを理解し、その支援・援助について学ぶ。（教科書第２章） |
| 6 | 幼稚園・保育所における個別支援・個別指導計画の作成と記録及び評価 | 特別な支援が必要な子どものニーズのアセスメント方法やそれに合わせた個別支援・援助計画、指導計画の意義、遊びや日常生活動作を促進する活動を具体的な特別支援教育・保育の実践を通して理解する。特別支援教育・保育での保育者との協働のあり方と、職員間の連携について理解する。（教科書第３章） |
| 7 | 特別な支援を必要とする幼児・児童及び生徒に対する教育課程や支援方法 | 教育課程での通級による指導や自立活動の位置づけ、個別教育計画の立案、特別支援コーディネーターの役割を理解する。（教科書第４章） |
| 8 | 家庭及び関係機関との連携・特別な支援が必要な子どもの教育・保育にかかわる現状と課題 | 特別な支援が必要な子どもとその家族の課題、および早期療育の意義と内容について学ぶ。地域における特別支援教育・保育の専門機関とサービス、連携について理解し、子どもの生涯を見据えた一貫した支援・援助の在り方について学ぶ。（教科書第５・６章） |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に主体的に取り組むこと。 |
| 事前事後学習 | 【学習の手引き】における<br>「より学びを深めるために」に各回の事前事後で取り組むこと。 |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>音楽表現Ⅰ | 専門科目 | 単位数：<br>1単位 | 担当教員名：澤田　優子<br>担当形態：クラス分け |
|---|---|---|---|
| Music Expression Ⅰ | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP2C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs1c138 | |

| | |
|---|---|
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2019年度から：保育の内容・方法に関する科目 |
| 成績評価 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（７０％）および授業態度と参加の積極性（３０％）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 教科書 | 今泉明美 他<br>『幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術 -感性と実践力豊かな保育者へ-』<br>萌文書林<br>鈴木恵津子 他『改訂　ポケットいっぱいのうた』　教育芸術社 |
| 参考文献 | 島田和昭 他『うたってひいて童謡ぴっこりーの』　共同音楽出版社<br>高倉秋子 他『こどもといっしょにたのしく打楽器』　共同音楽出版社<br>米山文明『声と日本人』　平凡社 |

授業の概要

保育内容を理解し、音楽表現活動を豊かに展開するために必要な基本的知識と技術を、また身近な音や音楽に親しむ経験を通して保育環境の構成を、さらに子どもの経験と音楽表現とを関連づける遊びの展開を習得する。具体的には音楽基礎理論、声楽や鍵盤楽器や打楽器基礎の技能や知識、子どもの歌や声、身体、楽器を用いた音楽遊び、以上について子どもの発達を踏まえながら実践的に取り組み、音楽環境や音楽遊びについての基礎を学ぶ。

授業の到達目標及びテーマ

①保育現場での子どもの遊びを豊かに展開するために、子どもの発達と音楽表現に関する知識と技術を習得する。
②人の声や楽器等に親しむ経験を通して、子どもの遊びやイメージを豊かにし、感性を養うための音や音楽の環境構成を習得する。
③音楽素材や教材等の特性の理解やその作成及び活用を通して、子どもの経験や様々な表現活動と音楽表現とを結びつける遊びの展開方法の基礎を学ぶ。

授業計画【スクーリング科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 音楽Ⅰのガイダンス | 授業ガイダンス・子どもの音楽的表現とクラスでの活動、幼稚園教育要領・保育所保育指針領域「表現」との関連性 |
| 2 | 音楽の基礎知識① | 譜表と音名、小節と楽曲形式の各理解（五線・ト音記号・ヘ音記号・楽譜の見方・ドレミの始まり・幹音、派生音の音名、小節線と小節、複縦線、演奏順序、身近な曲の形式） |
| 3 | 音楽の基礎知識② | 拍と拍子、音符と休符、奏法を表す記号と音楽表現を表す楽語の各理解（各拍子の特性、強迫と弱拍、弱起の曲音符や休符の種類、リズム）確認テスト①と前半の内容のまとめ |
| 4 | 音楽の基礎知識③ | 音程と音階、音階の理解の理解（音程の種類、全音・半音、短音階、調号、調性） |
| 5 | 音楽の基礎知識④ | 和音、コードネームの各理解（種類とコードネーム、主要三和音、コード付け）音楽の基礎知識：確認テスト②とまとめ |
| 6 | 声楽① | 歌唱活動の意義・保育者のモデル唱・呼吸法・発声の仕組み<br>季節の歌・楽しい歌の歌唱 |
| 7 | 声楽② | 季節の歌・楽しい歌の歌唱<br>声や身体表現を用いた自然や日常の場面の創作とその発表と振り返り |

| | | |
|---|---|---|
| 8 | 声楽③ | 季節の歌・楽しい歌の歌唱・子どもの声の発達と支援の仕方 |
| 9 | 声楽④ | 季節の歌・楽しい歌の歌唱・子どもの歌唱への支援方法（導入教材） |
| 10 | 声楽⑤ | 季節の歌・楽しい歌の歌唱・歌唱の導入教材の実践、歌唱実技試験 |
| 11 | 器楽① | 幼児が親しみやすい楽器とその種類<br>簡易打楽器の特徴と奏法・リズム演習（カスタネット・タンブリン等） |
| 12 | 器楽② | 簡易打楽器の特徴と奏法・リズム演習（鈴・トライアングル等） |
| 13 | 器楽③ | 簡易打楽器を用いたリズム遊び① |
| 14 | 器楽④ | 簡易打楽器を用いたリズム遊び② |
| 15 | 器楽⑤ | 簡易打楽器を用いた実技試験 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 開講時期及び受講学生の学習進度に合わせて、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションなどを取り入れる。 |
| 事前事後学習 | ３日間での集中授業であるため、受講学生の学習進度に合わせて、課題を課すので、主体的に取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>音楽表現ＩＡ | 専門科目 | 単位数：<br>1 単位 | 担当教員名：澤田　優子<br>担当形態：クラス分け |
|---|---|---|---|
| Music Expression ＩA | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP4c | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs1c338 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | 2018 年度まで：教科に関する科目　音楽 | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：保育の表現技術 | | |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（７０％）および授業態度と参加の積極性（３０％）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 教科書 | 今泉明美 他<br>『幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術 -感性と実践力豊かな保育者へ-』<br>萌文書林<br>鈴木恵津子 他『改訂　ポケットいっぱいのうた』　教育芸術社 |
| 参考文献 | 島田和昭 他『うたってひいて童謡ぴっこりーの』　共同音楽出版社<br>高倉秋子 他『こどもといっしょにたのしく打楽器』　共同音楽出版社<br>米山文明『声と日本人』　平凡社 |

授業の概要

保育内容を理解し、音楽表現活動を豊かに展開するために必要な基本的知識と技術を、また身近な音や音楽に親しむ経験を通して保育環境の構成を、さらに子どもの経験と音楽表現とを関連づける遊びの展開を習得する。具体的には音楽基礎理論、声楽や鍵盤楽器や打楽器基礎の技能や知識、子どもの歌や声、身体、楽器を用いた音楽遊び、以上について子どもの発達を踏まえながら実践的に取り組み、音楽環境や音楽遊びについての基礎を学ぶ。

授業の到達目標及びテーマ

①保育現場での子どもの遊びを豊かに展開するために、子どもの発達と音楽表現に関する知識と技術を習得する。
②人の声や楽器等に親しむ経験を通して、子どもの遊びやイメージを豊かにし、感性を養うための音や音楽の環境構成を習得する。
③音楽素材や教材等の特性の理解やその作成及び活用を通して、子どもの経験や様々な表現活動と音楽表現とを結びつける遊びの展開方法の基礎を学ぶ。

授業計画【スクーリング科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 音楽Ｉのガイダンス | 授業ガイダンス・子どもの音楽的表現とクラスでの活動、幼稚園教育要領・保育所保育指針領域「表現」との関連性 |
| 2 | 音楽の基礎知識① | 譜表と音名の理解（五線・ト音記号・ヘ音記号・楽譜の見方・ドレミの始まり・幹音、派生音の音名） |
| 3 | 音楽の基礎知識② | 小節と楽曲形式の理解（小節線と小節、複縦線、演奏順序、身近な曲の形式） |
| 4 | 音楽の基礎知識③ | 拍と拍子、音符と休符の理解（各拍子の特性、強迫と弱拍、弱起の曲音符や休符の種類、リズム） |
| 5 | 音楽の基礎知識④ | 奏法を表す記号と音楽表現を表す楽語の理解<br>音楽の基礎知識：確認テスト① |
| 6 | 声楽① | 歌唱活動の意義・保育者のモデル唱・呼吸法・発声の仕組み<br>季節の歌・楽しい歌の歌唱 |
| 7 | 声楽② | 季節の歌・楽しい歌の歌唱<br>声や身体表現を用いた自然や日常の場面の創作とその発表と振り返り |
| 8 | 声楽③ | 季節の歌・楽しい歌の歌唱・子どもの声の発達と支援の仕方 |

| | | |
|---|---|---|
| 9 | 声楽④ | 季節の歌・楽しい歌の歌唱・子どもの歌唱への支援方法（導入教材） |
| 10 | 声楽⑤ | 季節の歌・楽しい歌の歌唱・歌唱の導入教材の実践、歌唱実技試験 |
| 11 | 器楽① | 幼児が親しみやすい楽器とその種類<br>簡易打楽器の特徴と奏法・リズム演習（カスタネット・タンブリン等） |
| 12 | 器楽② | 簡易打楽器の特徴と奏法・リズム演習（鈴・トライアングル等） |
| 13 | 器楽③ | 簡易打楽器を用いたリズム遊び① |
| 14 | 器楽④ | 簡易打楽器を用いたリズム遊び② |
| 15 | 器楽⑤ | 簡易打楽器を用いた実技試験 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 開講時期及び受講学生の学習進度に合わせて、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションなどを取り入れる。 |
| 事前事後学習 | ３日間での集中授業であるため、受講学生の学習進度に合わせて、課題を課すので、主体的に取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>音楽表現ＩＢ | 専門科目 | 単位数：<br>1 単位 | 担当教員名：澤田　優子<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|
| Music Expression ＩB | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP4c | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs1c339 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | 2018 年度まで：教科に関する科目　音楽 | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：保育の表現技術 | | |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 授業内で実施する試験、実践発表などの結果（７０％）および授業態度と参加の積極性（３０％）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 教科書 | 今泉明美 他<br>『幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術 -感性と実践力豊かな保育者へ-』<br>萌文書林<br>鈴木恵津子 他『改訂　ポケットいっぱいのうた』　教育芸術社 |
| 参考文献 | 島田和昭 他『うたってひいて童謡ぴっこりーの』　共同音楽出版社<br>高倉秋子 他『こどもといっしょにたのしく打楽器』　共同音楽出版社 |

授業の概要

保育内容を理解しながら、音楽表現活動を豊かに展開するために必要な基本的知識と技術を、また身近な音や音楽に親しむ経験を通して保育環境の構成を、さらに子どもの経験と音楽表現とを関連づける遊びの展開を習得する。具体的には音楽基礎理論と伴奏法、声楽や鍵盤楽器、打楽器について、子どもの歌や、身体、楽器を用いた子どもの音楽遊び、これらについての知識や技術を子どもの発達を踏まえながら学び、音楽環境や音楽遊びの基礎を学ぶ。

授業の到達目標及びテーマ

①保育現場での子どもの遊びを豊かに展開するために、子どもの発達と音楽表現に関する知識と技術を習得する。
②音楽表現に係る教材等の活用及び作成と、環境構成及び展開の為の基本を習得する。
③音楽素材や教材等の特性の理解やその活用及び作成を通して、子どもの経験や様々な表現活動と音楽表現とを結びつける遊びの展開方法の基礎を学ぶ。

授業計画【スクーリング科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 音楽の基礎知識① | 音楽基礎知識ＩA の復習・音程と音階の理解（音程の種類・全音・半音・長音階・短音階・調号・調性・楽譜の中の音程） |
| 2 | 音楽の基礎知識② | 和音の理解（種類とコードネーム） |
| 3 | 音楽の基礎知識③ | コードネームの理解（主要三和音、コード付け） |
| 4 | 音楽の基礎知識④ | コード付け実践 |
| 5 | 音楽の基礎知識⑤ | コード付け知識と実技試験 |
| 6 | 幼児の歌唱① | 楽しい歌の歌唱と音楽遊び |
| 7 | 幼児の歌唱② | 季節の歌の歌唱と音楽遊び |
| 8 | 幼児の歌唱③ | 歌唱アンサンブル・弾き歌い試験 |
| 9 | 幼児の器楽① | 幼児の器楽合奏における留意点と指導法について<br>年齢別(3、４，５歳児)器楽合奏の実践と指導 |
| １０ | 幼児の器楽② | 年齢別(3、４，５歳児)器楽合奏の実践と指導 |

| | | |
|---|---|---|
| １１ | 幼児の器楽③ | 器楽合奏試験 |
| １２ | 音楽遊びの実践① | 計画した部分実習案(歌唱を使った音楽遊び)による模擬保育の計画①<br>遊びで使用する曲の弾き歌い練習 |
| １３ | 音楽遊びの実践② | 計画した部分実習案(歌唱を使った音楽遊び)による模擬保育の実践②<br>遊びで使用する曲の弾き歌い確認試験 |
| １４ | 音楽遊びの実践③ | 計画した部分実習案(楽器を使った音楽遊び)による模擬保育の計画①<br>遊びで使用する曲の弾き歌い練習 |
| １５ | 音楽遊びの実践④ | 計画した部分実習案(楽器を使った音楽遊び)による模擬保育の実践②<br>遊びで使用する曲の弾き歌い確認試験 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 開講時期及び受講学生の学習進度に合わせて、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションなどを取り入れる。 |
| 事前事後学習 | ３日間での集中授業であるため、受講学生の学習進度に合わせて、課題を課すので、主体的に取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>音楽表現Ⅲ | 専門科目 | 単位数：<br>1 単位 | 担当教員名：澤田　優子<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|
| Music Expression Ⅲ | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP4c | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs2c417 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | — | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：保育の表現技術 | | |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 授業内で実施する実践発表などの結果（７０％）および授業態度と参加の積極性（３０％）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 教科書 | 今泉明美 他<br>『幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術 -感性と実践力豊かな保育者へ-』<br>萌文書林<br>鈴木恵津子 他『改訂　ポケットいっぱいのうた』　教育芸術社 |
| 参考文献 | 島田和昭 他『うたってひいて童謡ぴっこりーの』　共同音楽出版社<br>高倉秋子 他『こどもといっしょにたのしく打楽器』　共同音楽出版社 |

授業の概要

音楽表現活動を豊かに展開するために必要な基本的知識と技術を、また身近な音や音楽に親しむ経験を通して保育環境の構成を、さらに子どもの経験と音楽表現とを関連づける遊びの展開を習得する。具体的には、保育における子どもの音楽遊びを、子どもの発達や季節の子どもの歌、音楽的な要素などから実践的に学習する。

授業の到達目標及びテーマ

①音楽遊びの実践を通して、教育者・保育者として必要な音楽基礎知識や音楽技能、豊かな表現力を身に付ける。
②教育・保育実践において必要な音楽的な要素や音楽的表現活動の展開について学習をする。
③幼稚園教育・保育における子どもの音楽遊びを子どもの発達や子どもの歌や音楽的要素等から実践的に学ぶ。

授業計画【スクーリング科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 音楽的表現遊びの計画 | 幼児の音楽的表現遊びの計画について<br>・音楽的表現遊びの指導計画の立案とその考え方<br>・音楽づくり（音楽遊びを含む）について<br>・音楽づくりの活動例の音楽遊びを実践する |
| 2 | 音楽的表現遊びの立案 | 様々な遊び歌を使った音楽的表現遊びを立案する（3，4，5 歳児向け）<br>・各年齢による音楽的能力（発声器官の発達と声域・リズムと旋律）の発達の確認<br>・子どもの発達と音楽的要素について<br>・遊びで使用する曲の弾き歌い練習 |
| 3 | 音楽的表現遊びの実践① | 音楽的表現遊びの実践と相互評価<br>・実践者と子ども役に分かれての音楽的表現遊びの実践をする<br>・実践した遊びについて振り返る（ねらい・幼児の発達・音楽的要素の用い方・環境設定・手順・支援の仕方等）<br>・遊びで使用する曲の弾き歌い確認試験 |

| | | |
|---|---|---|
| 4 | 音楽的表現遊びの実践② | 音楽的表現遊びの実践と相互評価<br>・実践者と子ども役に分かれての音楽的表現遊びの実践をする<br>・実践した遊びについて振り返る（ねらい・幼児の発達・音楽的要素の用い方・環境設定・手順・支援の仕方等）<br>・遊びで使用する曲の弾き歌い練習 |
| 5 | 創造的な音楽表現遊びの計画 | 幼児の創造的な音楽表現遊びの計画について<br>・様々な創造的な音楽表現遊びについて（音を探す、聴く、創る遊び）<br>・創造的な音楽遊びの活動例を実践する<br>・遊びで使用する曲の弾き歌い確認試験 |
| 6 | 創造的な音楽表現遊びの立案 | 幼児の創造的な音楽表現遊びを立案する（3，4，5歳児向け）<br>・遊びで使用する曲の弾き歌い練習 |
| 7 | 創造的な音楽表現遊びの実践① | 音楽的表現遊びの実践と相互評価<br>・実践者と子ども役に分かれての音楽的表現遊びの実践をする<br>・実践した遊びについて振り返る（ねらい・幼児の発達・音楽的要素の用い方・環境設定・手順・支援の仕方等）<br>・遊びで使用する曲の弾き歌い確認試験 |
| 8 | 創造的な音楽表現遊びの実践② | 音楽的表現遊びの実践と相互評価<br>・実践者と子ども役に分かれての音楽的表現遊びの実践をする<br>・実践した遊びについて振り返る（ねらい・幼児の発達・音楽的要素の用い方・環境設定・手順・支援の仕方等）<br>・遊びで使用する曲の弾き歌い確認試験<br>音楽的表現遊びのまとめ |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 開講時期及び受講学生の学習進度に合わせて、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションなどを取り入れる。 |
| 事前事後学習 | ２日間での集中授業であるため、受講学生の学習進度に合わせて、課題を課すので、主体的に取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>環境指導法 | 専門科目<br>教員の免許状取得のための必修科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：野津直樹<br>担当形態： 単独 |
|---|---|---|---|

| Environmental Education | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018 年度まで：DP4c<br>2019 年度から：DP3C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018 年度まで：CCs2c355<br>2019 年度から：CCs2c357 |
|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | 2018 年度まで：教育課程及び指導法に関する科目<br>・保育内容の指導法<br>2019 年度から：領域及び保育内容の指導法に関する科目<br>・保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：保育の内容・方法に関する科目<br>2019 年度から：保育の内容・方法に関する科目（保育内容演習） |
| 成績評価 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（７０％）および授業態度と参加の積極性（３０％）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 教科書 | 『[新版] 保育内容「環境」』無藤隆・中坪史典・後藤範子 編著　大学図書出版 2010 |
| 参考文献 | 「幼稚園教育要領解説」文部科学省　フレーベル館<br>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館<br>「保育所保育指針解説書」厚生労働省　フレーベル館 |

授業の概要

保育所保育指針・幼稚園教育要領等に示される５領域の一つ「環境」について十分に理解を深めつつ、実際に教材研究を行いながら指導計画を作成し、それを模擬保育において実践し、その後、保育の省察を行う。次にまた教材研究→指導計画立案→模擬保育へとつなげる流れを学ぶ。この一連のサイクルを実際に保育現場に出た時に応用できるような、より実践力のある保育者を目指すべく授業を進めていく。

授業の到達目標及びテーマ

①環境について十分に理解していることを前提とし、その上で教材研究を行い、指導計画を立案することができる。
②自身が立案した指導計画を他者が見直す中で、修正・加筆、アドバイス等を受け入れることができる。
③指導計画を模擬保育にて実践し、それを省察、また次の指導計画立案にいかすことができる。

授業計画【スクーリング科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 環境とは何か | 環境とは何か<br>環境指導法の学習成果について<br>模擬保育 in your room について |
| 2 | ５領域の１つ環境について考える① | 科学との出会いについて |

| | | |
|---|---|---|
| 3 | ５領域の１つ環境について考える② | 子どもを取り巻く社会環境について |
| 4 | 模擬保育 | 模擬保育の準備、そのための教材研究・指導計画立案<br>（以降、参考文献『保育・教職実践演習』 第７章…<br>※保育・教職実践演習の指定教科書があることが望ましいが、ない場合でも理解できる内容としている。） |
| 5 | 模擬保育 | 模擬保育 in your room の実践 |
| 6 | 模擬保育 | 模擬保育 in your room の実践～その振り返り |
| 7 | 模擬保育 | 模擬保育の実践～振り返りから学ぶこと① |
| 8 | 模擬保育 | 模擬保育の実践～振り返りから学ぶこと②、まとめ |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 開講時期及び受講学生の学習進度に合わせて、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションなどを取り入れる。 |
| 事前事後学習 | ２日間での集中授業であるため、受講学生の学習進度に合わせて、課題を課すので、主体的に取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>教育実習指導 | 教員の免許状取得のための必修科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：尾野明美<br>担当形態： クラス分け |
|---|---|---|---|

| Kindergarten Practice Teaching | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018 年度まで：DP4c<br>2019 年度から：DP4C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018 年度まで：CCs2c263<br>2019 年度から：CCs2c265 |
|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | 2018 年度まで：教育実習<br>2019 年度から：教育実習 |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | ― |
| 成績評価 | 演習科目（50%）、試験（30%）、リアクションペーパー（20%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 教科書 | ①「生活事例からはじめる　教育実習・保育実習」吉田眞理編著（青踏社）<br>②「平成 29 年度告示　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領　原本」文部科学書・厚生労働省・内閣府（チャイルド本社）<br>③「教育・保育実習に役立つ　部分実習指導集」宮川萬寿美編著（萌文書林）<br>④実習の手引き（小田原短期大学保育学科通信教育課程）<br>⑤教育実習日誌（小田原短期大学保育学科通信教育課程） |
| 参考文献 | 「幼稚園教育要領」文部科学省　フレーベル館<br>「保育用語辞典」森上史朗・柏女霊峰　ミネルヴァ書房 |

授業の概要

幼稚園免許２種免許状を取得するために必要な教育実習の意義・目的・内容の理解を深め、実習の準備と実習体験を深化させるための学習を行う。
事前学習では、幼稚園の役割や機能と、保育者の役割に関する理解を意識化するとともに、自己の課題を明確化する。
事後学習では、実習体験を振り返り、自己の実習課題の達成と成果について省察し、更なる学習への意欲を喚起し実践力の獲得につなげる。

授業の到達目標及びテーマ

① 実習の事前学習を通して、実習を円滑に進めていくための態度及び知識、技能を修得し、実習内容を理解し、自らの課題を明確にする。
② 実習事後の振り返りとまとめの授業を通じて、実習体験を深化させる。
③ 幼稚園教育職への意欲、適性を体験から考察し、進路決定をしていく。

授業計画【スクーリング科目】　**※履修者数により、授業回数の構成を変更する場合もあります。**

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 実習の目的と概要 | 教育実習の目的と概要について、実習の意義、中止基準及び判定会議等の説明<br>(教科書① 16～18 ページ、教科書④ 1～4 ページ) |
| 2 | 実習生としての心構え | 実習生の服装、基本的な実習マナー（挨拶、自己理解、保育技術と生活技術、）基本的生活習慣、<br>(教科書① 25～33 ページ、教科書④ 13～16 ページ) |

| | | |
|---|---|---|
| 3 | オリエンテーション指導 | 実習園でのオリエンテーションを依頼する電話のかけ方、オリエンテーションの実際<br>（教科書① 35～42 ページ、教科書④ 21 ページ、33～38 ページ） |
| 4 | 実習生としての留意事項 | 実習生紹介書の書き方の説明と作成<br>（教科書④ 5～6 ページ）<br>健康管理と体調チェック、実習に際しての留意事項<br>（教科書④ 20 ページ） |
| 5 | 幼稚園・保育者の理解 | 幼稚園の生活、幼稚園教育の基本、幼稚園教諭の役割について<br>（教科書② 14～16 ページ、109～114 ページ、教科書④ 幼稚園編 39～42 ページ）<br>保育者になるための基礎知識について（実習スキル、子どもとのかかわり方（禁止事項含む）） |
| 6 | 実習における話し言葉・書き言葉、 | 敬語表現（尊敬語・謙譲語・丁寧語）について<br>（教科書① 115～124 ページ　教科書④ 43 ページ）<br>日誌記録に相応しい表現、季節の挨拶状、実習のお礼状の書き方<br>（教科書① 124～134 ページ　教科書④ 44～45 ページ） |
| 7 | 実習日誌の書き方① | 実習日誌の書き方、保育時間と保育を支えるための時間について<br>（教科書① 135～139 ページ、教科書④ 47～52 ページ） |
| 8 | 実習日誌の書き方② | エピソード記録の書き方について<br>（教科書① 139～145 ページ、教科書④ 53～60 ページ） |
| 9 | 指導計画案の書き方 | 部分実習・責任実習指導案の作成、指導計画案のトライアングル、子どもの活動を予想する、どてまの法則について<br>（教科書① 147～154 ページ、教科書④ 61～70 ページ） |
| [ | 指導計画案の立案と実践① | 部分実習指導計画案の立案と発表 |
| １１ | 指導計画案の立案と実践② | 責任実習指導計画案の立案と発表① |
| １２ | 指導計画案の立案と実践③ | 部分実習指導計画案の立案と発表② |
| １３ | 教育実習課題設定 | 教育実習課題を設定、日誌へ反映させる<br>（教科書④幼稚園篇 71 ページ）<br>実習に関する注意事項、持ち物の確認<br>（教科書④幼稚園篇 72～76 ページ） |
| １４<br>１５ | 実習体験報告会、<br>実習振り返り | 実習体験報告会による実習振り返り<br>幼稚園について、子どもについて、幼稚園教師の役割について話し合う（教科書④ 77 ページ） |

| 授業科目名：<br>教育実習指導 | 教員の免許状取得のための必修科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：尾野明美<br>担当形態： クラス分け |
|---|---|---|---|

| Kindergarten Practice Teaching | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018 年度まで：DP4c<br>2019 年度から：DP4C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018 年度まで：CCs2c263<br>2019 年度から：CCs2c265 |
|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | 2018 年度まで：教育実習<br>2019 年度から：教育実習 |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | ― |
| 成績評価 | 演習科目（50%）、試験（30%）、リアクションペーパー（20%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 教科書 | ①「生活事例からはじめる　教育実習・保育実習」吉田眞理編著（青踏社）<br>②「平成 29 年度告示　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領　原本」文部科学書・厚生労働省・内閣府（チャイルド本社）<br>③「教育・保育実習に役立つ　部分実習指導集」宮川萬寿美編著（萌文書林）<br>④実習の手引き（小田原短期大学保育学科通信教育課程）<br>⑤教育実習日誌（小田原短期大学保育学科通信教育課程） |
| 参考文献 | 「幼稚園教育要領」文部科学省　フレーベル館<br>「保育用語辞典」森上史朗・柏女霊峰　ミネルヴァ書房 |

授業の概要

幼稚園免許２種免許状を取得するために必要な教育実習の意義・目的・内容の理解を深め、実習の準備と実習体験を深化させるための学習を行う。
事前学習では、幼稚園の役割や機能と、保育者の役割に関する理解を意識化するとともに、自己の課題を明確化する。
事後学習では、実習体験を振り返り、自己の実習課題の達成と成果について省察し、更なる学習への意欲を喚起し実践力の獲得につなげる。

授業の到達目標及びテーマ

① 実習の事前学習を通して、実習を円滑に進めていくための態度及び知識、技能を修得し、実習内容を理解し、自らの課題を明確にする。
② 実習事後の振り返りとまとめの授業を通じて、実習体験を深化させる。
③ 幼稚園教育職への意欲、適性を体験から考察し、進路決定をしていく。

授業計画【スクーリング科目】　**※履修者数により、授業回数の構成を変更する場合もあります。**

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 実習の目的と概要<br>実習生としての心構え | 教育実習の目的と概要について<br>（教科書① 16～18 ページ、教科書④ 1～4 ページ）<br>実習生の服装、基本的な実習マナー、基本的生活習慣について<br>（教科書① 25～33 ページ、教科書④ 13～16 ページ） |
| 2 | オリエンテーション指導 | 実習園でのオリエンテーションを依頼する電話のかけ方、オリエンテーションの実際　（教科書① 35～42 ページ、教科書④ 21 ペ |

| | | |
|---|---|---|
| | | ージ、33～38 ページ)<br>実習生紹介書の作成（教科書④ 5～6 ページ)<br>健康管理と体調チェック、実習に際しての留意事項の確認(教科書④ 20 ページ) |
| 3 | 幼稚園・保育者の理解 | 幼稚園の生活、幼稚園教育の基本、幼稚園教諭の役割について<br>(教科書② 14～16 ページ、109～114 ページ、教科書④　幼稚園編 39～42 ページ) |
| 4 | 実習日誌の書き方 | 実習日誌の書き方、保育時間と保育を支えるための時間について<br>(教科書① 135～139 ページ、教科書④ 47～52 ページ)<br>エピソード記録の書き方について<br>(教科書① 139～145 ページ、教科書④ 53～60 ページ) |
| 5 | 指導計画案の書き方 | 部分実習・責任実習指導計画案の説明、指導計画案のトライアングル、どてまの法則について<br>(教科書① 147～154 ページ、教科書④ 61～70 ページ) |
| 6 | 指導計画案の立案と実践 | 部分実習・責任実習指導計画案の立案と、発表 |
| 7 | 教育実習課題設定 | 教育実習課題を設定、日誌へ反映させる<br>(教科書④幼稚園篇 71 ページ) |
| 8 | 実習体験報告会、<br>実習振り返り | 実習体験報告会による実習の振り返り<br>幼稚園について、子どもについて、幼稚園教師の役割について話し合う(教科書④ 77 ページ) |

| 授業科目名：<br>保育・教職実践演習<br>（幼稚園） | 専門科目<br>教員の免許状取得のための必修科目 | 単位数：<br>２単位 | 担当教員名：水野道子<br>担当形態： クラス分け |
|---|---|---|---|
| Practical Training of Nursery-School Teaching | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018 年度まで：DP4c<br>2019 年度から：DP5C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018 年度まで：CCs2c362<br>2019 年度から：CCs2c364 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | 2018 年度まで：教職実践演習<br>2019 年度から：教育実践に関する科目　教職実践演習 | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：総合演習<br>2019 年度から：総合演習　保育実践演習 | | |
| 成績評価 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（７０％）および授業態度と参加の積極性（３０％）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 | | |
| 教科書 | ①　「[新版]保育・教職　実践演習」横山文樹・駒井美智子編著（大学図書出版）<br>②　「保育する力」　初版　吉田眞理著（ミネルヴァ書房）<br>学習内容に即して、①②のどちらかを用いたり、併用するなど、各授業で工夫する事 | | |
| 参考文献 | 「平成 29 年　幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園　原本』内閣府・文部科学省・厚生労働省　チャイルド社（2017）初版 | | |

授業の概要

・教育職・保育職の専門性について理解を深める
・履修カルテを用いて、学びの自己評価をし、学習内容の共通性や独自性を考え、保育内容の全体的な構造と科目横断的な理解を深める
・保育における具体的な事例の検討および幼児教育施設の実情にふれ、幼児理解に基づき保育を構想し教材研究等、を通じて保育の実践力の育成をする
・模擬保育を通して、子ども理解に基づいた指導案作成や保育の振り返りなど行い、再構成していく力を養う。
・教育現場の専門家や保護者のおかれた実情・実態に触れ、求められる支援に関して理解する

授業の到達目標及びテーマ

・　面接 15 回の授業構成である
①　幼稚園教諭、保育士としての専門性について理解する
②　保育者として求められる使命感、責任感、社会性、対人関係能力、学級経営についての自己評価し、今後の自己課題を設定する
③　教材作成、指導案作成を含めた模擬保育を行う中で、保育内容についての実践的な指導力を育む

授業計画【スクーリング科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 授業の目的・授業計画 | 保育教職実践演習の目的について |
| 2 | 幼稚園教諭とは（1） | 教科書①　第１章　第１節　保育職の意義と役割<br>第２節　教育職の意義と役割<br>教科書②　実践家としての保育者を読む |

| | | |
|---|---|---|
| 3 | 幼稚園教諭とは（2） | 教科書①　第１章　　第３節　保育者の役割と課題<br>第４節　保育者としての課題 |
| 4 | 子どもの見方・捉え方 | 教科書①　第２章　第１節　子どもという存在の捉え方 |
| 5 | 幼児教育者に求められているもの（1） | 教科書①　第１節　幼稚園免許課程からみた幼児教育者<br>参考文献　　幼稚園教育要領　総則 |
| 6 | 幼児教育者に求められているもの（2） | 教科書①　第３章　第３節　履修カルテについて<br>履修カルテの作成 |
| 7 | 幼児教育者に求められているもの（3） | 履修カルテの作成　および<br>教科書①実践に有用な児童文化財の教材研究（教科書P103）と教材作成、模擬保育を行い教材発表<br>教科書②子どもの発達に応じた玩具 |
| 8 | 現代社会における幼児教育の問題点（1） | 教科書①　第６章　第１節　特別な配慮を必要とする子どもたち<br>第２節　多文化共生保育<br>教科書②　個別性への支援 |
| 9 | 現代社会における幼児教育の問題点（2） | 教科書①　第６章　第３節　子どもをとりまく食育の実情<br>教科書②　　食育 |
| １０ | 現代社会における幼児教育の問題点（3） | 保育現場の実情について現職者の話を聞く<br>レポート作成 |
| １１ | 総合的な実践を目指して（1） | 教科書①　第７章　模擬保育について<br>第１節　模擬保育の準備・指導案作成・教材準備<br>教科書②　月ごとの保育　を読み、グループで３・４・５歳児の指導案を作成する |
| １２ | 総合的な実践を目指して（2） | 教科書①　第７章　第１節～第２節　　模擬保育の実践準備 |
| １３ | 総合的な実践を目指して（3） | 教科書①　第７章　第１節～第２節　模擬保育の実践と評価<br>模擬保育の相互発表<br>教科書②　保育者チーム　について学ぶ。　模擬保育をグループで行いチームに関して理解を深める |
| １４ | 総合的な実践を目指して（4） | 教科書①　①第７章　第１節～第２節<br>教科書②　季節の行事を学び、模擬保育をイメージして行事の計画（プログラム）と指導案作成 |
| １５ | 目指す保育者像について | 学習成果のまとめ・履修カルテで学習を振り返る |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 開講時期及び受講学生の学習進度に合わせて、グループワーク、プレゼンテーションなどを取り入れる。 |
| 事前事後学習 | ３日間での集中授業であるため、受講学生の学習進度に合わせて、課題を課すので、主体的に取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>健康・スポーツ実技 | 教養科目 | 単位数：<br>1 単位 | 担当教員名：木戸　直美<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|

| Health and Sports<br>Actual Technique | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018 年度まで：DP1<br>2019 年度から：DP1C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018 年度まで：CCg1n116<br>2019 年度から：CCg1n114 |
|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | 2018 年度まで：体育<br>2019 年度から：体育 |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：教養科目<br>2019 年度から：教養科目 |
| 成績評価 | 授業内で実施する試験（35%）・レポート（35%）・授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 教科書 | ルール等、必要に応じて随時資料配布。 |
| 参考文献 | 「イラストでみる最新スポーツルール 2020」大修館書店 |

授業の概要

本授業では、スポーツ実践を通して、自らの体力を維持・増進させることを目指す。これまでに学習してきた健康や運動に関する基本的な知識や、スポーツ種目の基本技能の向上を目指し、実生活に役立つスポーツの実践、さらに生涯スポーツへと方向づけることを目的とする。

授業の到達目標及びテーマ

① スポーツを通して、体力の維持・増進を図る。
② 自らの身体の特性を理解する。
③ 自らが楽しんで取り組めるスポーツを見出す。
④ スポーツを通じてコミュニケーションを図る。

授業計画【スクーリング科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 授業の概要説明。スポーツの「みる」「する」「支える」の視点から授業に取り組む姿勢を考える。 |
| 2 | 新体力テスト | 自己の体力を把握することにより、体力について考える。 |
| 3 | ストレッチング | 個人や複数でのストレッチングを行う。 |
| 4 | 補強運動 | 主に自体重を利用したレジスタンストレーニング行う。 |
| 5 | 有酸素運動① | 目標心拍数の設定によるウォーキング及びジョギングを行う。 |
| 6 | 有酸素運動② | 自身の身体とコミュニケーションをとりながら、のウォーキング及びジョギングを行う。 |
| 7 | 球技ゴール型① | フットサル、バスケットボールの基本技術（パス・ドリブル・シュート） |

| | | |
|---|---|---|
| | | の習得。 |
| ８ | 球技ゴール型② | フットサル、バスケットボールのゲーム実践（戦術・フォーメーション）。 |
| ９ | 球技ネット型① | バレーボールの基本技術（パス・レシーブ・サーブ）の習得。 |
| １０ | 球技ネット型② | バレーボールのゲーム実践（戦術・フォーメーション）。 |
| １１ | ラケットスポーツ① | バドミントン、卓球の基本技術の習得（ストローク・サーブ）。 |
| １２ | ラケットスポーツ② | バドミントン、卓球のゲーム実践（戦術・フォーメーション）。 |
| １３ | レクリエーション① | ソフトバレーボール、インディアカの体験① |
| １４ | レクリエーション② | ソフトバレーボール、インディアカの体験② |
| １５ | 総括 | これまでの学習と今後の課題。 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 開講時期及び受講学生の学習進度に合わせて、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションなどを取り入れる。 |
| 事前事後学習 | 自身の身体に関心を持ち、健康管理・体力の維持増進に努めること。<br>健康やスポーツに関するメガイベントに関するニュースに関心を持つこと。 |
| ICT の活用 | スマートフォンを活用したカロリー計算、歩数計測、及び情報共有等 |

| 授業科目名：<br>言語表現 | 専門科目 | 単位数：<br>1 単位 | 担当教員名：馬見塚　昭久<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|

| Expression in Japanese | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018 年度から：DP4c<br>2019 年度から：DP2C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018 年度から：CCs1c344<br>2019 年度から：CCs2c147 |
|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | 2018 年度まで：教科に関する科目　国語 |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：保育の表現技術<br>2019 年度から：保育の内容・方法に関する科目 |
| 成績評価 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（７０％）および授業態度と参加の積極性（３０％）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 教科書 | 馬見塚昭久『保育実践に生きる「言語表現」　児童文化財活用のエッセンス』<br>萌文書林 |
| 参考文献 | 『おはなしのろうそく 1 巻～32 巻』　東京子ども図書館 |

授業の概要

おはなし、紙芝居、絵本、パネルシアター、ペープサート、人形劇など、子どもの言語発達に関わる児童文化財の特性や扱い方を学ぶとともに、集団を前にしての実践と相互批評を通して、保育者として現場で活かせる技能（特に「おはなし」は必ず自分のレパートリーを持つ）と心を身につけるようにする。

授業の到達目標及びテーマ

① おはなし、紙芝居、絵本、パネルシアター、ペープサート、人形劇に関する基礎的知識を習得する。

② 子どもの言語表現を豊かに展開する効果的な技能を身につける。

③児童文化財の価値を生かせるように、保育者として必要な心を磨く。

授業計画【スクーリング科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 「言語表現」とは | 第 1 章第 1 節 子ども自らが児童文化財に親しむ体験<br>第 2 節　生き方を考える「言語表現」<br>実践の役割分担等についての話し合い |
| 2 | 児童文化財とは | 第 2 章第 1 節 子どもと児童文化<br>第 2 節 保育と児童文化財 |
| 3 | おはなし① | 第 3 章第 1 節 おはなしとは |
| 4 | おはなし② | 第 3 章第 2 節 おはなしの実際 |
| 5 | 絵本① | 「おはなし」の実践と相互批評、第 4 章第 1 節 絵本とは |
| 6 | 絵本② | 「おはなし」の実践と相互批評、第 4 章第 2 節 読み聞かせの実際 |
| 7 | 絵本③ | 「おはなし」の実践と相互批評、第 4 章第 3 節 子どもと絵本 |
| 8 | 紙芝居① | 「おはなし」の実践と相互批評、第 5 章第 1 節 紙芝居とは |

| | | |
|---|---|---|
| 9 | 紙芝居② | 「おはなし」の実践と相互批評、第５章第２節 紙芝居の実際 |
| 10 | パネルシアター① | 「おはなし」の実践と相互批評、第６章第１節 パネルシアターとは |
| 11 | パネルシアター② | 「おはなし」の実践と相互批評、第６章第２節 パネルシアターの実際 |
| 12 | ペープサート① | 「おはなし」の実践と相互批評、第７章第１節 ペープサートとは |
| 13 | ペープサート② | 「おはなし」の実践と相互批評、第７章第２節 ペープサートの実際 |
| 14 | 人形劇① | 模擬保育形式の実践と相互批評、第８章第１節 人形劇とは |
| 15 | 人形劇② | 模擬保育形式の実践と相互批評、第８章第２節 人形劇の実際 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 開講時期及び受講学生の学習進度に合わせて、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションなどを取り入れる。 |
| 事前事後学習 | ３日間での集中授業であるため、受講学生の学習進度に合わせて、課題を課すので、主体的に取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

<table>
<tr><td>授業科目名：<br>言葉指導法</td><td>専門科目<br>教員の免許状取得のための必修科目</td><td>単位数：<br>１単位</td><td colspan="2">担当教員名：馬見塚　昭久<br>担当形態：　単独</td></tr>
<tr><td>Early Child Care and Education（Language）</td><td colspan="2">ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018 年度まで：DP4c<br>2019 年度から：DP3C</td><td colspan="2">ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018 年度まで：CCs1c357<br>2019 年度から：CCs1c359</td></tr>
<tr><td>教職課程科目区分に含める必要事項</td><td colspan="4">2018 年度まで：教育課程及び指導法に関する科目<br>・保育内容の指導法<br>2019 年度から：領域及び保育内容の指導法に関する科目<br>・保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）</td></tr>
<tr><td>指定保育士養成施設指定基準における科目の系列</td><td colspan="4">2018 年度まで：保育の内容・方法に関する科目<br>2019 年度から：保育の内容・方法に関する科目（保育内容演習）</td></tr>
<tr><td>成績評価</td><td colspan="4">授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（７０％）および授業態度と参加の積極性（３０％）を踏まえ、総合的な観点で評価する。</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="4">馬見塚昭久・小倉直子編著『保育内容「言葉」指導法』　ミネルヴァ書房</td></tr>
<tr><td>参考文献</td><td colspan="4">文部科学省『幼稚園教育要領解説』　フレーベル館<br>内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館<br>厚生労働省『保育所保育指針解説書』　フレーベル館</td></tr>
<tr><td colspan="5">授業の概要<br>　領域「言葉」のねらい及び内容について学び、豊かな言葉を育む保育者の関わり方についての理解を深める。また、言葉の発達に即して言葉遊びや児童文化財を効果的に活用する技術を学ぶとともに、具体的な指導場面を想定して保育を構想する力を身に付ける。</td></tr>
<tr><td colspan="5">授業の到達目標及びテーマ<br>①領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。<br>②子どもの成長と言葉の発達プロセスを理解する。<br>③言葉を育む支援のあり方を理解する。</td></tr>
</table>

授業計画【スクーリング科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 領域「言葉」とは | ①領域の考え方と言葉の育ち（教科書 p. 6）～<br>②領域「言葉」のねらいと内容（教科書 p. 25 まで） |
| 2 | 子どもの発達と言葉 | ①乳児の発達と言葉の獲得（教科書 p. 26）～<br>②幼児の発達と言葉の役割（教科書 p. 47 まで） |
| 3 | 前言語期のコミュニケーションと保育 | ①言語獲得前のコミュニケーション（教科書 p. 48）～<br>②コミュニケーションを育むための働きかけ（教科書 p. 67 まで） |
| 4 | 話し言葉の機能と発達 | ①「話す」ということ（教科書 p. 68）～<br>②園生活で話す力を育てる（教科書 p. 85 まで） |
| 5 | 書き言葉の発達と保育 | ①文字の読み書きと保育（教科書 p. 86）～<br>②文字の読み書きを支援する方法（教科書 p. 103 まで） |
| 6 | 言葉の発達と児童文化財・言葉遊び | ①領域「言葉」の児童文化財の概要と意味（教科書 p. 104）～<br>②領域「言葉」の児童文化財と言葉の発達（教科書 p. 125 まで）<br>③教材研究と指導案の作成 |
| 7 | 言葉に関して配慮を必要とする子どもへの支援 | ①言葉に関する課題（教科書 p. 126）～<br>②母語が日本語ではない子ども（教科書 p. 143 まで）<br>③模擬保育と相互批評 1 |
| 8 | 現代社会と言葉 | ①子どもを取り巻く言語環境（教科書 p. 144～p. 154 まで）<br>②模擬保育と相互批評 2 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 開講時期及び受講学生の学習進度に合わせて、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションなどを取り入れる。 |
| 事前事後学習 | ２日間での集中授業であるため、受講学生の学習進度に合わせて、課題を課すので、主体的に取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>子どもの食と栄養Ⅱ | 専門科目 | 単位数：<br>1単位 | 担当教員名：町田　大輔<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|
| Nutrition for Children Ⅱ | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018年度まで：DP4c<br>2019年度から：DP4C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018年度まで：CCs1c125<br>2019年度から：CCs1c124 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | — | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018年度まで：保育の対象の理解に関する科目<br>2019年度から：保育の対象の理解に関する科目（子どもの食と栄養） | | |
| 成績評価 | スクーリング科目：授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（７０％）および授業態度と参加の積極性（３０％）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 | | |
| 教科書 | 子どもの食と栄養　改訂第2版　児玉浩子・太田百合子ほか　内山書店 | | |
| 参考文献 | 食生活パーフェクトブック（少年写真新聞社）　上西一弘<br>新食育ブック①子どもの食と健康（少年写真新聞社）　小川万紀子<br>新基本保育シリーズ12　子どもの食と栄養（中央法規）堤ちはる・藤澤由美子 | | |

授業の概要

「子どもの食と栄養Ⅰ」でのテキスト学習を基本として、子どもの食と栄養についてさらに詳細に学び、実践の場で応用可能なスキルの修得を目標とします。保育者として、子どもの心身の健康を守るために何をすべきか、何ができるかをTPOに合わせて考えられる力を身につけることを目指します。

原則として「「子どもの食と栄養Ⅰ」を履修していることが望ましいです。

授業の到達目標及びテーマ

１．健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。

２．子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。

３．養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。

４．家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。

５．関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。

授業計画【スクーリング科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 子どもの健康と食生活① | 第１章　３～６（p. 10～21）<br>３．朝食欠食の問題と対応　４．偏食の弊害と対応<br>５．噛まない子の問題と対応　６．孤食の弊害と対応 |
| 2 | 食に関する基礎知識① | 第２章　２～５（p. 28～35）<br>２．栄養の基礎知識　３．たんぱく質の代謝と栄養学的意義<br>４．糖質の代謝と栄養学的意義　５．脂質の代謝と栄養学的意義 |
| 3 | 食に関する基礎知識② | 第２章　６～８（p. 36～41）<br>６．ビタミンの代謝と栄養学的意義<br>７．ミネラルの代謝と栄養学的意義<br>８．食物繊維と水分 |
| 4 | 子どもの健康と食生活②／食に関する基礎知識③ | 第１章　１、２（p. 2～9）　第２章　１、９、１０（p. 26～27、p. 42～45） |
| 5 | 子どもの発育･発達と栄養・食生活① | 第３章　１～４（p. 50～61） |
| 6 | 子どもの発育･発達と栄養・食生活② | 第２章　１１（ｐ. 46）　第３章　５a（p. 62～68） |
| 7 | 子どもの発育･発達と栄養・食生活③ | 第２章　１１（ｐ. 46）　第３章　５b（p. 69～73） |
| 8 | 子どもの発育･発達と栄養・食生活④ | 第３章　６（p. 74～79） |
| 9 | 子どもの発育･発達と栄養・食生活⑤ | 第１章　１、２（p. 2～9）　第２章　１、９、１０（p. 26～27、p. 42～45）<br>第１章　１．乳幼児の食生活の現状　２．乳幼児の栄養アセスメント<br>第２章　１．消化吸収の仕組み<br>９．日本人の食事摂取基準の意義と活用<br>１０．妊婦・授乳負の食事摂取基準 |
| 10 | 食育の基本と実践 | 第３章　１～４（p. 50～61）<br>１．授乳・離乳の支援ガイド<br>２．乳幼児の咀嚼機能の発達と食事提供<br>３．乳幼児の味覚機能の発達と食事提供<br>４．乳幼児の消化吸収機能の発達と食事提供 |
| 11 | 児童福祉施設や家庭における食と栄養 | 第２章　１１（ｐ. 46）　第３章　５a（p. 62～68）<br>第２章　１１．乳幼児の食事摂取基準<br>第３章　５．乳児期栄養　ａ．乳汁栄養 |
| 12 | 食の安全 | 第２章　１１（ｐ. 46）　第３章　５b（p. 69～73）<br>第２章　１１．乳幼児の食事摂取基準<br>第３章　５．乳児期栄養　ｂ．離乳食期栄養 |
| 13 | 特別な配慮を要する子 | 第３章　６（p. 74～79） |

| | | |
|---|---|---|
| | どもの食と栄養① | ６．幼児期栄養 |
| 14 | 特別な配慮を要する子どもの食と栄養② | 第７章　４、５、６、７（p.141～147） |
| 15 | 特別な配慮を要する子どもの食と栄養③ | 第７章　３、８、９（p.140、148～150） |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 開講時期及び受講学生の学習進度に合わせて、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションなどを取り入れる。 |
| 事前事後学習 | ３日間での集中授業であるため、受講学生の学習進度に合わせて、課題を課すので、主体的に取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>子どもの保健Ⅱ | 専門科目 | 単位数：<br>1単位 | 担当教員名：成川　美和<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|
| Health for Children Ⅱ | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP4c | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs2c128 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | — | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018年度まで：保育の対象の理解に関する科目 | | |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 教科書 | 鈴木美枝子編著『これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健Ⅱ』　創成社 |
| 参考文献 | 佐藤益子編著『子どもの保健Ⅱ』　ななみ書房<br>榊原洋一監修『子どもの保健演習ノート』　診断と治療社 |

授業の概要

子どもの保健Ⅱでは、子どもの保健Ⅰの知識を関連付け、実際の技術を習得することを目的とする。保育園、幼稚園などで、臨機応変に対応できるよう、「子どもの保健Ⅰ」の基礎知識の確認と共に、子どもの発達に応じた、適切な援助ができるように、演習を平行して実施していく。

乳幼児の健康状態の観察、養護と教育、体調不良への対応、応急手当、心肺蘇生法、安全対策等を行う。

授業の到達目標及びテーマ

・保育の場で必要な健康観察の技術を身につける。
・病児のケアに必要な技術を習得する。
・事故やけがの時に必要な応急処置ができるようにする。
・養護の方法を身につける。

授業計画【スクーリング科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 子どもの保健に関する演習について | （教科書第１章）<br>１．保育者に必要な子どもの保健に関する演習<br>２．演習を行う際の心構え |
| 2 | 子どもの発育・発達の観察と評価 | （教科書第２章）<br>１．計測方法<br>２．発育の評価<br>３．発達の評価 |
| 3 | 子どもの健康観察と健康管理 | （教科書第３章）<br>１．日常の保育における健康観察 |

| | | |
|---|---|---|
| | | ２． 健康診断<br>３． 子どもの保健情報の管理と利用 |
| 4 | 子どもの養護と教育 | （教科書第４章）<br>１．子どもの養護の仕方<br>２．子どもの生活習慣への援助と教育 |
| 5 | 子どもの体調不良などへの対応 | （教科書第５章）<br>１． 子どもの主な症状への対応<br>２．感染症の予防と対策<br>３．子どもと薬<br>４．個別の配慮を必要とする子どもへの対応 |
| 6 | 保育における応急手当 | （教科書第６章）<br>１．応急手当<br>２．包帯法<br>３．一次救命処置 |
| 7 | 望ましい保育環境と安全 | （教科書第７章）<br>１．屋内の保育環境<br>２．屋外の保育環境<br>３．災害への対策と危機管理 |
| 8 | 子どもの心とからだの健康づくりのために | （教科書第８章）<br>1．子どもの保健活動の年間スケジュール<br>２．保護者への健康教育と支援<br>３．保育における連携の必要性 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 開講時期及び受講学生の学習進度に合わせて、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションなどを取り入れる。 |
| 事前事後学習 | ２日間での集中授業であるため、受講学生の学習進度に合わせて、課題を課すので、主体的に取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>情報処理論 | 専門科目 | 単位数：<br>2 単位 | 担当教員名：飯原　智子<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|
| Introduction to<br>Computer Science | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>DP2C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>CCs1c235 | |
| 教職課程科目区分に<br>含める必要事項 | 情報機器の操作 | | |
| 指定保育士養成施設指定基準に<br>おける科目の系列 | 教養科目 | | |
| 成績評価 | スクーリング科目：授業内で実施するレポート提出など課題の結果（100%）など、総合的な観点で評価する。 | | |
| 教科書 | ①「情報利活用　基本演習 Office2019 対応」初版　日経 BP 社<br>または「情報利活用基本演習 Office2016 対応」<br>②「キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2020」初版　日経 BP 社 | | |
| 参考文献 | なし | | |

授業の概要

インターネットの普及により、パソコンは保育現場の必須のツールとなっています。園のおたより作成をはじめとしたさまざまな情報発信、保育記録などの電子化、保護者との連絡、会計管理などの活用場面が挙げられます。この科目では、情報モラルをはじめ、アプリケーション操作を中心とした実務レベルでのコンピュータリテラシーを習得することを目指します。

授業の到達目標及びテーマ

① Windows の基本的な操作および情報モラルの習得。
② アプリケーションソフト（MS Word, Excel PowerPoint）の基本的な操作の習得。
③ 現場での実践的な文書作成技法の取得。応用事例の考え方。著作権等に対する知識の習得。
④社会人としての文書作成・プレゼンテーションの技術習得。

授業計画【スクーリング科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容 |
|---|---|---|
| 1 | 情報モラル | 講義のオリエンテーション　教科書②『情報トピック』(以下②と記載)「インターネットの利用」からメールの利用 |
| 2 | 情報モラル<br>Windows 基本操作 | ②「情報倫理とセキュリティ」、教科書①『情報利活用基本操作』(以下①と記載)「Introduction」(OS とアプリ、ファイルとフォルダ)、Word の画面 |
| 3 | Word の基本1 | ②「コンピュータウィルス」、①「Chapter1 Lesson1　文書の作成と管理」文書の新規作成と保存、簡単な編集操作 |
| 4 | Word の基本2 | ①「Chapter1 Lesson2 一般的なビジネス文書の作成」<br>文書の編集操作（インデントとタブなど） |
| 5 | Word の応用1 | ①「Chapter1 Lesson3　シンプルなレポートや報告書の作成」、引用文献と参考文献の違い　レポート文書の編集操作（段落罫線、行間隔など） |
| 6 | Word の応用2 | ②「クラウドコンピューティング」、①「Chapter1 Lesson4　表、画像、図形を使った文書の作成」(画像等の挿入、文字列の折り返しなど)<br>(③「Chapter1 Lesson4　表、画像、図形を使った文書の作成」) |
| 7 | Word の応用3 | ②「ネットショッピング」「シェアリングサービス」、ファイルの拡張子①Word の応用機能(単語登録、クイックアクセスツールバー、タブリーダーなど) |
| 8 | Excel の基本1 | ②「コンピュータの基本要素」「パソコンの内部」、①「Chapter3 Lesson9 表作成の基本操作」<br>(③「Chapter2 Lesson5」)　基本的な表作成、簡単な数式設定など |
| 9 | Excel の基本2 | ②「メディアリテラシー」、「ビッグデータ」、①「Chapter3 Lesson10 見やすく使いやすい表にする編集操作」<br>(③「Chapter2 Lesson5」)　列幅の変更、セル結合、など |
| 10 | Excel の応用 | ①「Chapter3 Lesson12」　相対参照、絶対参照、グラフの作成<br>(③「Chapter2 Lesson8」) |
| 11 | プレゼン資料作成1 | ①「Chapter2 Lesson5」プレゼンテーションとは、実施企画、PowerPoint の基本操作 |
| 12 | プレゼン資料作成2 | ①「Chapter2 Lesson6」分かりやすいストーリー構成、レイアウトのデザイン、PowerPoint の操作スライドマスターの作成、テーマの保存 |
| 13 | プレゼン資料作成3 | ①「Chapter2 Lesson7」イメージを伝える、実施企画、PowerPoint の操作（トリミング、図の圧縮　など） |
| 14 | 情報モラル | ②「情報倫理とルール」個人情報、著作権、情報検索等 |
| 15 | プレゼンの実施・リハーサル<br>ICT の活用、全体の復習 | 配布資料(プレゼンのリハーサルと実施)、保育の ICT 活用、全体講義の復習 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 遠隔講義のため、特になし。 |
| 事前事後学習 | 事前学習は、テキストの該当箇所に目を通すこと。<br>事後学習は、課題実施および PC の操作が可能であればテキスト問題を実施すること。 |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>身体表現Ⅰ | 専門科目 | 単位数：<br>1 単位 | 担当教員名：佐藤　みどり<br>担当形態：　クラス分け |
|---|---|---|---|
| Physical Education of infant Ⅰ | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018 年度まで：DP4c<br>2019 年度から：DP2C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018 年度まで：CCs1c342<br>2019 年度から：CCs1c145 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | 2018 年度まで：教科に関する科目　体育 | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：保育の表現技術<br>2019 年度から：保育の内容・方法に関する科目 | | |
| 成績評価 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（７０％）および授業態度と参加の積極性（３０％）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 | | |
| 教科書 | プリント配布 | | |
| 参考文献 | 「保育と幼児期の運動遊び」岩崎洋子編・吉田伊津美・朴淳香・鈴木康弘著、萌文書林<br>「0～5 歳児の運動あそび指導百科」前橋明著 ひかりのくに | | |

授業の概要

本授業では、子どもの運動能力や体力の基礎となる力を養うために必要な運動遊びの基本について学習する。自らのからだを素材とする表現運動遊び、各種遊具を使った運動遊び等を楽しく実践するための指導法、また、運動遊びにおける安全管理や環境設定などについても学ぶ。

授業の到達目標及びテーマ

①「表現運動遊び」を楽しく実践する技能と指導法を身につける。

②子どもの発育・発達に応じた運動遊びの展開方法について理解する。

③様々な運動遊びの援助法や安全管理（環境、遊具等）の基本について理解する。

授業計画【スクーリング科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業の内容及び進め方について |
| 2 | 幼児の運動遊びについて | 幼児の運動や遊びの内容と指導・援助について |
| 3 | からだで遊ぶ　1 | からだづくり、動きづくり |
| 4 | からだで遊ぶ　2 | 模倣遊び、リズム遊び |
| 5 | からだで遊ぶ　3 | 表現運動遊びの基本 |
| 6 | からだで遊ぶ　4 | 表現運動遊びの応用・発展 |
| 7 | からだで遊ぶ　5 | 鬼ごっこ、伝承遊び |
| 8 | 遊具を使った遊び１ | 大型遊具（マット、跳び箱等）を用いた遊びの指導・援助法 |

| | | |
|---|---|---|
| 9 | 遊具を使った遊び２ | 大型遊具（鉄棒、平均台等）を用いた遊びの指導・援助法 |
| 10 | 遊具を使った遊び３ | 小型遊具（ボール、ロープ、フープ等）を用いた遊びの指導・援助法 |
| 11 | 道具を使った遊び４ | 身近な物（新聞紙、布、風船等）を用いた遊びの指導・援助法 |
| 12 | 運動遊び指導の実践１ | 運動遊びの指導案の作成 |
| 13 | 運動遊び指導の実践２ | 指導案に基づく実践と検討 |
| 14 | 運動遊び指導の実践３ | 運動遊びの発表（模擬保育）、評価 |
| 15 | まとめ | 本授業の目標・テーマに基づいて点検し、まとめる |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 開講時期及び受講学生の学習進度に合わせて、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションなどを取り入れる。 |
| 事前事後学習 | ３日間での集中授業であるため、受講学生の学習進度に合わせて、課題を課すので、主体的に取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>身体表現Ⅱ | 専門科目 | 単位数：<br>1 単位 | 担当教員名：佐藤　みどり<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|
| Physical Education of infant Ⅱ | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP4c | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs1c343 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | 2018 年度まで：教科に関する科目　体育 | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：保育の表現技術<br>2019 年度から：保育の内容・方法に関する科目 | | |
| 成績評価 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（７０％）および授業態度と参加の積極性（３０％）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 | | |
| 教科書 | プリント配布 | | |
| 参考文献 | 「保育と幼児期の運動遊び」岩崎洋子編・吉田伊津美・朴淳香・鈴木康弘著、萌文書林<br>「0～5 歳児の運動あそび指導百科」前橋明著 ひかりのくに | | |

授業の概要

本授業は、身体表現Ⅰで習得した知識や技術をもとに、自己表現の方法や１年間の行事なども考慮した運動遊びについて学習する。また、様々な運動遊びの特性を理解するとともに発育発達に応じた効果的な指導法や展開法について学ぶ。さらに、運動遊びにおける安全管理や環境設定に必要な知識の修得をも図る。

授業の到達目標及びテーマ

①子どもの発育・発達に応じた運動技能を系統的・段階的に理解する。

②子どもの発育・発達に応じた運動遊びの展開方法を構築する。

③運動遊びの援助方法や安全管理（環境、遊具等）の基本について理解する。

授業計画【スクーリング科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章・参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業の内容、進め方および評価について |
| 2 | 遊具を用いない運動遊び1 | 走・跳・投の運動遊びの内容と指導・援助法 |
| 3 | 遊具を用いない運動遊び2 | 各種ゲームの内容と指導・援助法 |
| 4 | 遊具を用いない運動遊び3 | 鬼遊びの内容と指導・援助法 |
| 5 | 遊具を用いた運動遊び１ | 大型遊具を用いた運動遊びの内容と指導・援助法 |
| 6 | 遊具を用いた運動遊び１ | サーキット遊びの内容と指導・援助法 |
| 7 | 水遊び | 水遊びの内容と指導・援助法 |
| 8 | 運動会１ | 運動会の企画と立案 |
| 9 | 運動会２ | ミニ運動会の実施～評価 |
| 10 | 行事と運動遊び | 生活発表会や園行事における身体表現（活動）の内容と指導・援助法 |
| 11 | 他領域との関連性 | 他領域と身体表現との関わりについて |

| | | |
|---|---|---|
| 12 | スポーツ的運動遊び | スポーツにつながる遊びの内容と指導・援助法（陸上、体操、球技系） |
| 13 | 安全管理１ | 保育現場における安全面についての現状と課題の把握 |
| 14 | 安全管理２ | 保育現場における安全管理と応急処置等について |
| 15 | まとめ | 本授業の目標・テーマに基づいて点検し、まとめる |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 開講時期及び受講学生の学習進度に合わせて、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションなどを取り入れる。 |
| 事前事後学習 | ３日間での集中授業であるため、受講学生の学習進度に合わせて、課題を課すので、主体的に取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>身体表現Ⅱ | 専門科目 | 単位数：<br>1 単位 | 担当教員名：佐藤　みどり<br>担当形態： クラス分け |
|---|---|---|---|
| Physical Education of infant Ⅱ | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP3C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs1c146 | |

| | |
|---|---|
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | ― |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2019 年度から：保育の内容・方法に関する科目 |
| 成績評価 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（７０％）および授業態度と参加の積極性（３０％）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 教科書 | プリント配布 |
| 参考文献 | 保育と幼児期の運動遊び」岩崎洋子編・吉田伊津美・朴淳香・鈴木康弘著、萌文書林<br>「0～5 歳児の運動あそび指導百科」前橋明著 ひかりのくに |

授業の概要

本授業は、身体表現Ⅰで習得した知識や技術をもとに、自己表現の方法や１年間の行事なども考慮した運動遊びについて学習する。また、様々な運動遊びの特性を理解するとともに発育発達に応じた効果的な指導法や展開法について学ぶ。さらに、運動遊びにおける安全管理や環境設定に必要な知識の修得をも図る。

授業の到達目標及びテーマ

①子どもの発育・発達に応じた運動技能を系統的・段階的に理解する。

②子どもの発育・発達に応じた運動遊びの展開方法を構築する。

③運動遊びの援助方法や安全管理（環境、遊具等）の基本について理解する。

授業計画【スクーリング科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | オリエンテーション |
| 2 | 遊具を用いない運動遊び1 | 各種ゲームの内容と指導・援助法 |
| 3 | 遊具を用いない運動遊び2 | 表現運動遊びの内容と指導・援助法 |
| 4 | 遊具を用いた運動遊び１ | 大型遊具を用いた運動遊びの内容と指導・援助法 |
| 5 | 遊具を用いた運動遊び２ | サーキット遊びの内容と指導・援助法 |
| 6 | 運動会 | 運動会の企画と立案、実施～評価 |
| 7 | 教材研究 | 教材の作成～探求 |
| 8 | まとめ | 指導案の作成と実施 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 開講時期及び受講学生の学習進度に合わせて、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションなどを取り入れる。 |
| 事前事後学習 | ２日間での集中授業であるため、受講学生の学習進度に合わせて、課題を課すので、主体的に取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>造形表現Ⅰ | 専門科目 | 単位数：<br>1 単位 | 担当教員名：水野　道子<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|
| Art Expression　Ⅰ | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018 年度まで：DP4c<br>2019 年度から：DP2C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018 年度まで：CCs1c340<br>2019 年度から：CCs1c143 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | 2018 年度まで：教科に関する科目　図画工作 | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：保育の表現技術<br>2019 年度から：保育の内容・方法に関する科目 | | |
| 成績評価 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（７０％）および授業態度と参加の積極性（３０％）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 | | |
| 教科書 | 「生活事例からはじめる　造形表現」吉田収　宮川萬寿美編著　青踏社 | | |
| 参考文献 | 『保育をひらく造形表現』槇　英子著　萌文書林 | | |

授業の概要

子どもの保育内容を理解し、造形遊びを豊かに展開するために必要な基本的知識と技術を習得する。また、身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験をする中で、様々な用具、素材や教材に触れ、保育環境の構成や表現活動に関する保育技術を習得する。ここでは先ず、平面素材である、水彩絵の具やクレヨンなどの描画材に着目し、平面表現や版画から生まれる無作為の表出の美しさを知ると共に、表現の可能性の幅を知り、保育現場への活用法を学ぶ。

授業の到達目標及びテーマ

①幼稚園教育・保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得。

②造形表現の表現活動に関する知識や技術を習得。

③表現活動に係る教材等の活用及び作成と、幼稚園教育・保育の環境構成及び具体的展開のための技術を習得。

授業計画【スクーリング科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 平面表現　使用素材について | 授業内容とともに平面表現で使用する用具、素材の説明 |
| 2 | 平面表現①(フィンガーペインティング) | 絵の具を使って、触感を体験する。子どもへの指導と援助法、展開 |
| 3 | 平面表現②(ドリッピング等) | 筆と絵の具を使った偶然にできる形、色の面白さを知る。子どもへの指導と援助法、展開 |
| 4 | 平面表現③(デカルコマニー、マーブリング等) | 絵の具が偶然に出来る形の面白さを知る。水の上に浮かせた絵の具で出来る模様の美しさを知る。子どもへの指導と援助法、展開 |

| | | |
|---|---|---|
| 5 | 平面表現④(バチック、スクラッチ、スタンピング等) | クレヨンと絵の具を使った技法。野菜の断面を生かした押捺遊びを知る。子どもへの指導と援助法、展開 |
| 6 | 平面表現⑤(フロッタージュ等) | 擦り出しの不思議さと、テクスチャーの違いの面白さを知る。<br>子どもへの指導と援助法、展開 |
| 7 | 平面表現⑥(コラージュ) | フロッタージュで採取した素材を生かした再構築作品の制作。<br>子どもへの指導と援助法、展開 |
| 8 | 平面表現⑦(ローラーを使って等) | ゴムとスチレンのローラー二種類の特性を生かした造形遊び。<br>子どもへの指導と援助法、展開 |
| 9 | 紙版画 | 画用紙を使った版画制作。<br>子どもへの指導と援助法、展開 |
| 10 | 実践へ「見立て活動から」① | これまで学んできた表現を使い、見立て活動で課題作品を制作する平面表現の総括。 |
| 11 | 実践へ「見立て活動から」② | これまで学んできた表現を使い、見立て活動で課題作品を制作する平面表現の総括。 |
| 12 | 実践へ「見立て活動から」③ | これまで学んできた表現を使い、見立て活動で課題作品を制作する平面表現の総括。 |
| 13 | フォトコラージュ | 既成の印刷物から各自でテーマを絞り、再構築して作品を制作。子どもへの指導と援助、展開 |
| 14 | フォトコラージュ | 〃 |
| 15 | 記録のまとめ | 造形表現Ⅰの記録のまとめ・学びの確認 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 開講時期及び受講学生の学習進度に合わせて、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションなどを取り入れる。 |
| 事前事後学習 | ３日間での集中授業であるため、受講学生の学習進度に合わせて、課題を課すので、主体的に取り組むこと。 |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>造形表現Ⅱ | 専門科目 | 単位数：<br>1 単位 | 担当教員名：水野　道子<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|
| Art Expression Ⅱ | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP4c | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs1c341 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | 2018 年度まで：教科に関する科目　図画工作 | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：保育の表現技術<br>2019 年度から：保育の内容・方法に関する科目 | | |
| 成績評価 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（７０％）および授業態度と参加の積極性（３０％）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 | | |
| 教科書 | 「生活事例からはじめる　造形表現」吉田収　宮川萬寿美編著　青踏社 | | |
| 参考文献 | 「保育をひらく造形表現」槇　英子著　萌文書林 | | |

授業の概要

造形表現Ⅰを基に、保育者として必要な造形表現に係る教材等の活用及び作成法を習得する。また、子どもの経験や様々な表現活動と造形活動とを結びつける遊びの展開や、イメージや感性を養う環境構成及び具体的展開のための保育技術を習得する。ここでは、立体での表現の素材に着目する。粘土、木、紙、生活素材など、保育現場で使われる主な素材を学ぶと共に、扱い方を知り、可能性を探る。そして、それらの保育現場への活用法を学ぶ。

授業の到達目標及びテーマ

①幼稚園教育・保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得。
②造形表現の表現活動に関する知識や技術を習得。
③表現活動に係る教材等の活用及び作成と、幼稚園教育・保育の環境構成、
　及び具体的展開のための技術を習得。

授業計画【スクーリング科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 立体素材<br>粘土① | 立体素材について(土、木、紙)粘土という素材、種類。<br>保育での指導、環境構成、展開 |
| 2 | 粘土② | 粘土の素材の説明と体験。保育での指導、環境構成、展開 |
| 3 | 粘土③ | 粘土の素材の説明と体験。保育での指導、環境構成、展開 |
| 4 | コラージュ①<br>(フォトコラージュ) | 既存の印刷物を使っての再構成作品の制作。 |
| 5 | コラージュ②<br>(フォトコラージュ) | 既存の印刷物を使っての再構成作品の制作。 |
| 6 | 児童画の発達段階につい | 子どもの絵画に関する発達の段階を解説と指導法。 |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 身近な素材から | 身近な素材から(折り紙)。保育での指導、環境構成、展開 |
| 8 | 自然素材から　木 | 木という素材を知り、木を扱うための道具の使い方を学ぶ |
| 9 | 紙を使って① | 紙という素材の種類。子どもへの指導と援助法、展開 |
| 10 | 紙を使って② | 立体制作（張り子）　構造を知り制作する。 |
| 11 | 紙を使って③ | 立体制作（張り子）　張り子で制作する(新聞紙、和紙)。 |
| 12 | 紙を使って④ | 立体制作（張り子）　着彩。保育への展開。 |
| 13 | 保育への展開① | 子どもへの指導と援助、展開　（指導案作成） |
| 14 | 保育への展開② | 準備、活動の展開、片付け、飾り方、遊び方　（模擬保育） |
| 15 | 記録のまとめ | 後期の記録のまとめ・１年の学びの確認 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 開講時期及び受講学生の学習進度に合わせて、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションなどを取り入れる。 |
| 事前事後学習 | ３日間での集中授業であるため、受講学生の学習進度に合わせて、課題を課すので、主体的に取り組むこと。 |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>造形表現Ⅱ | 専門科目 | 単位数：<br>1単位 | 担当教員名：水野　道子<br>担当形態：　クラス分け |
|---|---|---|---|

| Art Expression Ⅱ | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP2C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs1c144 |
|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | ― |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2019年度から：保育の内容・方法に関する科目 |
| 成績評価 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（７０％）および授業態度と参加の積極性（３０％）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 教科書 | 「生活事例からはじめる　造形表現」吉田収　宮川萬寿美編著　青踏社 |
| 参考文献 | 『保育をひらく造形表現』槇　英子著　萌文書林 |

授業の概要

造形表現Ⅰを基に、保育者として必要な造形表現に係る教材等の活用及び作成法を習得する。また、子どもの経験や様々な表現活動と造形活動とを結びつける遊びの展開や、イメージや感性を養う環境構成及び具体的展開のための保育技術を習得する。ここでは、立体での表現の素材に着目する。粘土、木、紙、生活素材など、保育現場で使われる主な素材を学ぶと共に、扱い方を知り、可能性を探る。そして、それらの保育現場への活用法を学ぶ。

授業の到達目標及びテーマ

①保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得。

②造形表現の表現活動に関する知識や技術を習得。

③表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育の環境構成、及び具体的展開のための技術を習得。

授業計画【スクーリング科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 立体素材<br>粘土① | 立体素材について(土、木、紙)。粘土という素材、種類。保育への展開。 |
| 2 | 粘土② | 粘土の素材の説明と体験。保育での指導、環境構成、展開 |
| 3 | 粘土③ | 粘土の素材の説明と体験。保育での指導、環境構成、展開 |
| 4 | 自然素材から　木 | 木という素材を知り、木を扱うための道具の使い方を学ぶ |
| 5 | 紙を使って① | 紙という素材の種類。子どもへの指導と援助法、展開 |
| 6 | 紙を使って② | お面制作（張り子）　構造を作る |
| 7 | 紙を使って③ | お面制作（張り子）　張り子をする　新聞紙と和紙 |
| 8 | 紙を使って<br>記録まとめ | 着彩からニス塗り。保育への展開<br>後期の記録のまとめ・１年の学びの確認 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 開講時期及び受講学生の学習進度に合わせて、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションなどを取り入れる。 |
| 事前事後学習 | ２日間での集中授業であるため、受講学生の学習進度に合わせて、課題を課すので、主体的に取り組むこと。 |

| | |
|---|---|
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>相談援助 | 専門科目 | 単位数：<br>1 単位 | 担当教員名：宮川　萬寿美<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|
| Social Work | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP3c | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs2c132 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | — | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：保育の本質・目的に関する科目 | | |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 演習課題（50%）、試験(30%)、リアクションペーパー(20%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 教科書 | 「生活事例からはじめる相談援助」第４版　吉田眞理著　青踏社 |
| 参考文献 | 『保育カウンセリングへの招待』冨田久枝・杉原一昭　北大路書房<br>『事例と演習を通して学ぶソーシャルワーク』　川村隆彦　　中央法規 |

授業の概要

保育士には、保育所や児童福祉施設を利用する子どもや家族だけでなく、地域で子育てする全ての家庭を支援することが求められている。そのような保育士の社会的使命を果たすために、相談援助の知識、技術について学習する。事例を通して相談援助の実践力をつける。

授業の到達目標及びテーマ

１．相談援助の理論・意義・機能について理解し、説明できる
２．相談援助の方法と技術について、バイスティックの７原則を基本とした対人援助の方法を身に付ける
３．個別援助技術、集団援助技術、地域援助技術などの方法と内容について理解する。

授業計画【スクーリング科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 相談援助の理論と意義 | 第１章１～２　現代社会の子育て問題を概観し、地域における家族支援の意味を考え、相談援助の理論と意義を理解する。 |
| 2 | 相談援助の機能と保育におけるソーシャルワーク | 第１章３～５　相談援助が対象とする諸問題を概観し、ソーシャルワークの特質について学ぶ。また、保育士の業務と倫理について理解する。 |
| 3 | 相談援助の対象とその過程 | 第２章１～２　相談援助の対象について学ぶ。また、相談援助の過程を保育士の業務との関係で理解する。 |
| 4 | 相談援助の技術とアプローチ | 第２章３　相談援助の基礎となる信頼関係を結ぶ技術、アセスメントする技術等を理解する。バイスティックの７原則を理解する。 |
| 5 | 相談援助の具体的展開 | 第３章１～３　ソーシャルワークの展開について、開始（インテーク） |

| | | |
|---|---|---|
| | | から終結（評価）までの流について学ぶ。 |
| 6 | 関係機関との協働と専門職との連携 | 第３章４～５　地域の社会資源との協働や関係機関との連携について理解する。 |
| 7 | 事例分析：相談援助の具体的展開を事例で学ぶ | 第４章　様々な対象者に対する実際の相談援助について、事例を通して理解する。虐待の予防と対応等 |
| 8 | 事例分析：相談援助の具体的展開を事例で学ぶ | 第４章　様々な対象者に対する実際の相談援助について、事例を通して理解する。障害のある子どもとその保護者への支援等 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 開講時期及び受講学生の学習進度に合わせて、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションなどを取り入れる。 |
| 事前事後学習 | ２日間での集中授業であるため、受講学生の学習進度に合わせて、課題を課すので、主体的に取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>乳児保育Ⅱ | 専門科目 | 単位数：<br>1単位 | 担当教員名：尾野　明美<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|
| Infant Care Ⅱ | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018年度まで：DP4c<br>2019年度から：DP4C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018年度まで：CCs2c166<br>2019年度から：CCs2c168 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | — | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018年度まで：保育の内容・方法に関する科目<br>2019年度から：保育の内容・方法に関する科目（乳児保育Ⅱ） | | |
| 成績評価 | 授業内で実施する試験（50%）、レポート課題（30%）および授業態度と参加の積極性（20%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 | | |
| 教科書 | 「アクティブラーニング対応　乳児保育」<br>尾野明美・菊地篤子・小湊真衣編著　萌文書林 | | |
| 参考文献 | 「保育所保育指針解説書」厚生労働省編　フレーベル館<br>「見る・考える・創りだす　乳児保育」社会福祉法人あすみ福祉会茶々保育園グループ編、萌文書林<br>「乳児保育演習ガイド」髙内正子・梶美保編著、建帛社 | | |

授業の概要

本授業では「乳児保育Ⅰ」で学んだ基礎的理論を軸に、０，１，２歳児の発達や生活、環境などの全般に至る保育者として必要な保育技術を、実践場面を想定しながら学習する。この時期の子どもの発達は特に目覚ましく、保育者としての対応も柔軟性が求められる。保育内容を具体的に想定し、資料作成、グループワーク、グループディスカッション、ロールプレイ、振り返り学習などの学習方法を用いて、学生が能動的な姿勢で保育の内容を考えることを通して、乳児保育の実践力を身に付ける。

授業の到達目標及びテーマ

①乳児の発達・生活に関する基礎知識の理解を、確実なものにする。

②保育計画や保育方法を工夫する力を習得する。

③乳児保育の社会的背景や課題を理解し、その中で保育を展開するための柔軟な思考力を身につける。

授業計画【スクーリング科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 乳児保育の基本 | 子どもの発育・発達の過程を踏まえ援助や関わりの基本的な考え方を理解する。（基礎編　第1章　p14） |
| 2 | 生活と遊びの実際と援助（1） | 一日の生活の流れで考える生活・遊びと環境構成（基礎編第2章　p35）<br>演習　朝の受け入れ（実践編　p104）午後のお迎え・お帰り（実践編 |

| | | |
|---|---|---|
| | | p 204） |
| 3 | 生活と遊びの実際と援助（2） | 0 歳児の生活と遊びの援助（基礎編第 2 章 p 40）<br>演習　食事　（実践編 p 116） |
| 4 | 生活と遊びの実際と援助（3） | 0 歳児の生活と遊びの援助（基礎編第 2 章 p 40）<br>演習　排泄　（実践編 p 150） |
| 5 | 生活と遊びの実際と援助（4） | １～3 歳児の生活と遊びの援助と子ども同士のかかわりとその援助（基礎編　第 2 章　p 47、 p 69）<br>演習　遊び（実践編 p 180） |
| 6 | 乳児保育における配慮と実際（1） | 子どもの心身の健康と情緒の安定を図るための配慮（基礎編第 3 章 p 73）<br>演習　着脱・清潔（実践編 p 164） |
| 7 | 乳児保育における配慮と実際（2） | 集団での生活と環境変化や移行に対する配慮（基礎編　第 3 章 p 80, 84）<br>演習　睡眠（実践編 p 136） |
| 8 | 乳児保育における計画の実際 | 乳児保育における長期・短期の計画と個別の集団の指導計画の実際（基礎編第 4 章 p 90）<br>演習　個別支援計画の作成（基礎編第４章 p 95） |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 開講時期及び受講学生の学習進度に合わせて、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションなどを取り入れる。 |
| 事前事後学習 | 受講学生の学習進度に合わせて課せられた事前の課題に取り組み、２日間の集中授業を受講すること。 |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>表現総合演習 | 専門科目<br>教員の免許状取得のための必修科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：本間　一江<br>担当形態： 複数 |
|---|---|---|---|
| Seminar of Self-expression for Early Child Care and Education | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP4c | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs2c253 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | 2018 年度まで：教育課程及び指導法に関する科目<br>・保育内容の指導法 | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：保育の内容・方法に関する科目 | | |
| 成績評価 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（７０％）および授業態度と参加の積極性（３０％）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 | | |
| 教科書 | なし | | |
| 参考文献 | 文部科学省「幼稚園教育要領解説」、厚生労働省「保育所保育指針」、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」、名須川知子･高橋敏之（編著）保育内容「表現」論ミネルヴァ書房 | | |

授業の概要

保育における「表現」で大切なことは、保育者が子ども一人一人の表現を受けとめ、その思いや発想に共感し、表現する意欲を受けとめ、楽しさを共有することである。

本授業では、保育者として子どもと豊かに関わり、育ちを支えるために必要な保育者自身の感性とそれを支える表現技術の獲得を目指す。また、子どもの創造的な表現活動を支援するための援助法やヒントを与えることのできる指導力の育成を目指す。

授業の到達目標及びテーマ

①言語・音楽・造形・身体を総合した表現活動の実際を学習する。

②領域「表現」を理解し、日常の保育や行事での「表現」に関する具体的な指導法を学ぶ。

③保育実践に役立つ総合表現活動を企画し、それを実際に行う体験を通して、保育の場における「表現」への理解を深める。

授業計画【スクーリング科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 本授業の目標、課題及び成績の評価方法についての説明 |
| 2 | 子どもの表現について | 子どもの表現行動の特徴についての理解 |
| 3 | 表現の教材研究１ | 言語（絵本・素話等）を手がかりとした表現 |
| 4 | 表現の教材研究２ | 音･音楽を手がかりとしての表現 |
| 5 | 表現の教材研究３ | 造形物（手作りおもちゃや身近な素材を使って）を手がかりとした表現 |
| 6 | 表現の教材研究４ | 身体（からだ）を手がかりとした表現 |
| 7 | 基礎的理論１ | 表現とは？（ディスカッションを通して考えてみる） |
| 8 | 基礎的理論２ | 感性とは、コミュニケーションとは？（　　〃　　） |
| 9 | 劇的表現１ | 台本作り、役決め、音の選定 |
| １０ | 劇的表現２ | 練習、小道具や衣装の制作 |
| １１ | 劇的表現３ | 手直し、リハーサル |
| １２ | 劇的表現４ | 発表、VTR 収録 |
| １３ | 劇的表現５ | VTR 鑑賞、評価、振り返り |
| １４ | 指導案と模擬保育の実施 | 実践した劇を題材に指導案の作成、模擬保育の実施 |
| １５ | まとめ | 「表現」に関しての学びを振り返る |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 開講時期及び受講学生の学習進度に合わせて、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションなどを取り入れる。 |
| 事前事後学習 | ３日間での集中授業であるため、受講学生の学習進度に合わせて、課題を課すので、主体的に取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>保育実習指導Ⅰ | 専門科目 | 単位数：<br>2 単位 | 担当教員名：尾野　明美<br>担当形態：クラス分け |
|---|---|---|---|
| Guidance of Practical Training Ⅰ | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018 年度まで：DP4c<br>2019 年度から：DP4C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018 年度まで：CCs3c171<br>2019 年度から：CCs3c171 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | ― | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：保育実習<br>2019 年度から：保育実習 | | |
| 成績評価 | 演習課題（50%）、試験(30%)、リアクションペーパー(20%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。 | | |
| 教科書 | ①「生活事例からはじめる　教育実習・保育実習」吉田眞理編著（青踏社）<br>②「平成 29 年度告示　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領　原本」文部科学書・厚生労働省・内閣府（チャイルド本社）<br>③「教育・保育実習に役立つ 部分実習指導案集」宮川萬寿美編著（萌文書林） | | |
| 参考文献 | なし | | |

授業の概要

実習を円滑に進めていくための知識・技術の習得、実習体験を深化させるための基礎的学習を行う。
事前学習では、保育実習Ⅰ(保育所)及び保育実習Ⅰ(施設)における保育所/施設の機能と役割と、保育者の役割に関する理解を意識化するとともに、自己の課題を明確化する。
事後学習では、実習体験を振り返り、自己の実習課題の達成と成果について省察し、更なる学習への意欲を喚起し実践力の獲得につなげる。

授業の到達目標及びテーマ

1．保育実習Ⅰの意義・目的を理解する。
2．各実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。
3．実習に必要な基礎的な知識や技能を習得する。
4．実習の計画、実践、観察、記録、指導案、評価の方法や内容について具体的に理解する。
5．実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。
6．実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

授業計画【スクーリング科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション　実習準備① | 実習全体の概要、中止基準および判定会議等の説明 |
| 2 | 保育実習Ⅰ(保育所・施設)実習準備② | 実習の服装、基本的な実習マナー(自己紹介・言葉遣い・挨拶)についてSST(ソーシャルスキルトレーニング) |
| 3 | 保育実習Ⅰ(保育所・施設)実習準備③ | 実習生紹介の書き方、実習生紹介作成、部分実習指導案の説明、健康管理と体調チェック、実習生としての心構え、実習に際しての留意事項 |
| 4 | 保育実習Ⅰ(保育所・施設) 実習準備④ | 保育実習Ⅰ(保育所)における実習の目的と概要、実習の意義 |
| 5 | 保育実習Ⅰ(保育所・施設) 実習準備⑤ | 保育実習Ⅰ(施設)における実習の目的と概要、実習の意義 |
| 6 | 保育実習Ⅰ(保育所・施設) 実習準備⑥ | 保育者になるための基礎知識(実習態度：表情・呼吸・声の出し方、実習スキル：掃除の仕方等) |
| 7 | 保育実習Ⅰ(保育所・施 | 保育者になるための基礎知識(実習スキル：子どもとのかかわり方(禁忌 |

| | | |
|---|---|---|
| | 設）実習準備⑦ | 事項含む)、うまくいかない子どもの気持ち) |
| 8 | 保育実習Ⅰ(保育所・施設)実習準備⑧ | 保育所・施設における実習の課題と計画・部分実習指導案作成の説明 |
| 9 | 保育実習Ⅰ(保育所・施設)実習準備⑨ | 保育所における観察、記録および評価、実習日誌の書き方 |
| 10 | 保育実習Ⅰ(保育所・施設)実習準備⑩ | 施設における観察、記録および評価、実習日誌の書き方 |
| 11 | 保育実習Ⅰ(保育所)実習準備⑪ | 部分実習指導案立案と実践① |
| 12 | 保育実習Ⅰ(保育所)実習準備⑫ | 部分実習指導案立案と実践② |
| 13 | 保育実習Ⅰ(保育所)実習準備⑬ | 部分実習指導案立案と実践③ |
| 14 | 保育実習Ⅰ(保育所・施設 ）実習準備⑭ | 保育所・施設におけるオリエンテーションの受け方と注意事項の確認、持ち物の確認 |
| 15 | 保育実習Ⅰ(保育所・施設 ）実習事後指導⑮ | 反省報告会・次の実習への課題・まとめ総括<br>実習体験報告会 |

| 授業科目名：<br>保育実習指導Ⅱ | 専門科目 | 単位数：<br>2 単位 | 担当教員名：尾野　明美<br>担当形態：　クラス分け |
|---|---|---|---|

| Guidance of Practical Training Ⅱ | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018 年度まで：DP4c<br>2019 年度から：DP4C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018 年度まで：CCs3c175<br>2019 年度から：CCs3c175 |
|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | ― |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：保育実習<br>2019 年度から：保育実習 |
| 成績評価 | 演習課題（50%）、試験(30%)、リアクションペーパー(20%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 教科書 | ①「生活事例からはじめる　教育実習・保育実習」吉田眞理編著（青踏社）<br>②「平成 29 年度告示　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領　原本」文部科学書・厚生労働省・内閣府（チャイルド本社）<br>③「教育・保育実習に役立つ 部分実習指導案集」宮川萬寿美編著（萌文書林） |
| 参考文献 | なし |

授業の概要

各自の実習へ向けての課題を明確化する。また、保育所実習Ⅱの意義、目的、内容を理解し、保育実習Ⅱで求められる知識・技能の習得に向けて事前準備を行う。実習終了後では実習の振り返りを行い、保育における自己評価、チーム保育、保育士の職業倫理、子育て家庭支援、地域･小学校との連携など、保育実習Ⅰ(保育所)を踏まえて学びが深められた点などを確認し、さらに、新たな課題を見つける。

授業の到達目標及びテーマ

①保育実習Ⅰ(保育所)を振り返り、各自の課題を明確化し、保育実習Ⅱへつなげる。

②保育実習Ⅱで求められている目的を理解し、事前準備を進めていく。

③保育所での全体的な計画や指導計画の立て方を理解し、実践し、自己評価につなげられるように力をつけ、新たな課題を設定する

授業計画【スクーリング科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 保育実習Ⅱのガイダンスと課題設定 | 保育実習Ⅱの概要と目的について学ぶ。これまでの実習を振り返り、反省から保育実習Ⅱへの課題を見つけ、自己課題を明確化する。 |
| 2 | 日誌の書き方 | 保育実習Ⅱの日誌の書き方について学ぶ。 |
| 3 | 指導計画案の立て方 | 全体的な計画の理解と指導計画案作成について学び、部分実習・責任実習の指導計画案を作成する。 |
| 4 | 指導計画案の書き方② | 一度書いた指導案が実施できるよう準備を進める。 |

| | | |
|---|---|---|
| 5 | 実習直前オリエンテーション | 実習直前のオリエンテーションを行い実習に向けて具体的な準備を進める。 |
| 6 | 保育実習Ⅱ実習の振り返りと自己評価 | 保育実習Ⅱの振り返りを通して実習報告書を作成する。実習園からの評価を通して、さらに自己評価を行う。 |
| 7 | 日誌・指導案の記述見直し・復習 | 日誌と指導案の記述を見直し、添削いただいた箇所から学びを深める。 |
| 8 | 全体総括 | 事前・事後指導で学んだことを確認し、保育士として現場へ出る際の課題を見つける。 |

| 授業科目名：<br>保育実習指導Ⅲ | 専門科目 | 単位数：<br>1 単位 | 担当教員名：尾野　明美<br>担当形態：　クラス分け |
|---|---|---|---|
| Guidance of Practical TrainingⅢ | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018 年度まで：DP4c<br>2019 年度から：DP4C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018 年度まで：CCs3c177<br>2019 年度から：CCs3c177 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | — | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：保育実習<br>2019 年度から：保育実習 | | |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 演習課題（50%）、試験(30%)、リアクションペーパー(20%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 教科書 | ①「生活事例からはじめる　教育実習・保育実習」吉田眞理編著（青踏社）<br>②「平成 29 年度告示　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領　原本」文部科学書・厚生労働省・内閣府（チャイルド本社）<br>③「教育・保育実習に役立つ 部分実習指導案集」宮川萬寿美編著（萌文書林） |
| 参考文献 | 「施設実習」民秋言編　北大路書房<br>「保育士のための福祉施設実習ハンドブック」小野澤昇・田中利則著　ミネルヴァ書房 |

授業の概要

社会的養護施設や児童厚生施設、障害者施設等における実習を適切に進めていくための知識・技術の習得、実習体験を深化させるための基礎的学習を行う。

授業の到達目標及びテーマ

１．保育実習Ⅲの意義・目的・内容を理解し、自らの課題を明確にする。

２．実習施設における子どもや利用者の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について、保育実習Ⅰ（施設）の成果を踏まえて理解する。

３．保育実習Ⅲの計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。

４．保育実習Ⅲの事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

授業計画【スクーリング科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 保育実習Ⅲ準備 | 保育実習Ⅲ全体の概要を学び、実習目的を理解する。実習に必要な書類の準備や確認を行う。関連図書による学習（現在の社会福祉施設の機能について、適宜図書や資料を読み、全般的な理解を深める） |
| | 配属施設の理解 | 資料により自分が配属される施設について理解を深める。（施設の資料やインターネット上で公開されている第三者評価情報等を調べてみる等）。 |
| 2 | 実習先施設の理解 | 児童福祉施設や障害者施設の現状と課題、社会的機能を知る。 |
| 3 | 支援方法の理解 | 児童福祉施設や障害者施設の利用者への支援のあり方について、障害者の権利や現在の障害者への支援に関する原理、理念的な事柄を復習しながら学ぶ。 |
| 4 | 実習計画表の準備 | 保育実習Ⅰ（施設）における自己課題の振り返り及び実習に向けての課題の明確化・実習計画表の作成をする。 |
| 5 | 日誌作成の準備 | 日課記録の記入方法について保育実習Ⅰ（施設）の反省を元に学習する。 |
| 6 | 実習後振り返り | 実習前に学習した課題に沿って、実習成果を振り返りまとめる。 |
| 7<br>8 | 実習報告会 | グループディスカッションにより、各自の成果、課題を報告し合い、社会福祉施設の機能や保育士の役割を全般的に理解する。 |

| 授業科目名：<br>保育相談支援 | 専門科目 | 単位数：<br>1 単位 | 担当教員名：宮川　萬寿美<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|

| Counseling and Social work in Early Child Care and Education | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP3c | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs2c170 |
|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | — |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：保育の内容・方法に関する科目 |
| 成績評価 | 演習課題（50%）、試験(30%)、リアクションペーパー(20%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 教科書 | 「生活事例からはじめる保育相談支援」吉田眞理著　青踏社　第４版 |
| 参考文献 | 「保育者のための相談・援助技術」小舘静枝・小林育子<br>「保険・福祉における　ケースカンファレンスの実践」西尾裕吾編著　中央法規<br>「福祉キーワードシリーズ　子ども虐待」高橋重宏・庄司順一編著　中央法規 |

授業の概要

保育相談支援は保育者が保護者の相談にのる多様な場面を想定して、その考え方や方法を学ぶ教科目である。演習科目であるから、グループワークや事例検討を通じて学んでいく。

授業の到達目標及びテーマ

１．保育相談支援の意義と原則について理解し、保護者支援の基本を説明できる

３．保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。

４．保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について事例を通じて学ぶ

授業計画【スクーリング科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 保護者に対する保育相談支援の意義１ | （第１章１）アセスメント、アセスメントツール<br>P18 の演習課題 |
| 2 | 保護者に対する保育相談支援の意義２ | （第１章１）子育て不安への対応、保育知識の提供<br>P22 事例 3 のエコマップ、事例 4 のエコマップ |
| 3 | 保護者に対する保育相談支援の意義３<br>保育の特性と保育士の | （第１章１）保護者自身がコーディネーターになることへの支援環境についての相談支援　p24 演習課題<br>（第１章２）子どもの生活の場としての特性、保育の専門職としての |

| | 専門性を生かした支援 | 特性 |
|---|---|---|
| 4 | 子どもの最善の利益と福祉の重視<br>子どもの成長の喜びの共有 | （第２章１）児童福祉法、児童憲章、児童の権利に関する条約<br>p35 演習課題<br>（第２章２）保護者の話を聴く、子どもの様子を伝える<br>P41 演習課題 |
| 5 | 保護者の養育力の向上に資する支援<br>信頼関係を基本としたかかわり | （第２章３）知識や気づきの提供、研修や保護者会<br>（第２章４）受容、自己決定、秘密保持、支援者としての心構え保護者への支援　P50 演習課題 |
| 6 | 地域資源の活用<br>保育相談支援の実際１ | （第２章５）関係機関との連携・協力、関係機関の多様性<br>ｐ55 演習課題<br>（第３章１）保育にかかわる保護者への指導　P70 演習課題 |
| 7 | 保育相談支援の実際２<br>保育相談支援の実際３ | （第３章２）保育相談支援の内容　P75 演習課題<br>（第３章３）保育相談支援の方法と技術、ニーズ把握、取り組みから終結まで　P84 演習課題 |
| 8 | 保育相談支援の実際４<br>児童福祉施設における保育相談支援の実際 | （第３章４）保育相談支援の計画、記録、評価、カンファレンス<br>（第４章１，２）児童虐待、障害児への対応<br>P115 演習課題 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 開講時期及び受講学生の学習進度に合わせて、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションなどを取り入れる。 |
| 事前事後学習 | ２日間での集中授業であるため、受講学生の学習進度に合わせて、課題を課すので、主体的に取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>保育内容総論Ⅰ | 専門科目<br>教員の免許状取得のための必修科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：宮川　萬寿美<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|

| Guidance of Early Child Care and Education Ⅰ | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：<br>2018 年度まで：DP4c<br>2019 年度から：DP5C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：<br>2018 年度まで：CCs2c351<br>2019 年度から：CCs1c355 |
|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | 2018 年度まで：教育課程及び指導法に関する科目<br>・保育内容の指導法<br>2019 年度から：領域および保育内容の指導法に関する科目<br>・保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：保育の内容・方法に関する科目<br>2019 年度から：保育の内容・方法に関する科目（保育内容総論） |
| 成績評価 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（７０％）および授業態度と参加の積極性（３０％）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 教科書 | ①　「生活事例からはじめる　保育内容総論」　第３版　神蔵幸子・宮川萬寿美編著（青踏社）<br>②　「保育する力」　初版　第2刷　吉田眞理編著（ミネルヴァ書房）<br>③　「平成 29 年度告示　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領　原本」内閣府・文部科学省・厚生労働省（チャイルド本社） |
| 参考文献 | 特になし |

授業の概要

幼児教育の場では、子どもがその環境の中で生活し、その環境とのかかわりの中で、心身ともに成長し発達していくのを援助する。保育内容総論Ⅰでは、保育を総合的にとらえる視点を養い、保育の全体構造の理解に基づいて、子ども理解や保育・教育方法を模擬授業を通して具体的に展開していく方法を学ぶ。「生活」「発達」「環境」などをキーワードに、保育者の基本的な考え方やふるまい方について、事例を取り上げながら授業を進めていく。

授業の到達目標及びテーマ

①　幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領に基づいて、保育内容の構造を理解し、保育内容のねらいと内容について知識を習得する

②子どもの生活に即し、季節の変化等を取り入れた保育計画を立てる方法を身につける

③５領域及び総合的な遊びついて説明できる

授業計画【スクーリング科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 保育内容とは | 幼児教育の基本・保育内容のねらいと内容・５領域<br>教科書①　第１章 |
| 2 | 保育内容の変遷 | 保育内容の歴史　幼稚園教育要領の変遷<br>教科書①　第２章 |
| 3 | 環境を通して行う保育 | 遊びの総合的な展開<br>教科書①　第３章 |
| 4 | 乳児保育と保育内容 | 乳児、１歳以上３歳未満児の保育内容・養護と教育の一体<br>教科書①　第５章<br>教科書②　第２章　（第１節、第２節） |
| 5 | 幼児教育と保育内容 | ３歳以上児の保育内容<br>幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿　学びの連続性<br>教科書①　第５章<br>教科書②　第２章　（第２節）　第４章（第３節） |
| 6 | 保育の計画と評価 | 教育課程とそれに基づく長期の指導計画及び短期に指導計画<br>季節の行事の週案・指導案作成<br>教科書①　第６・７章<br>教科書②　第１章（第２節）第２章（第３節） |
| 7 | 多様性への対応と保育内容 | 子どもの発達理解と保育内容<br>教材作成及び教材を使った模擬保育　（情報機器の操作及び教材の活用を含む）<br>教科書①　第８章<br>教科書②　第２章　（第５節） |
| 8 | 保育の記録 | 保育における記録の意味<br>保育日誌・クラスだよりの実際<br>教科書①　第９章<br>教科書②　第１章（第２節） |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 開講時期及び受講学生の学習進度に合わせて、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションなどを取り入れる。 |
| 事前事後学習 | ２日間での集中授業であるため、受講学生の学習進度に合わせて、課題を課すので、主体的に取り組むこと |
| ICT の活用 | 保育関連のアプリを活用し、教材（手作りおもちゃ）を作成する |

| 授業科目名：<br>保育の心理学Ⅱ | 教員の免許状取得のための必修科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：大浦　賢治<br>担当形態：単独 |
|---|---|---|---|
| Child Understanding and Help | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP4C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs2c153 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | — | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 保育の対象の理解に関する科目（子どもの理解と援助） | | |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 課題に対して提出された内容を総合的な観点で評価する。 |
| 教科書 | 「実践につながる新しい子どもの理解と援助」　大浦賢治　編著　ミネルヴァ書房 |
| 参考文献 | 「実践につながる新しい保育の心理学」　大浦賢治　編著　ミネルヴァ書房 |

授業の概要

子どもの発達と保育者との相互作用について学び、心身の発達に応じた保育実践に関して理解を深める。また子どもを理解するための視点について学ぶ。これらの学習をとおして、子ども理解に基づく援助の具体的な方法について考察していく。なお、本科目は「保育の心理学Ⅰ」の単位を修得済みであることを前提にして授業を進めます。

授業の到達目標及びテーマ

①保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。

②子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。

③子どもを理解するための具体的な方法を理解する。

④子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。

授業計画【スクーリング科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 子ども理解と援助の基本 | 教科書　第１章　保育者の心構えなどについて学ぶ。 |
| 2 | ０歳から１歳児の理解と援助 | 教科書　第２章　０歳から１歳児の関わり方を学ぶ。 |
| 3 | ２歳から３歳児の理解と援助 | 教科書　第３章　２歳から３歳児の関わり方を学ぶ。 |
| 4 | ４歳から６歳児の理解と援助 | 教科書　第４章　４歳から６歳児の関わり方を学ぶ。 |
| 5 | 保育の観察と記録 | 教科書　第５章　観察と記録のポイントを学ぶ。 |
| 6 | 発達障害児について | 教科書　第６章　発達障害児に対する支援を学ぶ。 |
| 7 | 外国にルーツをもつ子ども | 教科書　第７章　外国にルーツをもつ子どもへの支援を学ぶ。 |
| 8 | 協働と連携 | 教科書　第８章　協働と連携のポイントを理解する。 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 動画を視聴した後で課題に取り組み、自分の考えや見方を発展させる。 |
| 事前事後学習 | 「保育の心理学Ⅰ」のテキストを前もって理解しておく。事後は学んだことを実習などで活用する。 |
| ICT の活用 | パワーポイント、映像などを使用して解説を行う。 |

| 授業科目名：<br>子どもの理解と援助 | 教員の免許状取得のための必修科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：大浦　賢治<br>担当形態：単独 |
|---|---|---|---|
| Child Understanding and Help | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP4C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs2c153 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | — | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 保育の対象の理解に関する科目（子どもの理解と援助） | | |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 課題に対して提出された内容を総合的な観点で評価する。 |
| 教科書 | 「実践につながる新しい子どもの理解と援助」　大浦賢治　編著　ミネルヴァ書房 |
| 参考文献 | 「実践につながる新しい保育の心理学」　大浦賢治　編著　ミネルヴァ書房 |

授業の概要

子どもの発達と保育者との相互作用について学び、心身の発達に応じた保育実践に関して理解を深める。また子どもを理解するための視点について学ぶ。これらの学習をとおして、子ども理解に基づく援助の具体的な方法について考察していく。なお、本科目は「保育の心理学Ⅰ」の単位を修得済みであることを前提にして授業を進めます。

授業の到達目標及びテーマ

①保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。

②子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。

③子どもを理解するための具体的な方法を理解する。

④子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。

授業計画【スクーリング科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 子ども理解と援助の基本 | 教科書　第１章　保育者の心構えなどについて学ぶ。 |
| 2 | ０歳から１歳児の理解と援助 | 教科書　第２章　０歳から１歳児の関わり方を学ぶ。 |
| 3 | ２歳から３歳児の理解と援助 | 教科書　第３章　２歳から３歳児の関わり方を学ぶ。 |
| 4 | ４歳から６歳児の理解と援助 | 教科書　第４章　４歳から６歳児の関わり方を学ぶ。 |
| 5 | 保育の観察と記録 | 教科書　第５章　観察と記録のポイントを学ぶ。 |
| 6 | 発達障害児について | 教科書　第６章　発達障害児に対する支援を学ぶ。 |
| 7 | 外国にルーツをもつ子ども | 教科書　第７章　外国にルーツをもつ子どもへの支援を学ぶ。 |
| 8 | 協働と連携 | 教科書　第８章　協働と連携のポイントを理解する。 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 動画を視聴した後で課題に取り組み、自分の考えや見方を発展させる。 |
| 事前事後学習 | 「保育の心理学Ⅰ」のテキストを前もって理解しておく。事後は学んだことを実習などで活用する。 |
| ICT の活用 | パワーポイント、映像などを使用して解説を行う。 |

| 授業科目名：<br>音楽表現Ⅱ | 専門科目 | 単位数：<br>1 単位 | 担当教員名：澤田　優子<br>担当形態：　クラス分け |
|---|---|---|---|

| Music Expression Ⅱ | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP2C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs1c139 |
|---|---|---|

| | |
|---|---|
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | ― |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2019 年度から：保育の内容・方法に関する科目 |
| 成績評価 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（７０％）および授業態度と参加の積極性（３０％）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 教科書 | 今泉明美 他<br>『幼稚園教諭･保育士養成課程 子どものための音楽表現技術 -感性と実践力豊かな保育者へ-』萌文書林<br>鈴木恵津子 他『改訂　ポケットいっぱいのうた』　教育芸術社 |
| 参考文献 | 細田淳子『こどもといっしょにたのしく打楽器』　共同音楽出版社<br>細田淳子『わくわく音遊びで簡単発表会』　すずき出版<br>文部科学省『幼稚園教育要領解説』　フレーベル館<br>内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館<br>厚生労働省『保育所保育指針解説書』　フレーベル館 |

授業の概要

この科目は音楽表現Ⅰに引き続き、保育士資格取得における保育の内容の理解と方法に関する科目である。保育内容を理解し、保育現場や児童館での子どもの音楽の表現遊びを豊かに展開するために必要な基本的知識と技術、保育環境の構成、活動の展開を習得する。ここでは特に打楽器や鍵盤打楽器の特徴や奏法を学び保育者としての表現力を培うと共に、子どもとの楽器活動をする上での環境構成や楽器の指導・支援方法について学ぶ。

授業の到達目標及びテーマ

① 保育現場で扱う打楽器の発音の仕組みや基本奏法の理解を深め、各楽器の特性を活かした効果的な演奏法や活用法を学ぶと共に表現の楽しさを体験しながら保育者としての表現力を培う。

② 器楽合奏やアンサンブルの経験を通して、子どもの日頃の遊びを豊かにし、子どもの感性を養うための音や音楽の環境構成を知り、楽器活動の指導・支援方法を習得する。

授業計画【スクーリング科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 音板打楽器の知識と奏法<br>音楽の基礎知識の復習 | 音板打楽器の発音の仕組みと奏法について(教科書:Part1)<br>保育現場で親しむ打楽器の発音原理とその種類、音楽基礎知識の復習 |
| 2 | 音板打楽器演奏<br>音楽的発達と器楽指導 | 音板打楽器の基本奏法とアンサンブル演奏(教科書:Part1)<br>乳幼児の音楽的発達と器楽の導入･指導について(教科書:Part2) |
| 3 | 音板打楽器演奏<br>簡易打楽器の特徴と奏法 | 音板打楽器アンサンブルの演奏試験(教科書:Part1)<br>ミュージックベル（トーンチャイム）の基本奏法とアンサンブル演奏(参考文献:こどもといっしょにたのしく打楽器) |
| 4 | 簡易打楽器演奏<br>簡易打楽器の合奏指導 | ミュージックベル（トーンチャイム）を用いた乳幼児の音楽遊びと合奏指導(参考文献:こどもといっしょにたのしく打楽器)<br>ミュージックベル（トーンチャイム）のアンサンブル演奏試験。 |
| 5 | 音楽的表現遊びの計画 | 幼児の音楽的表現遊びの計画について<br>・音楽的表現遊びの指導計画の立案とその考え方(教科書:Part2) |
| 6 | 音楽的表現遊びの立案 | 楽器を用いた音楽的表現遊びを立案する（3，4，5 歳児向け） |

| | | |
|---|---|---|
| | | ・子どもの発達と音楽的要素について(教科書:Part2)<br>・遊びで使用する曲の弾き歌い練習 |
| 7 | 音楽的表現遊びの実践① | 音楽的表現遊びの実践と相互評価(教科書:Part2)<br>・遊びで使用する曲の弾き歌い確認試験<br>・実践者と子ども役に分かれての音楽的表現遊びの実践と振り返り |
| 8 | 音楽的表現遊びの実践② | 音楽的表現遊びの実践と相互評価(教科書:Part2)<br>・遊びで使用する曲の弾き歌い確認試験<br>・実践者と子ども役に分かれての音楽的表現遊びの実践と振り返り |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 開講時期及び受講学生の学習進度に合わせて、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションなどを取り入れる。 |
| 事前事後学習 | ２日間での集中授業であるため、受講学生の学習進度に合わせて、課題を課すので、主体的に取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>子育て支援 | 専門科目 | 単位数：<br>1 単位 | 担当教員名：宮川　萬寿美<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|
| Parenting Support | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP2C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs2c132 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | — | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2019 年度から：保育の内容・方法に関する科目（子育て支援） | | |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 演習課題（50%）、試験(30%)、リアクションペーパー(20%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 教科書 | 「生活事例からはじめる子育て支援」吉田眞理著　青踏社　2019 初版 |
| 参考文献 | 「保育者のための相談・援助技術」小舘静枝・小林育子<br>「保険・福祉における　ケースカンファレンスの実践」西尾裕吾編著　中央法規<br>「福祉キーワードシリーズ　子ども虐待」高橋重宏・庄司順一編著　中央法規 |

授業の概要

[子育て支援]は保育者が保護者の相談にのる多様な場面を想定して、その考え方や方法を学ぶ教科目である。演習科目であるから、グループワークや事例検討を通じて学んでいく。

授業の到達目標及びテーマ

１．保育の専門性を背景とした保護者に対する支援の特性を理解し、説明できる

２．保育士の行なう相談、助言、情報提供、行動モデル提示を事例にそって理解する

３．具体的な場面を設定した事例を学ぶ

授業計画【スクーリング科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 保育士の行なう子育て支援の特性１ | 子どもの保育とともに行なう保護者の支援<br>日常的なかかわりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成 |
| 2 | 保育士の行なう子育て支援の特性２ | 保護者や家族の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解<br>子ども・保護者が多様な他者とかかわる機会や場の提供 |
| 3 | 保育士の行なう子育て支援の原理１ | 子ども及び保護者の状況・状態の把握<br>支援の計画と環境の構成　支援の実践と記録 |
| 4 | 保育士の行なう子育て支援の原理２ | 評価　カンファレンス<br>守秘義務と説明責任 |
| 5 | 保育士の行なう子育て支 | 職員間の連携・協働 |

| | | |
|---|---|---|
| | 援の原理３ | 社会資源の活用と自治体・関係機関との連携・協働 |
| 6 | 保育士の行なう子育て支援とその実際１ | 保育所等における支<br>地域の子育て家庭に対する支援<br>地域を舞台とした子育て支援 |
| 7 | 保育士の行なう子育て支援とその実際２ | 障害のある子ども及びその家族に対する支援<br>特別な配慮を要する子ども及びその家族に対する支援 |
| 8 | 保育士の行なう子育て支援とその実際３ | 子ども虐待の予防と対応<br>要保護児童等の家庭に対する支援 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 開講時期及び受講学生の学習進度に合わせて、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションなどを取り入れる。 |
| 事前事後学習 | ２日間での集中授業であるため、受講学生の学習進度に合わせて、課題を課すので、主体的に取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

| 授業科目名：<br>子どもの健康と安全 | 専門科目 | 単位数：<br>1 単位 | 担当教員名：中山　貴太<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|
| Health and Safety for Children | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP4C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs2c127 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | — | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2019 年度から：保育の内容・方法に関する科目（子どもの健康と安全） | | |
| 成績評価 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 | | |
| 教科書 | なし | | |
| 参考文献 | 適宜紹介 | | |

授業の概要

保健的観点に基づく保育の環境整備や援助について理解する。体調不良等に対する適切な対応や関連するガイドラインやデータ等を踏まえ保育における健康および安全の管理、感染症対策、保育における保健的対応を具体的に理解する。子どもの健康及び安全管理の実施体制や保健活動の計画及び評価等について具体的に理解する。

授業の到達目標及びテーマ

1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。
2. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について具体的に理解する。
3. 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理、事故防止、安全対策、危機管理、災害対策、感染症、子どもの発達や状態などに即した対応について具体的に理解する。
4. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について具体的に理解する。

授業計画【スクーリング科目】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 保健的保育環境及び援助 | 子どもの健康と保育環境など |
| 2 | 健康及び安全の管理① | 保育現場における衛生管理、安全管理など |
| 3 | 健康及び安全の管理② | 保育現場における危機管理、災害対策など |
| 4 | 体調不良等に対する適切な対応① | 体調不良や傷害の対応、応急処置など |
| 5 | 体調不良等に対する適切な対応② | 救急処置、救急蘇生法など |
| 6 | 感染症対策 | 集団発生の予防と羅漢後の対応など |
| 7 | 保健的対応 | 3 歳児未満への対応、障害のある子どもへの対応など |

| | | |
|---|---|---|
| 8 | 健康・安全管理の実施体制 | 職員間、自治体、専門機関との連携、保健活動計画及び評価など |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 開講時期及び受講学生の学習進度に合わせて、ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションなどを取り入れる。 |
| 事前事後学習 | ２日間での集中授業であるため、受講学生の学習進度に合わせて、課題を課すので、主体的に取り組むこと |
| ICT の活用 | なし |

## 保育学科通信教育課程＜メディア授業用＞

| 授業科目名：<br>社会的養護Ⅱ | 専門科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：吉田　眞理<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|
| Theory of Out-of-Home CareⅡ | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP3C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs2c130 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | ― | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2019 年度から：保育の内容・方法に関する科目（社会的養護Ⅱ） | | |
| 成績評価 | 授業内で実施する試験（確認テスト４０％）と、レポート提出など（最終課題６０％）の結果を踏まえ、総合的な観点で評価する。 | | |
| 教科書 | 「児童の福祉を支える〈演習〉社会的養護Ⅱ」吉田・高橋・村田共著<br>萌文書林 2019 初版 | | |
| 参考文献 | ― | | |

授業の概要

この授業では、生活型児童福祉施設や里親等の「家庭外の場」における子どもの養護のあり方について基礎的な理解を深める。

「生活の場」でどのように子どもの権利を尊重しながら支援を展開するか、「子どもの最善の利益」「虐待」「権利擁護」等をキーワードにしながら、施設や里親家庭における実際の支援あり方を学ぶ。

授業の到達目標及びテーマ

１．子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。

２．施設養護や家庭養護の実際について理解する。

３．社会的養護における「計画」「記録」「評価」の実際について理解する。

４．社会的養護に関わる相談援助の方法と技術について理解する。

５．社会的養護における子どもの虐待の防止と家庭支援について理解する。

授業計画【スクーリング科目（メディア授業）】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 子どもの権利擁護<br>仕組みと保育士等の倫理・責務 | 第1章　Ⅰ§１～２「子どもの権利条約」を基礎とした子どもの権利の内容・権利擁護の意味を理解する。<br>✧　日常生活支援に関する事例分析<br>✧　治療的支援に関する事例分析<br>✧　自立支援に関する事例分析<br>Ⅰ§３　権利を守る仕組みについて理解する。<br>Ⅱ　保育士等の専門職のあり方（倫理・バーンアウト・共依存等）を学ぶ。 |
| 2 | 社会的養護の実施体系 | 第２章　Ⅰ　児童養護の体系と児童福祉施設の概要を理解する。 |

## 保育学科通信教育課程＜メディア授業用＞

| | | |
|---|---|---|
| | （1） | Ⅱ　児童養護施設の日常生活支援について現場の映像をもとに学ぶ。 |
| 3 | 社会的養護の実施体系（2） | Ⅱ乳児院、母子生活支援施設の日常生活支援について現場の映像をもとに学ぶ。 |
| 4 | 社会的養護の実施体系（3） | 第２章　Ⅱ　医療型障害児入所施設（重症心身障害児・肢体不自由児）の日常生活支援について学ぶ。 |
| 5 | 社会的養護の実施体系（4） | 第２章　Ⅱ行動・適応障害系施設（児童自立支援施設・児童心理治療施設）の日常生活支援の日常生活支援について現場の映像をもとに学ぶ。 |
| 6 | 保育士の専門性に関わる知識・技術（1） | 第2章　Ⅱ福祉型障害児入所施設（知的障害児・自閉症児・盲ろうあ児）の日常生活支援について現場の映像をもとに学ぶ。<br>里親制度と里親養育について現場の映像をもとに学ぶ。 |
| 7 | 保育士の専門性に関わる知識・技術（2） | 第３章　Ⅰ　親子関係の調整について、児童相談所との連携や家族支援のあり方を踏まえて理解する。<br>Ⅱ　ソーシャルワークにかかわる知識・技術を踏まえ、入所から退所後に至る支援と記録及び自己評価について学ぶ。 |
| 8 | 社会的養護における今後の課題と展望 | 第４章　施設の小規模化と地域連携について理解する。 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 各回、事例を交えた構成となるため、CoLS において、教員・学生間とのコミュニケーションツールである「フォーラム」に積極的に活用すること |
| 事前事後学習 | 各回にて、「確認テスト」を課すので必ず取り組むこと |
| ICT の活用 | メディア授業による開講のため、別に案内する「メディア授業について」を参照しながら、ＩＣＴを活用した積極的な受講に努めること |

## 保育学科通信教育課程＜メディア授業用＞

| 授業科目名：<br>社会的養護内容 | 専門科目 | 単位数：<br>1 単位 | 担当教員名：吉田　眞理<br>担当形態：　単独 |
|---|---|---|---|
| Study of Out-of-Home Care | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP4c | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs1c169 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | — | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：保育の内容・方法に関する科目 | | |
| 成績評価 | 授業内で実施する試験（確認テスト４０％）と、レポート提出など（最終課題６０％）の結果を踏まえ、総合的な観点で評価する。 | | |
| 教科書 | 「児童の福祉を支える〈演習〉社会的養護Ⅱ」吉田・高橋・村田共著<br>萌文書林 2019 初版 | | |
| 参考文献 | — | | |

授業の概要

この授業では、生活型児童福祉施設や里親等の「家庭外の場」における子どもの養護のあり方について基礎的な理解を深める。

「生活の場」でどのように子どもの権利を尊重しながら支援を展開するか、「子どもの最善の利益」「虐待」「権利擁護」等をキーワードにしながら、施設や里親家庭における実際の支援あり方を学ぶ。

授業の到達目標及びテーマ

１．社会的養護における子どもの権利擁護や保育士の倫理を理解する。

２．施設養護や里親等について理解する。

３．「自立支援」の考え方と日常的な生活における支援のあり方を具体的に理解する。

４．社会的養護に関わるソーシャルワークの方法と技術に関する基礎を理解する。

５．社会的養護と、「家庭支援」「児童家庭福祉」「地域福祉」を関連させて理解する。

授業計画【スクーリング科目（メディア授業）】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | 子どもの権利擁護<br>仕組みと保育士等の倫理・責務 | 第1章　Ⅰ§１～２「子どもの権利条約」を基礎とした子どもの権利の内容・権利擁護の意味を理解する。<br>✧　日常生活支援に関する事例分析<br>✧　治療的支援に関する事例分析<br>✧　自立支援に関する事例分析<br>Ⅰ§３　権利を守る仕組みについて理解する。<br>Ⅱ　保育士等の専門職のあり方（倫理・バーンアウト・共依存等）を学ぶ。 |
| 2 | 社会的養護の実施体系 | 第２章　Ⅰ　児童養護の体系と児童福祉施設の概要を理解する。 |

## 保育学科通信教育課程＜メディア授業用＞

| | | |
|---|---|---|
| | （1） | Ⅱ　児童養護施設の日常生活支援について現場の映像をもとに学ぶ。 |
| 3 | 社会的養護の実施体系（2） | Ⅱ乳児院、母子生活支援施設の日常生活支援について現場の映像をもとに学ぶ。 |
| 4 | 社会的養護の実施体系（3） | 第２章　Ⅱ　医療型障害児入所施設（重症心身障害児・肢体不自由児）の日常生活支援について学ぶ。 |
| 5 | 社会的養護の実施体系（4） | 第２章　Ⅱ行動・適応障害系施設（児童自立支援施設・児童心理治療施設）の日常生活支援の日常生活支援について現場の映像をもとに学ぶ。 |
| 6 | 保育士の専門性に関わる知識・技術（1） | 第2章　Ⅱ福祉型障害児入所施設（知的障害児・自閉症児・盲ろうあ児）の日常生活支援について現場の映像をもとに学ぶ。<br>里親制度と里親養育について現場の映像をもとに学ぶ。 |
| 7 | 保育士の専門性に関わる知識・技術（2） | 第３章　Ⅰ　親子関係の調整について、児童相談所との連携や家族支援のあり方を踏まえて理解する。<br>Ⅱ　ソーシャルワークにかかわる知識・技術を踏まえ、入所から退所後に至る支援と記録及び自己評価について学ぶ。 |
| 8 | 社会的養護における今後の課題と展望 | 第４章　施設の小規模化と地域連携について理解する。 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 各回、事例を交えた構成となるため、CoLS において、教員・学生間とのコミュニケーションツールである「フォーラム」に積極的に活用すること |
| 事前事後学習 | 各回にて、「確認テスト」を課すので必ず取り組むこと |
| ICT の活用 | メディア授業による開講のため、別に案内する「メディア授業について」を参照しながら、ＩＣＴを活用した積極的な受講に努めること |

## 保育学科通信教育課程＜メディア授業用＞

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目名：<br><br>障害児保育 | 専門科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：尾野明美<br>担当形態： 単独 |
| Early Childhood Special Education | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP4C | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs1c169 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | — | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2019 年度から：保育の内容・方法に関する科目（障害児保育） | | |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 授業内で実施する試験（確認テスト 40%）と、レポート提出など（最終課題 60%）の結果を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 教科書 | 「アクティブラーニング対応　エピソードから読み解く障害児保育」　尾野明美・小湊真衣共著　萌文書林 |
| 参考文献 | ①「保育者のための障害児保育　理論と実践」（第２版）尾野明美著　萌文書林<br>②「保育所保育指針解説書」厚生労働省編　フレーベル館 |

授業の概要

この授業は、これまでに習得した障害に関する専門的な知識や内容を踏まえ、保育の現場で実際に繰り広げられる障害児とのかかわりを、事例を通して学び、保育現場で実践的に取り組むための支援方法を身に付けることを授業の目標とする。

授業の到達目標及びテーマ

１．子どもの発達の視点を踏まえて、障害について科学的な理解を深め、事例を読み解きながら障害の特徴を理解する。
２．障害児保育の実際を学び、障害児への支援の内容や方法について検討することができる。
３．インクルーシブ保育において、子ども同士のかかわりの大切さを理解し、多様な子どもたちが安心して過ごせる保育環境について理解を深める。
４．保護者への支援や関係機関との連携について基本的な理解を深め、今後の課題を考えることができる。

授業計画【スクーリング科目（メディア授業)】

| 回数 | | |
|---|---|---|
| | ０歳児の障害児保育（診断のついていない気になる子） | ①障害児保育での注意や大切にすることについて理解する。<br>（第１章）事例「ショウ」の保育事例を読み解く<br>①P11 アクティブラーニング１：保育の留意点や方法を学ぶ。<br>②P13 アクティブラーニング２：保護者とのかかわりを学ぶ。<br>③P16 アクティブラーニング３：保育内容を学ぶ。<br>④０歳児の子どもの基礎的な発達に関する理論を踏まえて、事例「ショウ」の保育事例を読み解き、支援の内容や方法について学ぶ。 |

**保育学科通信教育課程＜メディア授業用＞**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | ０歳児の障害児保育<br>（診断のついていない気になる子） | （第１章）事例「アキハ」の保育事例を読み解く<br>①P22 アクティブラーニング１：保育の留意点や方法を学ぶ。<br>②P22 アクティブラーニング２：保護者とのかかわりを学ぶ。<br>③P26 アクティブラーニング３：保育の留意点や方法を学ぶ。<br>④０歳児の子どもの基礎的な発達に関する理論を踏まえて、事例「アキハ」の保育事例を読み解き、支援の内容や方法について学ぶ。<br>⑤診断のついてない配慮の必要な子どもについて学ぶ。 | |
| 2 | １歳児の障害児保育<br>（成長・発達に遅れのある子） | （第２章）事例「ミドリ」の保育事例を読み解く<br>①P47 アクティブラーニング２：保育の留意点や方法を学ぶ<br>②P55 アクティブラーニング３：保育内容を学ぶ。<br>③P59 アクティブラーニング４:保護者面談での保護者支援を学ぶ。<br>④１歳児の子どもの基礎的な発達に関する理論を踏まえて、事例「ミドリ」の保育事例を読み解き、支援の内容や方法について学ぶ。<br>⑤成長・発達に遅れのある子どもの特性と支援について学ぶ。 | |
| 3 | ２歳児の障害児保育<br>（知的障害：ダウン症） | （第３章）事例「ココロ」の保育事例を読み解く<br>①P88 アクティブラーニング１：保育の留意点や方法を学ぶ。<br>②P95 アクティブラーニング３：保育内容を学ぶ。<br>③P102 アクティブラーニング４:保育の留意点や方法を学ぶ。<br>④２歳児の子どもの基礎的な発達に関する理論を踏まえて、事例「ココロ」の保育事例を読み解き、支援の内容や方法について学ぶ。<br>⑤ダウン症の特性と支援について学ぶ。 | |
| 4 | ３歳児の障害児保育<br>（自閉症スペクトラム:コミュニケーションに障害） | （第４章）事例「コウ」の保育事例を読み解く<br>①P128 アクティブラーニング１：発達の留意点を学ぶ。<br>②P132 アクティブラーニング２：子ども同士のかかわりへの留意点を学ぶ。<br>③p139 アクティブラーニング４：保育内容を学ぶ。<br>④p142 アクティブラーニング５：保育者関連を学ぶ。<br>⑤３歳児の子どもの基礎的な発達に関する理論を踏まえて、事例「コウ」の保育事例を読み解き、支援の内容や方法について学ぶ。<br>⑥自閉症スペクトラム障害の特性と支援について学ぶ。 | |
| 5 | ４歳児の障害児保育<br>（軽度発達障害:こだわりの強い子ども） | （第５章）事例「リク」の保育事例を読み解く<br>①P157 アクティブラーニング１：発達の留意点と保護者連携を学ぶ<br>②P160 アクティブラーニング２:保育の留意点と方法を学ぶ。 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | ③③p164 アクティブラーニング３：保育内容を学ぶ。<br>③P167 アクティブラーニング４：保育内容と留意点を学ぶ。<br>④４歳児の子どもの基礎的な発達に関する理論を踏まえて、事例「リク」の保育事例を読み解き、支援の内容や方法について学ぶ。<br>⑤発達障害の特性と支援について学ぶ。 | |
| 6 | ５歳児の障害児保育<br>（注意欠如・多動性障害） | （第６章）事例「ソウタ」の保育事例を読み解く<br>①P186 アクティブラーニング１：保育内容の検討と保育者支援を学ぶ<br>②P190 アクティブラーニング２：保育の留意点を学ぶ<br>③P194 アクティブラーニング３：子ども同士のかかわりへの留意点を学ぶ<br>④p206 アクティブラーニング６：保護者とのかかわりを学ぶ<br>⑤５歳児の子どもの基礎的な発達に関する理論を踏まえて、事例「ソウタ」の保育事例を読み解き、支援の内容や方法について学ぶ。<br>⑥ADHD の多動性の特性と支援について学ぶ。 | |
| 7 | ６歳児の障害児保育<br>（注意欠如・不注意） | （第７章）事例「スイ」の保育事例を読み解く<br>①P223 アクティブラーニング２：子ども同士のかかわりへの留意点を学ぶ。<br>②P226 アクティブラーニング３：：保育の留意点と方法を学ぶ。<br>③６歳児の子どもの基礎的な発達に関する理論を踏まえて、事例「スイ」の保育事例を読み解き、支援の内容や方法について学ぶ。<br>⑤ADHD の不注意の特性と支援について学ぶ。 | |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 各回、事例を交えた構成となるため、CoLS において、教員・学生間とのコミュニケーションツールである「フォーラム」に積極的に活用すること |
| 事前事後学習 | 各回にて、「確認テスト」を課すので必ず取り組むこと |
| ICT の活用 | メディア授業による開講のため、別に案内する「メディア授業について」を参照しながら、ＩＣＴを活用した積極的な受講に努めること |

## 保育学科通信教育課程＜メディア授業用＞

| 授業科目名：<br>障害児保育Ⅱ | 専門科目 | 単位数：<br>１単位 | 担当教員名：尾野明美<br>担当形態： 単独 |
|---|---|---|---|
| Early Childhood Special Education Ⅱ | ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ：DP3c | ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ：CCs1c168 | |
| 教職課程科目区分に含める必要事項 | — | | |
| 指定保育士養成施設指定基準における科目の系列 | 2018 年度まで：保育の内容・方法に関する科目 | | |

| | |
|---|---|
| 成績評価 | 授業内で実施する試験（確認テスト４０％）と、レポート提出など（最終課題６０％）の結果を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 教科書 | 「アクティブラーニング対応　エピソードから読み解く障害児保育」<br>尾野明美・小湊真衣共著　萌文書林 |
| 参考文献 | 「保育者のための障害児保育　理論と実践」尾野明美著　萌文書林　（第２版）<br>保育所保育指針解説書 |

授業の概要

この授業は、これまでに習得した障害に関する専門的な知識や内容を踏まえ、保育の現場で実際に繰り広げられる障害児とのかかわりを、事例を通して学び、保育現場で実践的に取り組むための支援方法を身に付けることを授業の目標とする。

授業の到達目標及びテーマ

１．子どもの発達の視点を踏まえて、障害について科学的な理解を深め、事例を読み解きながら障害の特徴を理解する。
２．障害児保育の実際を学び、障害児への支援の内容や方法について検討することができる。
３．インクルーシブ保育において、子ども同士のかかわりの大切さを理解し、多様な子どもたちが安心して過ごせる保育環境について理解を深める。
４．保護者への支援や関係機関との連携について基本的な理解を深め、今後の課題を考えることができる。

授業計画【スクーリング科目（メディア授業)】

| 回数 | テーマ | 学習内容（教科書の章、参考資料など） |
|---|---|---|
| 1 | ０歳児の障害児保育（診断のついていない気になる子） | ①障害児保育での注意や大切にすることについて理解する。<br>（第１章）事例「ショウ」の保育事例を読み解く<br>①P11 アクティブラーニング１：保育の留意点や方法を学ぶ。<br>②P13 アクティブラーニング２：保護者とのかかわりを学ぶ。<br>③P16 アクティブラーニング３：保育内容を学ぶ。<br>④０歳児の子どもの基礎的な発達に関する理論を踏まえて、事例「ショウ」の保育事例を読み解き、支援の内容や方法について学ぶ。 |

**保育学科通信教育課程＜メディア授業用＞**

| | | |
|---|---|---|
| 2 | ０歳児の障害児保育<br>（診断のついていない気になる子） | （第１章）事例「アキハ」の保育事例を読み解く<br>①P22 アクティブラーニング１：保育の留意点や方法を学ぶ。<br>②P22 アクティブラーニング２：保護者とのかかわりを学ぶ。<br>③P26 アクティブラーニング３：保育の留意点や方法を学ぶ。<br>④０歳児の子どもの基礎的な発達に関する理論を踏まえて、事例「アキハ」の保育事例を読み解き、支援の内容や方法について学ぶ。<br>⑤診断のついてない配慮の必要な子どもについて学ぶ。 |
| 3 | １歳児の障害児保育<br>（成長･発達に遅れのある子） | （第２章）事例「ミドリ」の保育事例を読み解く<br>①P47 アクティブラーニング２：保育の留意点や方法を学ぶ<br>②P55 アクティブラーニング３：保育内容を学ぶ。<br>③P59 アクティブラーニング４：保護者面談での保護者支援を学ぶ。<br>④１歳児の子どもの基礎的な発達に関する理論を踏まえて、事例「ミドリ」の保育事例を読み解き、支援の内容や方法について学ぶ。<br>⑤成長・発達に遅れのある子どもの特性と支援について学ぶ。 |
| 4 | ２歳児の障害児保育<br>（知的障害：ダウン症） | （第３章）事例「ココロ」の保育事例を読み解く<br>①P88 アクティブラーニング１：保育の留意点や方法を学ぶ。<br>②P95 アクティブラーニング３：保育内容を学ぶ。<br>③P102 アクティブラーニング４：保育の留意点や方法を学ぶ。<br>④２歳児の子どもの基礎的な発達に関する理論を踏まえて、事例「ココロ」の保育事例を読み解き、支援の内容や方法について学ぶ。<br>⑤ダウン症の特性と支援について学ぶ。 |
| 5 | ３歳児の障害児保育<br>（自閉症スペクトラム:コミュニケーションに障害） | （第４章）事例「コウ」の保育事例を読み解く<br>①P128 アクティブラーニング１：発達の留意点を学ぶ。<br>②P132 アクティブラーニング２：子ども同士のかかわりへの留意点を学ぶ。<br>③p139 アクティブラーニング４：保育内容を学ぶ。<br>④p142 アクティブラーニング５：保育者関連を学ぶ。<br>⑤３歳児の子どもの基礎的な発達に関する理論を踏まえて、事例「コウ」の保育事例を読み解き、支援の内容や方法について学ぶ。<br>⑥自閉症スペクトラム障害の特性と支援について学ぶ。 |
| 6 | ４歳児の障害児保育<br>（軽度発達障害:こだわりの強い子ども） | （第５章）事例「リク」の保育事例を読み解く<br>①P157 アクティブラーニング１：発達の留意点と保護者連携を学ぶ<br>②P160 アクティブラーニング２：保育の留意点と方法を学ぶ。 |

| | | |
|---|---|---|
| | | ③③p164 アクティブラーニング３：保育内容を学ぶ。<br>③P167 アクティブラーニング４：保育内容と留意点を学ぶ。<br>④４歳児の子どもの基礎的な発達に関する理論を踏まえて、事例「リク」の保育事例を読み解き、支援の内容や方法について学ぶ。<br>⑤発達障害の特性と支援について学ぶ。 |
| 7 | ５歳児の障害児保育<br>（注意欠如・多動性障害） | （第６章）事例「ソウタ」の保育事例を読み解く<br>①P186 アクティブラーニング１：保育内容の検討と保育者支援を学ぶ<br>②P190 アクティブラーニング２：保育の留意点を学ぶ<br>③P194 アクティブラーニング３：子ども同士のかかわりへの留意点を学ぶ<br>④p206 アクティブラーニング６：保護者とのかかわりを学ぶ<br>⑤５歳児の子どもの基礎的な発達に関する理論を踏まえて、事例「ソウタ」の保育事例を読み解き、支援の内容や方法について学ぶ。<br>⑥ADHD の多動性の特性と支援について学ぶ。 |
| 8 | ６歳児の障害児保育<br>（注意欠如・不注意） | （第７章）事例「スイ」の保育事例を読み解く<br>①P223 アクティブラーニング２：子ども同士のかかわりへの留意点を学ぶ。<br>②P226 アクティブラーニング３：:保育の留意点と方法を学ぶ。<br>③６歳児の子どもの基礎的な発達に関する理論を踏まえて、事例「スイ」の保育事例を読み解き、支援の内容や方法について学ぶ。<br>⑤ADHD の不注意の特性と支援について学ぶ。 |

| | |
|---|---|
| アクティブラーニング | 各回、事例を交えた構成となるため、CoLS において、教員・学生間とのコミュニケーションツールである「フォーラム」に積極的に活用すること |
| 事前事後学習 | 各回にて、「確認テスト」を課すので必ず取り組むこと |
| ICT の活用 | メディア授業による開講のため、別に案内する「メディア授業について」を参照しながら、ＩＣＴを活用した積極的な受講に努めること |